

# Monthly Report

Vol.60 / 2011 Apr.

## 町花「さくら」が柴田町を彩る



柴田町は、日本さくら名所100選に選ばれた「船岡城址公園」と「白石川堤一目千本桜」があり、東北有数の桜の名所として知られています。「さくら」は町花となっており、開花時期には「しばた桜まつり」が開催され、毎年20万人を超す花見客で賑わいます。震災の影響により今年の「しばた桜まつり」は中止とはなりましたが、訪れた花見客の心を和ませ、被災の疲れを癒してくれました。



### 目次

町花「さくら」が柴田町を彩る	1
勝田教授、荒井教授から報告	2
災害復興ボランティア	4
ハワイでも支援の輪	5
OBの竹之内 剛さんが災害ボランティア学生を激励	6
新任教員スタートアップ支援FDセミナー	7
全国大会での活躍	8

学生の活躍や、取り組みをご存知でしたら広報室までお寄せください。  
Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも可能な話題を提供していきたいと考えております。

本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、広報室までご一報ください。

#### 広報室

直通 0224-55-1802

内線 佐藤美保 256

土生佐多 200

伊東宏之 271

Email:kouhou@scn.ac.jp

## 学外で活躍される先生方

### 勝田教授が筑波大学に出向

#### < 勝田教授より >

4月1日から筑波大学に客員教授として出向しました。現在、筑波大学は、文部科学省からオリンピック競技大会において日本の国際競技力向上を推進することを目的とした「チーム『ニッポン』マルチサポート事業」の「研究開発プロジェクト」実施団体となっており、国内の大学、研究機関、民間企業と連携して、オールジャパン体制によるマルチサポート・システムを構築する幹事校となっています。私は、この事業推進のために（筑波大学が）設置したスポーツResearch & Developmentコアプロジェクトの主幹研究員（運営統括補佐）として活動しています。

また、4月1日より文部科学省技術参与（競技力向上担当）の任も拝命しました。昨年度、文部科学省は、今後の我が国のスポーツ政策の基本的方向性を示す「スポーツ立国戦略」を発表しましたが、私は、この戦略に関する活動についても関わっていくこととなっています。

筑波大学を拠点として、日本オリンピック委員会（JOC）、ナショナルトレーニングセンター（NTC）、文部科学省、そして国立スポーツ科学センター（JISS）等の活動にこれまで以上に深く関わることとなります。仙台大学で培った経験やネットワークを活かし、トップスポーツの発展に尽力できるよう頑張ります。

### 荒井教授がみどり台中学校校長に就任

今年4月から荒井龍弥教授が名取市立みどり台中学校の校長に就任しました。大学教授が公立学校の校長に就任するのは全国でも初めてのことです。4月19日（火）に行われた入学式には朴澤学長も出席し、お祝いしました。

#### < 荒井教授より >

宮城県教育委員会と仙台大学の連携協定により、4月1日名取市立みどり台中学校に赴任しました。この学校は生徒数642名、教職員44名という仙南地域では最大規模の創立14年目の若い学校です。高台にあり、地盤も強いのか、震災の被害はほとんどありません。海岸部との落差を感じています。県でも有数の進学校で、剣道やサッカーなど部活動も盛んです。本学卒業生も4人が教員として勤務しており、頼もしく心強い限りです。

生徒は4月18日から登校してきました。例年より10日遅れです。中学校の校長としてこれまでの専門領域（教授学習心理学）の成果を中学に還元しつつ、生徒を間近に見ながら授業の工夫のしどころを学び、本学学生に伝えて行きたいと考えていますが、まだ勝手がわからずうろたえる毎日です。中学生の顔つきはどこか幼いところも残し

つつ、大人びたところもあり、新たな刺激となっています。30余年ぶりの給食生活も、毎日の楽しみです。

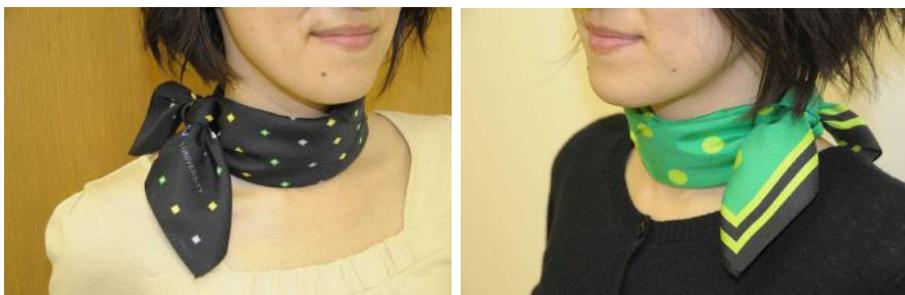
また、名取市中学校体育連盟の会長を仰せつかり、例年使用していた名取スポーツパーク（ナスパ）が震災で利用できないため、5月の市中学陸上競技大会の会場として仙台大学の陸上競技場をお借りすることにしました。赴任そうそう古巣(?)に泣きついた形となりました。学生の皆さんの協力も頂きながら、大会を成功させていきたいと考えています。どうぞよろしくお願ひします。近くにおいでの際はお立ち寄りください。

みどり台中学校校長室だより

<http://tt-arai.toypark.in/midoridai/menu.html>



## スカーフ2柄が新発売になりました



仙台大学オリジナルグッズにスカーフがあたらしく仲間入りしました。シルク100%で価格は3,500円です。売店(タカトモスポーツ)で販売しておりますので、是非お買い求めください。

## 全国から届いた支援の輪



本学の活動がホームページを通じて、支援を呼びかけたところ、全国の皆様からたくさんの衣類等の協力をいただきました。その中に、心温まるお手紙や絵なども添えられ、“福祉の原点”を省みるような思いです。少しでも被災者の方々の勇気となれるのではないかと考え、今回物資とともに送られてきた手紙数点を紹介（無記名）させていただきます。

<http://www.sendaidaigaku.jp/pdf/20110425.pdf>

なお、皆さまからご提供いただいた物資は、災害ボランティア学生が男女別・サイズ別に仕分けし、これまで亘理町・山元町・名取市・岩沼市・仙台市教育委員会にお届けしました。4月26日には津波被害を受けた東松島市や女川町の被災者を受け入れている美里町社会福祉協議会に届ける予定で作業を進めております。お寄せ頂いた皆様本当にありがとうございました。

<災害ボランティア事務局物資担当:大山教授より>



仙台大学ボランティアセンター御中

2011年4月16日

支援物資（衣類等）の送付について

拝啓 諸般お取り込み中の御事と拝察いたします。余震が続いておりますが、御地におかれましては無事お過ごしでしょうか。

さて、標記の件につきまして、インターネットで毎日新聞の記事を拝見し、4月8日ならびに15日に電話にて問い合わせをした者です。15日に貴センターご担当者様より物資の受入可能とのご回答をいただきましたので、下記の品物を同封にてお送りいたします。

物資はすべて未使用もしくはクリーニング済みです。1点ずつビニール袋に入れ、それぞれに品名・サイズ等のメモを同封してあります（洗濯済みのものは、クリーニング店が封入したビニール袋の一部を開封してメモを入れ、テープで再封してあります）。

衣類は既に届いている場所が多いかと思いつつ、子供用はサイズ合わせ等の問題もあるかと考え、また御地の今後の寒暖を想像して、少しでも選択肢があればとお送りする次第です。

実は我が家には子供がいないため、衣類の多くは家族の伝手でご近所から譲り受けました。また、洗濯の際は「そういう主旨なら」と、クリーニング店に料金割引してもらいました。このように本物資はいくつもの支援の志が集まったもので、私はその結節点の一つに過ぎません。私自身は本当に微力ながら、御地のお役に立てば幸いです。

今回の貴センターへのご連絡に際し、貴学のホームページを拝見いたしました。この度のご活動は「体育・スポーツ・健康に関わるあらゆる分野」「実学に根ざした広い教育研究領域の探求」という貴学ならではのものと感じております。物資仕分け・配送等、諸般ご多忙と思いますが、今後ともウェブ等でご活動に注目してゆく所存です。

末筆ながらこの度は心よりお見舞い申し上げますとともに、上何卒よろしくお取り計らい下さいますようお願いいたします。

敬具

## 学生・教職員が災害ボランティアとして活動

作業前



仙台大学では組織的なボランティア活動を通して、被災をして困っている方々のために役立ちたいと考え、賛同した学生と教職員が4月6日から津波被害の大きかった地区を中心に組織的に活動を始めています。

主な活動は、瓦礫の撤去・泥のかき出し作業で、上の写真は津波被害にあった小学校で行った

作業後

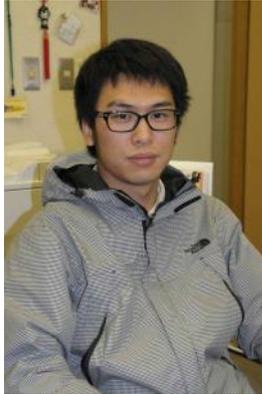


泥のかき出し作業です。震災前の「楽しい教室」を取り戻すために、学生・教職員が力を一つにして頑張っています。

14日からは避難所で生活する方々のエコノミークラス症候群予防のために、「健康づくり運動サポーター」による体操もスタートしました。

## 「思いやりは見える」を行動に移した留学生

～中国・吉林省からの留学生、唐志豪さん～



本学では震災後の3月15日に、留学生全員を一時帰国させました。多くの留学生は授業が再開する5月初旬に戻る予定です。そんな中、平成23年度に本学大学院を修了し、今年度研究生となった唐志豪さん(トウシゴウ/吉林体育学院 卒)は4月4日に再来日し、本学の災害復興ボランティアに登録。亘理町での瓦礫撤去・泥かき出し作業等に参加しています。唐さんは「今まで経験したことがない巨大地震

震を日本で初めて実体験し、この震災によって多くの日本人が被災し、つらい想いをされていることを理解していました。中国の両親には日本に戻ることを強く反対されましたが、いてもたってもいられず、日本に戻ることを決心しました」。公共広告機構(AC)のCMで放送されている「思いやりはだれにでも見える」という言葉が心に響いたそうで、「困っている人のために行動することが大事。被災された方々の生の声に、涙が出ることもあります。これからも自分ができることを「思う」だけでなく「行動」に移し、被災者をバックアップしていきたいです。」と話しています。

## エコノミークラス症候群予防のための体操指導もスタート

～本学の健康づくり運動サポーターが活躍しています～



4月11日から「健康づくり運動サポーター」によるエコノミークラス症候群予防運動指導もスタートしました。エコノミークラス症候群とは、避難所などの狭い空間で長時間、同じ姿勢を続けることによって下肢静脈中に血栓ができる症状で、肺に血栓が飛べば肺塞栓をおこす恐れがあります。「健康づくり運動サポーター」は月曜日と木曜日の週2回、亘理町の避難所でエコノミークラス症候群予防運動の指導を行い、日々の軽運動実施と十分な水分摂取を呼びかけていきます。

「健康づくり運動サポーター」とは・・・仙台大学の人材養成プログラムの1つで、地域住民の健康づくりに学生を教育の一環として参加させ、そこで実践力を養った学生が、再び市町村事業の指導者として還元されるという特徴をもつ仙台大学独自の取り組みです。詳細はこちら(<http://www.scn-gp.jp/kensup/>)をご覧ください。

## (株)アドリベラルよりビブス300枚提供



仲野教授を通し、(株)アドリベラルよりビブス300枚が提供されました。

この企業は被災者や救援者に商品の無償提供を推進している企業で、仲野教授が仲介に入り「がんばろう!東北 仙台大学」の文字が入った赤色のビブスを提供くださいました。

被災地では本学関係者その他のボランティアの方との区別が付きにくいいため、このビブスを活用し、今後の活動に当たって大切に活用させていただきます。

## (株)GANBAXよりTシャツ7000枚、ジャージ5000枚提供



組織的に災害ボランティアを行う本学の取り組みに賛同していただいた(株)GANBAXよりTシャツ7000枚、ジャージ5000枚を提供いただきました。(株)GANBAXは本学のジャージの取引業者であり、伊達なSPORT PROJECTの協賛企業でもあります。この物資をサイズごとに仕分けを行い、主に津波被害にあった方の避難所に届けました。

### 藤田雅士さん(院2年)



仕分け作業のリーダーを務めた藤田雅士さん(大学院2年)は、「巨理町鳥の海は大学に入学してから海水浴や足湯などで楽しんだ思い出の地。先週状況を見に行き、変わり果てた情景に涙が止まりませんでした。青の光景を見ると自分も被災者だと思っていたものの、自分なんてたいしたことないと感じました。今回、(株)GANBAXのご好意で頂いたTシャツ、ジャージは、学内でサイズ毎に仕分けをすれば被災者の方々への提供もスムーズにいくと思うので、自分ができることをやり、被災者の方が少しでも喜んでもらいたいです」

## ハワイでも支援の輪が広がっています



UNIVERSITY  
of HAWAII®  
MĀNOA

ハワイ州立大学アウトリーチカレッジ・プログラムディレクターのジュディさんより、ALOHAの文字に日の丸のついたTシャツやステッカーが届きました。

これは現地(ハワイ・オアフ島)にあるドンキホーテで震災後、急遽作成した日本を支援するためのグッズだそうです。

東日本大震災のニュースが世界中を駆け巡ると、ハワイでも日系人を初めとして多くの方々支援に立ち上がり、こうした商品を作って販売し、その利益の一部を日本への義援金とする動きが広がっているとのことでした。

海を越え、本学が連携している大学を中心に、世界各国からあたたかい支援の手が差し伸べられています。



UHアウトリーチカレッジ 新学部長のウィリアム・チヌマ氏とプログラムディレクターのジュディ・エンジング氏

## OBの竹之内 剛さんが災害ボランティア学生を激励

昭和61年度卒 奈良県上牧町立上牧第二中学校教諭



4月25日(月)に本学OBで奈良県上牧町立上牧中学校に勤務されている竹之内剛先生が来学し、災害ボランティアで活動している学生を激励くださいました。竹之内先生は被災した方々を願いを叶えることでバックアップしようと、『ねがいごと、100こ。プロジェクト』(http://ameblo.jp/negai-come-true/)活動に参加し、願いごとを叶えるために22日から25日まで宮城県内の被災地を回られています。22日に恩師である宍戸教授の元を訪れた際に、仙台大学の学生・教職員が組織的に災害ボランティア活動をしていることを知り、是非、激励したいとのことで実現しました。竹之内先生は「皆さんの活動は被災した方々の心の栄養、魂の栄養となります。「支えよう僕たち私たち」という思いで頑張りましょう」と話されました。

### 竹之内剛さん

「地震当日(3/11)、私は岩手にいました。大学の時によく遊びに行った安比高原スキー場(岩手県)に自分の子供を連れて行きたいという長年の夢を叶えて地



震当日の朝に仙台空港に降り立ち、安比でスキーを楽しんでいました。2本目を滑っている時に地震がおき、ニュースで自分たちが数時間前に降り立った仙台空港が津波の被害に遭ったことを知り、ゾッとしたことを覚えています。3日後に秋田経由で奈良に帰りましたが、自分たちだけ安全な場所へ戻っていくことがたいへん忍びなかったです。

「自分が被災者のために何ができるかを考えていた時に、『ねがいごと、100こ。プロジェクト』の活動をテレビで見、参加することを決めました。「被災したからといって夢をあきらめる必要はない」という言葉に共感したからです。

職場には理由を話して活動のための休暇をとり、22日から25日まで宮城に滞在し、気仙沼中学校男子バスケット部の「バスケのボールの試合がしたい」という願いを叶えるためボールをプレゼントして試合を開催したり、「前日にももらった時計が津波に流されてしまった」という方の願いを叶えようと業者をかけあい、協力を得てプレゼントしたり、被災地を回って話しを聞いてまわりました。

願いごとと全部は叶えられませんが、水に1滴の塗料を垂らすと水面に広がるように、自分の行動がほんの少しの誰かの役に立つ栄養になってもらえればよいと思っています。

久しぶりに母校に来ましたが、後輩たちが災害ボランティアとして率先して頑張っている姿を見て、たいへん誇らしく感じました。また、仙台の同期たちも宮城県でボランティア活動するための車の手配や、自宅に泊めてくれるなどサポートしてくれました。仙台大学の卒業生であることを誇らしく思い、今回来てよかったと心から感じています。」

この日、竹之内さんは奈良に戻りましたが、「必ずまた来ます」と話されていました。

『ねがいごと、100こ。プロジェクト』についての詳細は下記のブログをご覧ください。(テレビで取り上げられた活動等も紹介されています。)

<http://ameblo.jp/negai-come-true/>



## 平成23年度 第1回新任教員スタートアップ支援FDセミナー開催



4月27日、A棟2F大会議室において新任教員スタートアップ支援FDセミナーが開催されました。このセミナーは、教育企画委員会の教員が中心と

なって、毎年企画開催しているものです。仙台大学の教学経営や、核となる3つのポリシー、新カリキュラムとあわせて今年度より導入するCAP制とGPA（評価指標）、学生指導や教務等の諸手続きなど、それぞれ専門の教職員より説明がなされました。セミナーの最後には、フリートークの時間が設けられ、グループごとに新任の先生や既存の先生との間で色々なコミュニケーションを図っていただきました。テーブルを超えて自然な対話や意見交換がなされ、参加した教員同士の交流が和やかにかつ活発に行なわれました。

## 大学全体でエコの取組にひきつづきご協力を



### プラスチックごみと、紙パック収集開始について

柴田町は、平成23年4月より、プラスチックゴミ分別と、牛乳パックやジュース飲料の紙パックの資源回収を実施することとなりました。大学構内各所のゴミ箱には、あらたにプラゴミ分別ボックスと紙パック分別ボックスが設置されましたので、資源ごみの分別に、積極的にご協力いただきますようお願いいたします。不要な紙類もまるめたり、ちぎったりせずに、今まで同様にコンテナへお願いいたします。機密書類はシュレッターにかけてください。



### エコ（ペットボトル）キャップ収集について

3月8日に、NPO法人エコキャップ推進協会に対して第8回目となるペットボトルキャップの送付を行ないました、今回送付した分を合わせると送付数累計は100,400個になりました。これは791kg CO<sub>2</sub>の発生を抑制し途上国の子ども125人分のポリオワクチンを接種させることができる量に相当します。

学生の集うKMCHの自動販売機前に「協力ボックス」をつくり協力を呼びかけ集まったペットボトルキャップ1600個を送付したのを契機に、学内全ての建物内にも協力をよびかけ活動を推し進めています。

NPO法人エコキャップ推進協会はペットボトルキャップの再資源化することで、焼却処分が発生するCO<sub>2</sub>を削減し、資源化で得た売却益で「世界の途上国の子どもたちにワクチンを寄贈し救済する」ことを目的とした活動を実施しています。エコキャップ推進協会HPで「仙台大学」からの送付分実績が確認できます。

<http://ecocap007.com/>

今後ともなお一層の資源化へのご協力をお願いいたします。



## 漕艇部が第60回お花見レガッタで奮闘

4月3日（日）に戸田漕艇場（埼玉県）で行われた第60回お花見レガッタに出場し、女子ダブルスカルで優勝、男子エイトで3位に入る活躍を見せてくれました。震災から間もないため、部員が終結したのは大会1週間前という非常事態で、素晴らしい結果を残せたのは、日頃からチームが結束している証といえます。今シーズンの活躍にも期待が持てます。



## 全日本体操競技選手権大会(個人総合)

4月23、24日、代々木第一体育館（東京都）において体操の個人日本一を決する「第65回全日本体操競技選手権大会（個人総合）」が行われました。この大会は、世界選手権やユニバーシアード大会などの世界大会代表の第1次選考会ともなっており、本学体操競技部の6名と卒業生3名が出場しました。この大会で上位36名は2次選考会となるNHK杯（6月開催）への出場権が与えられます。

本学関係者では石原大さん（体育学科4年）が20位、亀山耕平選手（平成22年度卒 / 徳洲会）が32位となり、第2次予選会へ進むこととなりました。2人はユニバーシアード大会へのチャンスが十分に残っているので頑張ってもらいたいものです。

また、植松鉦治選手（平成20年度卒 / コナミ）は右膝前十字靭帯を損傷し、今季の復帰は絶望と報道されていますが、2012年ロンドン五輪では、その雄姿を見せてくれることに期待したいと思います。

## 永井裕子さん・仲田助教が柔道の全日本選手権大会に出場



仲田助教・前部長の須山先生・永井さん  
写真：仙台大学柔道部のブログより

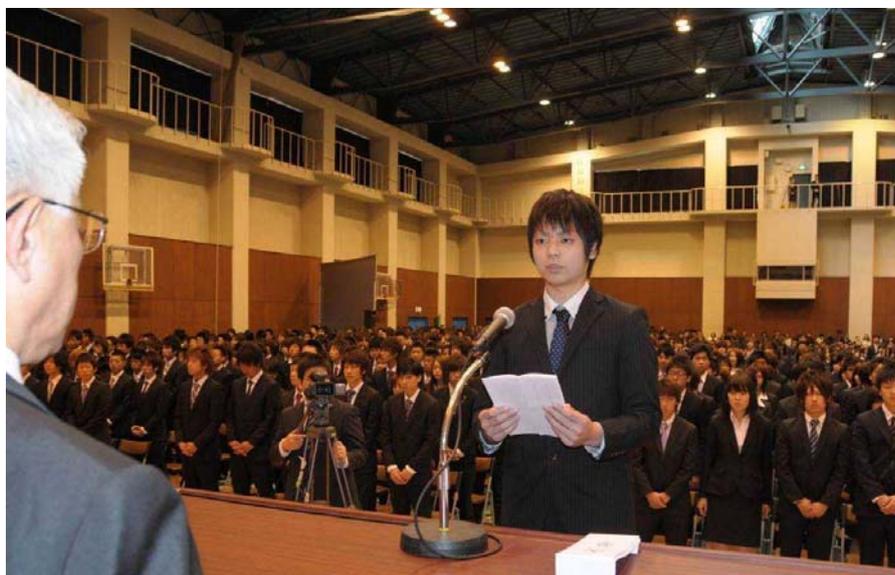
4月17日（日）に行われた第26回皇后盃全日本女子柔道選手権大会（体重無差別）に東北地区予選会を制した永井裕子さん（体育学科4年）が東北地区代表として初出場しました。惜しくも初戦で敗れたものの、この権威ある大会に本学在学中に出場したのは永井さんが初めてのことです。（昨年、OGの田中美衣選手が社会人1年目で出場）

男子の全日本柔道選手権大会は4月29日（金）に開催され、同じく東北地区予選会を制した仲田助教が出場しました。仲田助教がこの大会に出場するのは3年前に関東代表として出場して以来、2度目のことです。初戦で敗れはしたものの被災地に勇気を与える戦いとなりました。

# Monthly Report

Vol.61 / 2011 May.

## 平成23年度 体育学部・大学院 入学式



朴沢学園の創立記念日である5月6日に「平成23年度 第45回体育学部・第14回大学院入学式」を執り行いました。未曾有の大震災により、約1ヶ月遅れての入学式となりましたが、体育学部647名（体育学科385名、健康福祉学科101名、運動栄養学科82名、スポーツ情報マスタイア学科41名、現代武道学科38名）、編入生10名（体育学科4名、健康福祉学科4名、運動栄養学科2名）、大学院18名（内、留学生8名）の新入生を迎えることができました。

理事長・学長告示では「仙台大学は、人類社会を形成する「人間」そのものについて、スポーツを典型的な場面とする身体活動や身体機能の面から、これを「学びの対象」としています。入学された皆さんには、「自らのために」だけではなく、津波の犠牲となった先輩達も含め、常に、全世界において共に主体的に取り組んでいる若い世代の一員として、当事者全体のためという自覚を持って、仙台大学での学生生活を大事に過ごして頂きたい。」と述べられました。

入学生代表宣誓では、今年度新しく開設した現代武道学科の水野寛仁さん(福島県立白河旭高校卒)が「この災害を体験した私たちの行動が、今、正に問われる時です。千年に一度とも言われる未曾有の大災害という困難を乗り越え、私たちは新しい仲間たちと共に、体育・スポーツ、健康に関わる諸科学を探究し、これからの時代の担い手となるよう身体を鍛え、教養を深め、心を磨き、豊かな学生生活を送るよう努力して参ります」と宣誓しました。

### 目次

平成23年度入学式	1
第5体育館が完成	3
デンマーク国民学校だより	4
国際交流	6
体育施設管理士認定証 永年勤続者表彰	7
東日本震災関連 医療・健康サポート	8
オリンピックで悲願のメダル 獲得を	12
学生の活躍	14

学生の活躍や、取組みをご存知でしたら  
広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関  
にも旬な話題を提供していきたいと考えて  
おります。

本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、  
広報室までご一報ください。

#### 広報室

直通 0224-55-1802

内線 佐藤美保 256

土生佐多 200

伊東宏之 271

Email:kouhou@scn.ac.jp

## 入学式の様子



## 運動栄養サポート研究会考案 お弁当配布

今年も入学式で運動栄養サポート研究会の学生が考案したお弁当  
おい  
(美味(おい)美味SHI-BATAはなまる弁当)  
を配布し、大変好評でした。



## 大学院オリエンテーション(懇親会)

入学式後、15時30分より学生食堂において大学院のオリエンテーション(歓迎会)が開催され、大学院の新入生・2年生および朴澤学長、丸山研究科長をはじめとする大学院関係教職員が出席しました。大学院生全員がそれぞれ挨拶し、陸上・やり投げの佐藤寛大さんは「私は本気でロンドンオリンピック(2012年開催)出場を狙っています。実現させるために大学院でやり投げについての動作研究をしていき自己ベストの大幅更新を狙います」と力強く述べました。佐藤さんは先月行われた世界選手権代表選考会日本グランプリシリーズ第1戦で第2位となっており、活躍が期待されています。



## 第5体育館が完成



震災の影響により完成が遅れていた第5体育館の建設工事が終了し、5月16日（月）に鹿島建設㈱より大学に引渡されました。この体育館はバレーボールコートとバスケットボールコートと3面同時）できるアリーナと、3階建ての研究棟を有しています。本学で最大のスペースを持った体育館となり、入学式や卒業式など大きな行事での利用が期待されています。なお、第5体育館脇で整備しているテニスコートは6月中旬に完了する予定です。

### <アリーナ>



格納可能な観客席240席と天井や壁面に情報収集のためのカメラ設置が可能。ボタン1つで演台・スクリーンの格納が可能で、音響設備も整っている。なお、研究棟の2F、3Fからもアリーナ内が一望できる。

### <研究棟>



エントランスホールとGTセンター



ロッカールーム



シャワールーム



大会議室



教室



演習室

### <その他>



玄関に設置している模型とInformationボードにも第5体育館が追加されました。

## デンマーク国民学校(小・中学校)だより ①

准教授 高橋まゆみ

東日本大震災から2か月が過ぎましたが、デンマークから、お亡くなりになられた方々にお悔やみを申し上げ、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

3月14日(月)の朝、教育研究のために毎日通うオーデンセのプライマリースクール(小・中学校)に到着すると、校長先生はじめ教師たちから日本の家族、仙台大学の教職員・学生の安否を問われました。デンマークに滞在して7か月を過ぎたこの日、日本で一体何が起きているのかと非常に心配しながら迎えた9年生(日本の中学3年生)の英語の授業。生徒たちは一様に“I am sorry! I am very sad!”と悲しい顔で日本のことを心配していました。そして、日本で起きた大震災の様子について生徒たちと話し合い、このクラスの生徒全員が日本の子供たちのことや学校のことを心配しながら、英文で震災見舞いのメッセージを書いてくれました。その中からのお見舞い文を紹介します。

Dear student of Japan.

I am sad to see the catastrophe that has stricken your country. It is sadness me to see all the suffering. I can't possibly imagine what you are going through. I hope that you will come out of this situation stronger and healthier, both as a person bad also as nation. I hope for a better future, for you, and the people around you.

Love, Christian F. Rasmussen

### <北欧の子供と学校>

北欧の冬は鉛色の空が覆い、昨年11月頃から今年3月下旬頃までほとんど太陽を見ることがありません。例年のない寒さと雪の多かったデンマークの冬は長く感じました。しかし、デンマークの学校の子供たちは元気に自転車に通学してきます。低学年の子供たちは、親に教室まで送られながら登校します。いったん学校に入ると温かい雰囲気が待っているので、少々寒くても目をキラキラ輝かせてやってくる子供が多いという印象です。あたりはまだ暗くマイナス10度の気温の中、朝7時30分から始業時刻8時までの30分間、校長先生は正門前に立ち、子供たち一人一人に“God morgen.(グッモーニング)”と挨拶し笑顔で迎えます。

この学校は、童話作家ハンス・クリスチャン・アンデルセンの生誕地オーデンセ市内にある

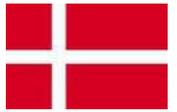
プライマリースクールの一つで、生徒数およそ700人の中規模校です。日本の小、中学校にあたる年齢の子供たちが同じ建物の中で学んでいます。日本の学校と違うのは「0学年クラス」「10学年クラス」があることです。デンマークの教育制度は、0学年～10学年まで用意されています。0学年は6歳児のクラスで幼稚園クラスとも呼ばれ、義務教育です。デンマークでは「義務教育」ではなく「教育の義務」と呼ばれます。1学年生は日本の小学生と一緒に7歳児です。0学年で学校に慣れてから1学年を迎えますが、学校に慣れない児童は0学年でもう一年過ごすこともできます。9学年生は日本の中学3年生にあたりますが、9年生を終える段階で学力不足、または社会(高校進学と職業別専門学校)に出るのに情緒的に不安で幼さがあると判断した場合には、10学年生で、もう一年勉強して社会に出るための力を準備することができます。デンマークでは、高等学校も職業別専門学校も日本に比べ大人として扱われる学校なので、担当教員は生徒と何度も面接をして生徒の現状と可能性を判断するため、特に2月～3月は本当に忙しい時期になります。教育の特徴は一クラス28人編成、教師と生徒の間での対話形式による授業展開で積極的に質問できる雰囲気があります。



ロースンゴー国民学校の9年生

## デンマーク国民学校(小・中学校)だより ②

准教授 高橋まゆみ



### <子供の教育とアンデルセン童話>

皆さんはアンデルセンの童話を一度は子供の頃頃読んだことでしょうか。「みにくいあひるの子」「マッチ売りの少女」などは日本でよく知られていますね。

学校でも家庭でも、アンデルセン童話を読み聞かせる場面を多く見かけます。童話を通して、人との付き合い方や助け合って生きることの大切さを学んでいきます。

また、第8週(2月21日～27日)は、デンマークの学校は冬休みとなるので親に伴われて南の国へと出かける子供も多いようです。アンデルセンは「旅は人生なり」という言葉を残しました。この言葉を小さい子供の頃から耳にしてきた子供たちは、親と旅に出る機会を多く持つことを大切に、学校の授業だけでは学べない自然環境や社会生活などについても冬休みなどの休み期間を利用して学びます。

### <子供のからだ作りと自然教育>

積もった雪も消え4月になると「復活祭」の連休が1週間ほどあり、この時期にも人々は南の国へ出かけることがよくあります。復活祭を見計らい、待ち焦がれていた木々の芽が一斉に吹き出すのです。太陽が顔を出す日も多くなり子供たちの顔も明るく輝きだします。

授業も屋外での時間が増えてきます。特に低学年の子供たちは、屋外で学べるよう授業が配慮され、幼稚園の場合は、森の中で木々や草花に触れて遊びます。屋外に出る前に体育館で平均台などを使い体のバランス感覚を体で覚えさせ、その後



フォレストスポーツ幼稚園における2歳児のアクティビティ

実際に森林の中に入って冬に倒れた木の上を歩いたり、倒れかかった一本の木をロープを使って倒し、枝葉を切り落とす作業(プロジェクト)をしたりと自然環境の中での実践教育を徹底しているのが分かります。

5月に入ると森の緑もより鮮やかになり、春の陽光を照り返しながら大きな風車が回転しています。原子力発電設備が皆無なデンマークは全消費

電力の約20%を風力で発電しています。デンマークは2050年までに全電力をグリーンエネルギー(風、太陽、地熱等)で賄う計画でいます。9年生の物理・生物・化学を総合した授業では、急ぎょテーマを変更し、今回の日本の原子力発電の様子を教師が説明しながら、生徒たちは原子力発電のメカニズムとそのリスクについて学びました。

### <卒業試験の意味>

卒業試験は、デンマークの国民学校法に定める内容をクリアできたかどうかを確認する試験です。デンマークの義務教育(教育の義務)は、保護者と協力して、この国に必要な国民を作る教育をすることから「国民学校」(フォルケスコレ)と呼ばれます。

生徒たちは、5月～6月上旬にかけて、教科の試験、他校の教員の前でのプレゼンテーション(口頭試問)を行います。生徒は複数の学校と複数の教員による公平な試験をクリアし、卒業パーティに参加するのを楽しみにクラスメートと仲良く勉強しています。試験期間といっても生徒たちはむしろ楽しそうな表情で、先日、私の担当した9年生のクラスの女子生徒も私を見かけると英語で話しながら、ちょっとしたコミュニケーションを交わします。コミュニケーション能力や他の国や文化とどのように協力してうまくやっていくかなどが問われる試験です。生徒たちが街に出ても日々実践的に学んでいるのが印象的です。

今回は、自然の中で生き生きと学ぶ国民学校の子供たちを通して、デンマーク便りをお送りいたしました。



デンマークの風景 左：菜の花畑、右：風車

## 瀋陽師範大学創立60周年記念式典に朴澤学長が出席



5月21日(土)に瀋陽師範大学(中国)で創立60周年記念式典が大々的に執り行われ、朴澤学長と同大学卒で講師も勤めている馬助教が招かれ出席しました。瀋陽師範大学と本学は平成20年5月に国際交流協定を締結し、互いの大学で学生が学んでいます。



## 台東大学と「国際交流促進に関する合意書」締結



5月13日(金)に、佐藤滋学長補佐、佐藤幹男教授、藤原徹准教授の3名が台東大学を訪問し、「仙台大学と台東大学の国際交流促進に関する合意書」の締結を行いました。台東大学と本学は2006年に国際交流協定を締結し、学生の交換留学や教員交流を行っています。同日に佐藤学長補佐が東日本大震災の被害についての講演を行ないましたが、津波や原子力発電所について関心が強いようで、聴講者から数多くの質疑が出されました。

## タイ王国シーナカリンウィロート大学からの留学生

5月11日(水)国際交流提携大学のタイ王国シーナカリンウィロート大学から交換留学生2名が挨拶のため学長室を訪れました。

2人は9月末までの半年間、学部の科目等履修生として授業を受講する予定です。大学内で見かけた際は、是非お声掛けください。

- 左 Ms.Maneenoot Kanantai (マネーノート・カンタイ)
- 右 Mr. Theerasuwat Watanasak (テーラスワト・ワタナサク)



## 台東大学から日本の復興を願った千羽鶴

本学が国際交流協定を締結している台東大学から日本の復興を願い、千羽鶴を頂戴しました。これは、2月28日～3月28日に、同大学に短期留学していた永井希（体育学科4年）が帰国する際に黄先生から「日本の復興とみなさんの安全を願っています」という言葉とともに託されたものです。日本での長期留学経験をお持ちの黄榛芬先生が、日本の伝統文化である折り紙を同大学の幼児教育学系で学ぶ学生とともに日本の復興を願って丁寧に折り上げてくださいました。海外からのお心遣いに変感謝いたします。

千羽鶴は学生支援室ボランティアセンターに飾られていますので、ご覧ください。



## 第5回 仙台大学体育施設管理士認定証授与式



5月25日（水）A棟大会議室において体育施設管理士認定証授与式が執り行われ、朴澤学長より合格者70名へ認定証が手渡されました。

体育施設管理士資格とは、体育施設の維持管理や運営に必要な知識技能の習得と体育スポーツの振興に寄与する「指導者」の養成を目的とし、

（財）日本体育施設協会から付与されている資格です。

本学においても文科省が打ち出した学校校庭の芝生化を見据え、第二グラウンドに天然芝を植栽し、ラグビー部、アメリカンフットボール部などのサークル活動で使用するとともに芝の維持管理をすすめているところです。今年度後期の授業からも、新たに「スポーツターフ管理概論Ⅰ・Ⅱ」を開講し授業を通じた教育・研究活動へのあらたな取組が企画されています。

授与式では、学長から「体育施設管理士は在学中に取得できる資格であることから、教員や指導者をめざす皆さんにとっても有用な資格のひとつです。社会に出る前に得た専門知識を活かした芝の管理など、学内アルバイトなどのしくみを徐々に整えていきたい。」と期待を込め話されました。

## 永年勤続者表彰



5月11日（水）に法人事務局において永年勤続者表彰式が執り行われました。

この表彰は、本学園に教職員として25年在職した方へ贈られるもので、今年は庶務課の伊藤弘行課長と予算管理課の只野健一課長の2名に表彰状と記念品が贈られました。

※写真提供 法人事務局財務課 日野職員

## 女川町・美里町での医療・健康サポート



健康づくり運動サポーターは毎週木曜日、女川町と美里町の避難所を巡回し、エコノミークラス症候群予防のための活動を実施しています。5月19日には医師の橋本教授、看護師の鈴木職員（健康管理センター）、健康づくり運動サポーターの岩垂新助手と伊藤良平さん、小熊理恵さん（共に体育学科4年）の5名が避難所を訪れました。

はじめに東松島町の被災者を受け入れている美里町の南郷体育館を訪問。ここでは医師でもある橋本教授と看護師の鈴木職員が避難者の血圧を測定。体の不調を訴える方には塗布薬の処方も行っています。健康づくり運動サポーターは体育館中央のスペースに希望者を集めて運動指導を行いました。学生が来るのを毎回楽しみにしてくれている方もおり、会話を楽しみながら30分程度、軽運動で体を動かしました。その後、女川町の避難所2箇所でも活動を行いました。



### 活動に参加した伊藤良平さん（体育学科4年）



今回の震災で献身的に活動する自衛官の姿を見て、自分も困っている方々の力になりたいと思い、自衛官へ進路を変更しました。健康サポート活動に参加しているのも、自分の行動が少しでも被災者の健康や笑顔の源になってくれればと思うからです。実際に活動すると、逆に被災者の方々から力を与えられている気がします。今後も自分が出れる範囲で被災者を支援していきたいと思っています。

### 女川町役場職員 佐藤誠一さん（11回生）



女川町の職員には私を含めて4名の仙台大学卒業生が在職しています。今回、女川町の津波被害は甚大でしたが、自衛隊や災害ボランティアの方々の協力にたいへん感謝しています。仙台大学も女川町や他の被災地で活動していることはたいへん感心しています。仙台大学卒業生4名は頑張っていますので、皆さんによりよくお伝えください。

### 美里町社会福祉協議会の浅野恵美さん 平成20年度春季仙台大学シニアカレッジ受講生

橋本教授には仙台大学で行っている美里町の高齢者を対象とした健康教室「みさと元気塾」で8年間ほどお世話になっています。またレクリエーション協会の方で仲野教授や小池教授にも永年お世話になっています。このご縁で仙台大学の先生・学生の方々に来ていただくことが出来て大変感謝しています。



### 「イケメンズ」も活動に参加



5月26日の活動には、宮城県を拠点に音楽活動をしているバンド「イケメンズ」同行し、体操を一緒に行ったほか、歌も披露していただきました。これは、健康づくり運動サ

ポーターの活動撮影を委託しているTBCビジョンを介して、イケメンズから「仙台大学の方と一緒に避難所を回り、自分たちに出来ることを何かしてあげたい」という申し出があつて実現したものです。イケメンズのプログでも紹介されています。↓↓↓

<http://blog.livedoor.jp/yohei8828/archives/51670075.html>

<http://blog.livedoor.jp/yohei8828/archives/51670207.html>

## 地震で被害のあった施設がほぼ復旧

震災で被害のあった学内施設の改修工事が着々と進み、温水プール以外の施設は使用可能となりました。色テープが貼ってあるA・B・D・F・E棟の壁面タイルは土台から浮いている箇所ですので、大きな余震が来た際にはご注意ください。



<タイルの破損・うねり>



<敷地複数個所のアスファルト割れ>



<自動販売機前の陥没>



第2体育館



第1体育館



A棟南側入り口

## (株)神戸製鋼所様より、支援物資を頂戴しました

5月7日（土曜日）、(株)神戸製鋼所にご勤務されている、本学OB 門脇 好幸さん(平成元年卒19回生)が、朴澤学長の元を訪れ支援物資の軍手とマスクを手渡されました。本学から派遣しています、教職員・学生の災害ボランティア活動を実施します際に有意義に使用させていただきます。ご支援ありがとうございました。



## 震災見舞いのための視察

### 文部科学省からの視察



5月18日(水)に文部科学省スポーツ・青少年局スポーツ振興課と高等教育局私学部私学助成課が

来訪しました。被害のあった施設を視察されたほか、スポーツ・青少年スポーツ振興課の方々には「スポーツによる復旧・復興プラン」策定のために宮城県内の学校やスポーツクラブ、避難所等を現地視察しており、その工程で被害地の中にある唯一の体育大学である本学にも立ち寄られ、本学教員との意見交換も実施されました。

私学助成課の方々への対応は法人事務局の齋常務理事がされ、本学の被災学を含めた被災状況を報告。被災学生に対する授業料減免等の取り組みを説明しました。被害の説明と意見交換を行ったほか、震災により被害のあった各施設を視察しました。

### 日本私立大学協会の小出秀文事務局長が来訪



4月30日(土)に日本私立大学協会の小出秀文事務局長が来訪し、東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)における本学の被害状況を視察されました。なお、今回の訪問に際して日本私立大学協会から義援金100万円を頂戴しました。ご支援に感謝いたします。

### 日本私立学校振興・共済事業団の河田悌一理事長が来訪



4月25日(月)に日本私立学校振興・共済事業団の河田悌一理事長が来訪し、東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)における本学の被害状況を視察されました。この時期は修繕工事の最中で、鹿島建設担当者の説明を受けながら体育館や室内プールなどの主要施設の被害状況を視察されました。

### 3.11津波被害で部活動の練習場が確保できない石巻市立大須中学校に体育館を貸出



宮城県で屈指のバレーボール強豪校であり、3.11津波被害により部活動の練習環境が確保できない石巻市立大須中学校が本学で部活動を行いました。

大須中学校は全校生徒21名と少数で、元々自前の体育館がなく、普段は校庭や近くにある大須小学校体育館を使用し練習を行っています。そのような環境下でも同校はバレーボールで毎年好成績を収めており、「生徒が少なく、体育館がなくても強い中学校」として県内でも有名です。しかし、3.11の津波被害により練習を行っていた大須小学校体育館が避難所となり、練習は校庭でしかできない状況となりました。石巻地区大会が迫っているにもかかわらず体育館での練習ができないということで、同校より佐伯教授を介し施設借用の申し出がありました。本学でも出来るだけバックアップしようと、坂根生涯学習センター長が統括して、女子バレーボール部の鈴木清和監督と男・女バレーボール部員、バドミントン部の永田秀隆監督と部員が練習相手を務め、第5体育館を使って同中学校バレーボール部（男子10名）と第1体育館を使ってバドミントン部（女子11名）を指導しました。昼食は運動栄養学科が計84人分の昼食を作り、パワーポイントを使って「疲労回復に適した食事」のミニ講座も開催しました。



#### 阿部祐樹くん（大須中学校3年）

バレーボール部は3年生7名、2年生3名です。普段は中学生同士の練習なので、大学生の指導を受けて練習することができ、大変充実した練習会になりました。やはり体育館での練習はケガを恐れずボールを追えるので楽しいです。石巻地区の大会は6月25日からはじまるので、今回教えてもらったことを実践し、優勝できるようにチーム一丸となって頑張ります。

※6月4、5日には高校体育連盟主催の体操・新体操競技のインターハイ予選会場として第3体育館5Fと第4体育館2F、練習会場として第2体育館も一部使用します。高校生が多数、大学構内に立ち入りますのでご承知おきください。



### 名取市中学校体育連盟の陸上競技大会



5月21日（土）に本学の陸上競技場で名取市中体連陸上競技大会が開催されました。これは、震災の影響で会場の確保に苦慮されていた名取市中学校体育連盟（会長：みどり台中学校 荒井龍弥校長→本学教授で3年間出向中）の要請で、本学陸上競技場での開催となりました。大会運営には藤井（邦）教授、横川教授、陸上競技部員が携わり、大会運営を支えました。

## オリンピックで悲願のメダル獲得を 体操の植松鉦治選手、柔道の田中美衣選手に応援旗



2012年に開催されるロンドンオリンピックに向けて各競技で代表選手選考会が始まりました。過去のオリンピックにおいて、本学卒業生のメダル獲得はなく、最高成績は2004年アテネ夏季オリンピック陸上競技1600mリレーに出場した佐藤光浩さんの4位入賞に留まっています。大学としてもオリンピックでのメダル獲得は悲願です。そこで、朴澤学長の提案によりロンドンオリンピック出場の可能性があり、出場すればメダル獲得の可能性が非常に高い、体操の植松鉦治選手（コナミ）と柔道の田中美衣選手（了徳寺学園職員）に対して大学から応援旗を送りました。「ロンドンオリンピック代表の座を勝ち取れ」と書いた国旗に学生・教職員・入学式参列者から寄せ書きを集めたものです。

なお、ロンドンオリンピック出場にはボートのの大元英照選手（アイリスオーヤマ）や陸上競技やり投げの佐藤寛大選手（仙台大学院1年）にも大きな可能性があります。

### 過去の夏季オリンピック出場者（本学OB）

- 2000年シドニー五輪  
小原 工選手      トライアスロン
- 2004年アテネ五輪  
佐藤光浩選手    陸上競技1600mリレー

教員では、

- 岡村輝一准教授  
1972年ミュンヘン五輪      男子団体金メダル
- 小西裕之准教授  
1988年ソウル五輪          男子団体銅メダル
- 阿部 肇 准教授      1984年ロサンゼルス五輪  
舵手つきフォア8位入賞

- 1988年ソウル五輪          男子エイト9位
- 1992年バルセロナ五輪      男子エイト13位

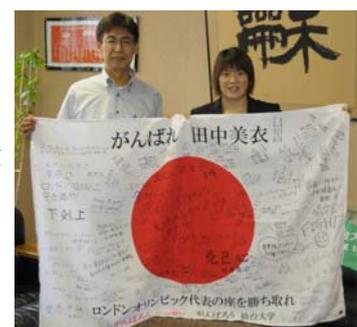
5月17日（火）には大学を代表して新助手の鈴木良太体操競技部監督が植松選手のもとを訪れ、直接応援旗を手渡しました。植松選手は5月の練習の際に右膝前十字靭帯を断裂しましたが20日に手術を受け、リハビリに入っています。体操競技もオリンピック選手選考会は既に始まっており、植松選手はこれまで積み重ねてきた大きな実績があるため、特例で選手選考会に出場することができる可能性があります。



5月20日（金）には田中選手が来学し、海外出張で不在の朴澤学長に代わり佐藤滋学長補佐から応援旗が手渡されました。

「世界選手権選考会では自分が勝って後輩たちを元気づけたかったが敗れてしまった。被災地から応援してくれる方々のためにも結果で恩返ししたい。柔道の選手選考は来年5月の全日本選抜体重別選手権。ロンドン五輪代表になるためには絶対に負けられない」

田中さんは今年から了徳寺学園大学職員、現役を引退した時に高校・大学の職員となるため筑波大学大学院1年に進学しています。



## アメリカにサッカー留学中の本多純子さんが一時帰国



女子サッカー部OGの本多純子さん（平成21年度卒）が一時帰国し、学生の練習に参加しています。本多さんは現在、米国のLaramie Country Community College（ラミー・カウンティ・コミュニティ・カレッジ）という2年制公立ジュニアスクールにスポーツ特待生として所属し、プレーしています。

「小学2年生からサッカーを始め、中学時代は3年間、東北選抜に選ばれ聖和学園高校に進学しました。仙台大学でも女子サッカー同好会に所属。しかし、当時は、初心者が大半で勝てるチームではありませんでした。そんな女子サッカー同好会に黒澤尚監督が2年生の時に就任し、チーム力は急速に上昇しました。経験者も年々集まり、翌年には同好会から部に昇格。4年次には東北地区で連覇を続けてきた山形大学と対等に戦えるチームとなっていました。この年、僅差でインカレ出場を成し遂げられませんでした。その翌

年、後輩たちが東北大会初制覇（インカレ出場）を成し遂げたと連絡をもらい、自分のことのように喜んだのを覚えています。

アメリカに行くきっかけとなったのは、「海外女子サッカーツアー」に参加したこと。このツアーは毎年企画され、米国で現地のサッカーチームと親善試合を行うもの。自分にとってこのツアーに参加すること自体がチャレンジでしたが、このツアー中に現地の大学監督から「うちでプレーしてみないか」との誘いを頂きました。このことを機に、女子サッカー世界ランク1位の米国でサッカーと向き合いたいと思うようになりました。米国でプレーできるのは2年間で、9月から2年目のシーズンに入ります。選手としてプレーするのは今シーズン限りと自分で決めたので、悔いを残さないプレーを心がけ、後輩たちに教え伝えられることをたくさん得たいと考えています。そして、日本に戻ったら指導者としての道を進みたいと考えています。指導者ライセンスも今以上の資格に挑戦したく、できれば仙台大学でコーチが出来たら最高です。

後輩に向けて・・・

私が4年生の時の1年生が3年生となり、たくましく、雰囲気も大人っぽくなりました。チームの選手層も厚くなり、インカレでも勝利できる力をつけてきています。後輩たちには、自分たちのサッカーに自信を持って全力でプレーすることと、逃げずにたくさんの方にチャレンジすることを期待しています。

## 平成23年度 ジュニア新体操教室開校式



5月25日（水）第4体育館において平成23年度ジュニア新体操教室開校式が開催されました。今年は震災の影響により1ヶ月遅れの開催となりました。開校式には大山部長、丹羽講師、事業戦略室の菊地課長が出席し受講生約80名の参加となりました。

開校式後には1回目の練習が行なわれ、楽しみな

ながら柔軟体操やリズム遊びがおこなわれました。また、練習を行なった後には今年の震災を教訓に、大きな地震に備えての避難訓練、保護者への引渡し訓練が行なわれました。新体操部学生の誘導のもと子どもたちが第4体育館から噴水前に集合し、点呼が行なわれ無事保護者への引渡しがなされました。



ジュニア新体操教室は、本学が地域貢献として平成6年からスタートし、毎年約100名の児童生徒が丹羽講師と新体操競技部の学生から毎週水曜日に新体操の演技指導を受けています。約6ヶ月の練習期間を経て、12月18日（日）に今年度の開催を予定している新体操演技発表会で華やかな演技を披露することを目標に毎週たのしく練習に励んでいます。

## 漕艇部／ボートの花形種目「エイト」で3位表彰台

～Japan Cup第33回全日本軽量級選手権大会～



漕艇部が5月20－22日に埼玉県戸田ボートコースで行われた「Japan Cup第33回全日本軽量級選手権大会」において4種目で入賞を果たしました。ボートの花形種目である男子エイトでは3位に入り、全日本インカレに向けての弾みとなったようです。

### 【結果】

男子エイト	第3位
男子ダブルスカル	第6位
女子シングルスカル	第4位
女子ダブルスカル	第6位

## 佐々木健さん(体育学科4年)のラップが配信



KICK-O-MANという名で音楽活動を行っている佐々木健さん(体育学科4年／和音同好会)がラッパー仲間<sup>たける</sup>の楽団ひとりと共に東日本大震災を歌った曲『NORTH EAST COMPLEX part3.11』が4月27日からネット配信され、話題となっています。

佐々木さんの自宅も津波により全壊。本震から被災地の現状を歌詞にしたためていたそうです。そんな折、知り合いを介して東京のレコード会社から「曲を配信してみないか」との声をかけていただき、電気も復旧されていない3月24日に石巻市内でボイスレコーダーへの録音アカペラで行われました。後に曲がつけられ4月27日に配信される運びに。「テレビ等で報道される内容は、被災者は地獄のような生活をしており、今後の生活を不安に思い途方にくれているなど、ネガティブ

な内容ばかりだった。実際は被災地にも笑顔はあったし、未来を見据え前を向こうとしていた。報道がネガティブな内容になるのは多少は仕方ないが、被災地の実際を皆に伝えたかった」と、話します。曲の後半は英語の歌詞となっていますが、これは海外の友人たちに伝えたかったメッセージだそうです。

佐々木さんはフィンランドカヤーンニ応用科学大学への短期留学を経験したあと、語学に磨きをかけたいと1年間語学留学しました。

「留学中知り合った海外の友人たちが日本のために募金活動をしたり、食料を送ってくれたりと心配して電話をかけてきてくれた。世界中から大きな勇気もらった。そんな友人たちに自分たちは前を向いて歩んでいることを伝えたかった。」

と、話してくれました。

販売はコストをかけないためCD販売はせず、ネット配信(1曲150円/iTunes store/OTOTOY/Amazon/HIPHOP DL)のみ。5月8日からはプロモーションビデオも配信されている。ボイスレコーダーにアカペラで録音した時の様子はYOUTUBEでも配信されている。

# Monthly Report

Vol.62 / 2011 Jun.

みなさんの心がけが大きな節電効果に



**電気は少なめ、  
元気は多めで、  
営業してます。**

節電営業中につき、ご理解とご協力を、お願いいたします。

**がんばろう!  
東北** 2011 東北地方太平洋沖地震

復興支援ポスター配布サイトより

今夏は東日本大震災における電力供給不足に対応するため、東京電力と東北電力管内の事業所には15%の節電が求められています。本学でも学生・教職員が一丸となって「こまめな消灯」、「待機電力の削減」などの節電に努めていきましょう。

## 目次

みなさんの心がけが大きな節電効果に	1
朴沢学園資料仙台市文化財指定	3
みやぎ県民大学開講 学校支援ボランティア懇談会	4
ヨークベニマルにポップ登場 5体に国際交流コーナー	6
留学生が「華道」体験 入試懇談会	7
ボランティアに対する御礼状	7
奥莖博亮さんがベガルタ仙台とプロ契約	12
学生の活躍	14

学生の活躍や、取組みをご存知でしたら  
広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関  
にも旬な話題を提供していきたいと考えて  
おります。

本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、  
広報室までご一報ください。

### 広報室

直通 0224-55-1802

内線 佐藤美保 256

土生佐多 200

伊東宏之 271

Email:kouhou@scn.ac.jp

## 朴沢学園の「裁縫教育資料」が仙台市文化財指定



仙台大学の母体である学校法人朴沢学園が所有する明治から昭和初期にかけての裁縫教育資料などが、7月1日付けで仙台市文化財に指定されることとなりました。今回、仙台市文化財指定を受けるのは、掛図352点、朴澤三代治編纂「裁縫教授書」

等教科書類36点、課題研究提出物161点、研究会記録8点の計557点です。文化財指定にいたったのは客員教授で地域連携コンサルタントの伊達宗弘先生にご尽力いただき、一昨年の朴沢学園創立130周年の節目の年にあわせて「朴沢学園130年の歩み」と「朴沢学園公文書資料集」13巻の編纂を行っていただいたのがきっかけとなりました。

朴沢学園には今回指定される資料の他にもまだ膨大な史料があり、今後も調査が行われる予定です。今回の指定をきっかけに、今後は宮城県文化財

や国指定文化財への期待も高まっています。いずれにしても朴沢学園内で永きに渡り受け継がれてきた歴史的財産が、文化財指定を受けたことでより多くの人々の目にふれる機会を得ることは朗報であると同時に、日本におけるファッションの変遷を知るための貴重な史料としても各研究分野への貢献が期待されます。

これらの資料は仙台市からの申し出で、仙台市歴史民俗資料館で企画展に展示されます。是非、足をお運びください。

### 企画展「教科書でたどる学都仙台の200年」

場所：仙台市歴史民俗資料館

(仙台市宮城野区五輪一丁目3-7)

期間：7月16日～9月18日 9:00～16:45

休館日：毎週月曜（祝休日を除く）、祝休日の翌日、毎月第4木曜

入館料：一般・大学生200円

## 第74回 学術集会 新任教員発表会開催



6月14日（火）A棟2F大会議室において、今年度初めての学術集会が開催されました。

開会後の丸山研究科長挨拶では「健康福祉学科開設平成7年、当時副学長の故朴澤二郎先生が、全教員が研究者として所属する学内組織として学術会を立ち上げました。これにより仙台大学の先生方が互いの研究を知る身近な場とさせたい」ということで、学術集会を開催するようになったことなどが紹介されました。

今回は、今年度はじめての開催ということで4月に本学へ着任された8名の先生方（高成田享先生

は、震災復興会議出席のため欠席）による発表が行なわれ、それぞれの先生方の前職における多彩な経験談などが披露されました。その後17:00からは新任教員の先生方を囲んでの懇親会が催され、発表内容への質問がなされるなど和やかな会となりました。

(敬称略)

1. 都道府県警察の仕事について(宮城県警の例)  
飯塚公良夫
2. 皇居警察で培ったもの  
伊藤 重孝
3. 「2050年に地球は養えるのか・・・FAOの問いかけ」  
遠藤 保雄
4. 高校の全県一学区及び男女共学について  
大内 悦夫
5. 参加者の自然に対する態度に影響を及ぼす  
キャンプ体験～ウィルダネス体験に着目して～  
岡田 成弘
6. 言語脳科学と外国語教育  
佐藤 滋
7. スポーツで destinations マーケティングを試みる  
柴田恵里香
8. 平成23年度全日本柔道選手権大会に出場して  
仲田 直樹

## 平成23年度みやぎ県民大学仙台大学開放講座 開講



6月17日（金）に平成23年度みやぎ県民大学仙台大学開放講座が開講しました。今年もたくさんのご応募をいただきまして、募集定員を超える59名の方々に受講いただいております。

今年の講座のテーマは「自宅でできる簡単健康福祉術」で、自宅でも簡単にできる応急手当や

介護術、健康生活法などを4回にわたって楽しく学んでいきます。

開講式後に行われた第1回講座では、「自宅でできる簡単 応急手当と熱中症予防」と題して、3名の先生方が講師を務めました。庄子講師からは湿潤療法、渡会助教からはアイシング法、津吉講師からは栄養面から水分と塩分の摂取等についての指導がなされました。

6月17日 開講式・「自宅でできる簡単 応急手当と熱中症予防」

6月24日 「自宅でできる簡単 介護術」

7月1日 「自宅でできる簡単 健康生活法と運動」

7月8日 「自宅でできる簡単 心のケア」・閉講式

## 仙台市教育委員会との学校支援ボランティア懇談会



6月14日（火）第5体育館2F会議室において、仙台市教育委員会の方々が来訪し、今年度の学生ボランティア協力体制について懇談会を実施しました。仙台市教育委員会との連携は平成15年10月に連携協力事業の覚書を締結してから毎年、教育支援・部活動支援・学校行事補助などの依頼に応じ、学生の派遣を行なっています。

仙台市教育委員会の方々の挨拶では、「3.11の東日本大震災で津波や地震被害でおおきなダメー

ジを受けた学校施設があるなか、通常に近づけるため教育体制を整えながら今年度の授業を実施している状況です。引き続き仙台市の各学校の支援として、指導者をめざす意欲ある学生の皆さんをお待ちしています」との話がありました。また、昨年度も3000名規模陸上記録会における学校支援ボランティアで、幅跳びの模範演技を本学の陸上競技部学生が実演したことに触れ、ダイナミックな着地や、競技を行なう姿を目の当たりにし、小学生が驚きとともに憧れとなり、大変良い影響を与えてくれました。との話もありました。大学側からは、日頃から教育実習などで大変お世話になっていること、引き続き学生たちが教育現場に携わる機会をいただいていることに御礼を申し上げるとともに、教育実習へ臨む姿勢にもよい変化をもたらしていることなど、今後も引き続きご指導をお願いしたい旨が話されました。

## 運動栄養学科の包丁伝達式



6月17日（金）に運動栄養学科で開設当初から続けている包丁伝達式が行われました。「おいしい料理をつくれる栄養士になってほしいこと」と、「包丁を保管するロッカーへの施錠徹底」に

ついて話しがされた後、藤井学科長より新入生82名に対して名前入りの包丁が手渡されました。包丁を手にした千葉ありささん（東京都・明星高校出身）は、「自分の包丁をもらえて嬉しい反面、先生から包丁の危険性の説明を受け、取り扱いに十分気をつけようと思いました。将来は栄養士になることを目指しているのでこれからの実習等で技術を基本からしっかり学んでいきたい」と話していました。



翌週の24日からは岩沼市にある『亀縞の郷 今昔庵』の斎藤 勝氏を講師に招いて「調理技術講習会」を4週にわたって（クラス毎2回受講）開催し、調理に携わる者としての心構えや、包丁の研ぎ方・切り方などを学びます。

## ヨークベニマルに藤井運動栄養学科長・丹野准教授がポップで登場



運動栄養分野において高い知見を有する藤井久雄教授、丹野准教授が専門家の立場からコメントしたポップがヨークベニマルの商品ケースを飾っています。ポップでは「ワカメ」、「まぐろ」、「野菜ジュース」、「卵」などの食品が健康に与える効果を紹介し、店側にとっては商品の販売促進が期待されます。本学にとっても、「仙台大学」と「運動栄養学科」が消費者の目に付く箇所に飾られるため、大きな宣伝効果となるのが期待できます。

ヨークベニマルは福島県郡山市に本社を持ち、福島(67店舗)・宮城(43)・山形(15)・栃木(20)・茨城(26)の5県で171店舗（2011年5月現在）を展開しているスーパーマーケットです。既にポップを飾っている店舗もあり、計画ではヨークベニマル全店で掲示される予定です。期間は6月1日から3月31日までの予定で、月毎に紹介される商品が検討されます。

## 第5体育館に海外提携大学から頂いた寄贈品を陳列



先月完成した第5体育館の1F北側に国際交流で頂いた各国のお土産品などの数々が特設コーナーに設けられました。

これまでに海外提携先との交流の中で頂いた貴重な品を陳列しています。是非ご覧ください。

## 留学生が日本文化をまなぶ「華道(生け花)」体験



6月22日(水)C棟2F実験室において、留学生の華道(生け花)体験が実施されました。これは留学生が日本滞在中に日本文化に触れることで、

日本への理解をより深めてもらおうと、元教授・現在非常勤講師の阿部武彦先生の留学生対象授業「日本の文化」で実施しているものです。今年も熊坂繁太郎元教授・現在非常勤講師の奥様で華道家の熊坂智恵子先生をお招きし、小原流華道の基本形から四季折々で楽しむ日本の華道を座学で学び、そのあと留学生一人ひとりが生け花を体験しました。

大学院1年の高原さん、顧一俊さんに体験後話を聞くと、「白石駅の構内にも飾ってあったのを思い出しました。3角形で表現する花型を、父(真)・母(副)・子(体)と教わりました。母は父に寄り添い、向きあう形を教わり、素晴らしい意味だとおもいました」と話していました。

## 平成23年度 入試懇談会



6月24日(金)に仙台国際ホテルにおいて仙台大学入試懇談会が行われ、東北6県および栃木県より85校86名の進路指導関係教諭の出席を頂きました。朴澤学長より新教養教育の概要の説明、5学科長より各学科の特色と教育内容、中房入試創職部長より学生の受入れ方針、渡辺入試担当課長より入試内容について説明を行いました。

懇談会終了後にも多くの先生方が個別で相談に訪れる姿がありました。

## 平成23年度 保護者会役員会



6月18日(土)に江陽グランドホテルにおいて仙台大学保護者会役員会が開催され、保護者会から高橋武彦会長をはじめ役員19名と、大学から朴澤学長はじめ23名が出席しました。会では平成22年度の事業報告、決算報告書、会計監査報告がなされた後、平成23年度の役員(案)が選出されました。

## 学都仙台コンソーシアムの広報サポートスタッフが決定



左から井上さん、横山さん、大黒さん

学都仙台コンソーシアムでは、学生の視点による広報活動を目的に、各加盟校に所属する学生から「広報サポートスタッフ」を募集し、これまで、フリーペーパー「G.S.C」の発行や公開講座PR動画の作成などの活動を行っています。平成23年度の広報サポートスタッフは8名で、その内3名が本学の学生です。

学都仙台コンソーシアムHP

<http://www.gakuto-sendai.jp/>

横山紘基さん（スポーツ情報メディア学科2年 / 山形南高校出身）

元々、スポーツとメディアに強い関心がありました。進学時にその両方を学べるスポーツ情報メディア学科が仙台大学にあることを知り、自分の将来が探せることができるのではないかと思います。実際に入学してみると、授業では報道機関やプロスポーツの現場での実習や、研究所が主催する多種のアカデミーが開催されており専門的な知識が学べて充実しています。今回の学都仙台コンソーシアム広報サポートスタッフも学科で学んでいることを活かせることと、他大学の学生と交流が持てることに魅力を感じ、応募しました。

今年は仙台大学から広報サポートスタッフに3名が就任しました。私と同学年の井上悟志さんと昨年も活動した4年の大黒ゆきこさんです。活動はこれからですが、1年間楽しんで推進したいと思っています。

## 「リスペクト！おかげさまプロジェクト」に中国からの留学生参加



仙台大学、ベガルタ仙台、宮城県サッカー協会、ベガルタ仙台ホームタウン協議会が3年前から推進している「リスペクト！おかげさまプロジェクト」。現在、競技の垣根を越えて、さまざまなアスリートや指導者から応援メッセージ入り色紙を頂戴し、被災者の方々にお届けしています。6月15日に行われたベガルタ仙台VSガンバ大阪（ユアテックスタジアム仙台）の活動に、本学大学院に在籍する中国の留学生たちが初参加。

「おかげさまのこころ」を伝える行進（写真）に参加したり、東北サッカー未来募金の呼び掛けにも積極的に加わったりしています。この日、リーダーを務めた徐一文さん（本学大学院2年）は

「とてもいい経験になりました。楽しかった。ありがとうございます。」と感謝の気持ちを表しました。

なお、これらのおかげさま色紙はユアテックスタジアム仙台や本学で展示したあと、仙台市に寄贈し、被災地での巡回展示を予定しています。

「リスペクト！おかげさまプロジェクト」とは？

「おかげさまは感謝をあらわす魔法の言葉」を合言葉に、私たちの気付かないところでスポーツを支える、多くのひとやものに感謝を示すボランティア活動。父の日や母の日、敬老の日やお盆期間中に、同じスポーツファミリーや先祖に「ありがとう」を伝えるメッセージを集めたり、スポーツが行われる場をひとが集う気持ちのよい「場」にしようと、あいさつ運動を実施したりなどしています。

また、仙台大学のある柴田町に日頃の感謝を示そうと、商店街の皆さんに活動ポスターの掲示をお願いし、おかげさまロードを広めています。

（仙台大学スポーツ情報メディア研究所）

## 女川第一中学校より御礼状

女川第一中学校の生徒一同から本学に御礼状が届きました。これは、支援物資として、(株)GANBAXから提供頂いたジャージ・Tシャツを提供したことに対するものです。

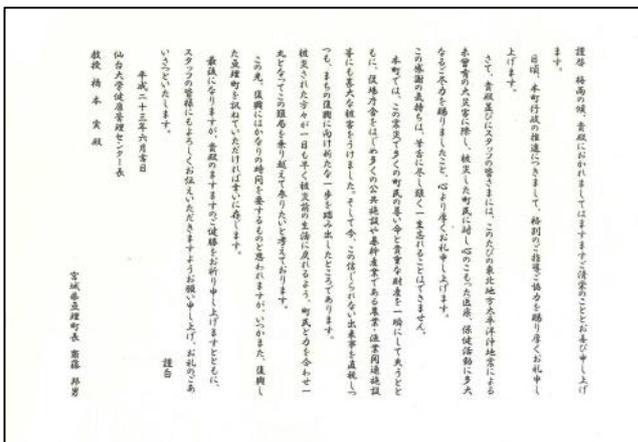
女川第一中学校には陸上競技部からのご依頼で、6月20日(月)にユニフォームの上下セットや雷管ピストル、陸上バトンをスポーツ物資としても送っています。これも(株)GANBAXの他、横川教授、宮城教授から提供いただいたものです。

(内容)

皆様の支援のおかげで元気は取り戻しつつあります。授業も部活動も本格化してきました。大事に着させていただきます。ありがとうございました。

女川第一中学校 生徒一同

## 医療サポートボランティアに対して亶理町の齋藤邦男町長から御礼状



橋本教授をはじめとする医師免許・看護師免許を持つ教職員で行ってきた亶理町での医療サポートボランティア活動に対して、亶理町の齋藤邦男町長より御礼状が届いております。亶理町での医療サポートボランティアは4月初旬にスタートし、自衛隊の診療所がお休みする毎週月曜日に避難所を回って活動してきました。5月に入ると亶理町所在の医療機関が再開したため、5月中旬の活動で終了させています(瓦礫撤去作業は活動を継続中・エコノミクスクラス症候群予防体操指導ボランティアは仮設住宅に移る方が多くなったため、活動を休止中)。医療サポートボランティアは現在、美里町・女川町での活動を継続しています。

## 石巻市立大須中学校より御礼状

5月28日(土)に本学でバレーボールとバドミントンの部活練習および指導を受けた石巻市立大須中学校の生徒より御礼状が届きました。



(この他、生徒一人ひとりからメッセージが寄せられています。)

## 奥埜博亮さん(体育学部4年)がJ1ベガルタ仙台とプロ契約

～本学から16人目のJリーガー誕生～

サッカー部の奥埜博亮さんのJ1ベガルタ仙台入団が内定いたしました。奥埜さんはベガルタ仙台のジュニアユース、ユースなどの下部組織を経て本学に入学。大学では1年目からチームの中心選手として活躍し、2年からはJリーグ特別指定選手としてベガルタ仙台にも所属していました。ベガルタ仙台と本学は、2003年にユース出身者の受入れで提携し、選手育成を行ってきましたが、奥埜さんはベガルタ仙台の下部組織から本学を経てトップチームに舞い戻るはじめての選手となりました。

6月7日(火)に本学を会場に共同記者会見を行い、その席で奥埜さんは「小学5年から過ごしている地元のチームに入団できてよかった。仙台の梁選手や関口選手のように代表に関わる選手になりたい。」と抱負を述べました。

本学としては奥埜さんが16人目のJリーグ選手輩出となります。



## サッカー部が被災地の復興を背負ってプレー

～無償でユニフォームに地元企業名をプリント～

サッカー部が被災地となった宮城県内の企業名をユニフォームにプリントして全国大会に出場します。これは、サッカー部員が「多くの方が被災した中で、自分たちはサッカーをできていいのか?」、「自分たちも被災した方々に何かできないか?」との疑問に向き合い、学生同士で話し合っただけで導き出した答えが「ユニフォームに地域企業名をつけてプレーする」ことでした。部員の中には震災で親を亡くした者もあり、震災当時は被災者として生活もままならない状況もありました。しかし、「自分たちよりも苦しい生活を強いられている方々が多くいらっしゃる。自分たちがプレーすることで被災地に勇気と、震災で打撃を受けた地域企業の復興に寄与をしたい」という思いの中で考案されました。

県内の企業に無償で企業名をつけることを提案し、笹かまぼこの佐々直と、伊達絵巻の菓匠三全から申し出がありました。この間にスタートした東北地区予選では無敗で優勝し、全国大会出場を決めました。

ユニフォームに入れる企業名は、サッカー部が負担するものと考えていましたが、ユニフォーム

を製作する加茂スポーツから「自分たちも復興に協力したい」との申し出を受け、プリント代を無料としていただくこととなりました。

学生の発案ではじまった活動で、震災を後押しする方々の輪が広がっているのは素晴らしいことです。

このユニフォームを着た選手たちが全国の舞台で活躍することで、この取り組みが更に広がるよう部員たちは強く願っています。

ユニフォームの着用は7月3日から開催する総理大臣杯からで今年の初戦は強豪の流通経済大学。しかし、本学は昨年の同大会で全国3位となっており、被災地の思いを背負って選手たちの全力プレーに期待が寄せられます。



## 小笠原沙織さんが世界U-23ボート選手権代表に決定



漕艇部女子キャプテンの小笠原沙織さん（体育学科4年/北海道網走南が丘高校卒）が7月21～24日にオランダ・アムステルダムで開催される世界U-23ボート選手権大会の代表に決定しました。出場する種目は女子クォドルプルで、この種目はオール2本を用いた4名の漕ぎ手が、コックス（舵を切る役割を果たす人）なしで距離2000mを競います。

小笠原さんは「自分のセールスポイントは持久力と瞬発力」と話しており、実際にエルゴメータ（ボート漕ぎ式体力測定装置）でも学生1位の成績を残しています。「最近になってパワーを無駄なく艇に伝える感覚がわかってきた」と話すように、乗艇する度にタイムを伸ばしており、日本代表として世界での飛躍が楽しみです。

6月1日（水）には阿部肇監督と共に朴澤学長にU-23代表選出の報告を行いました。

### 小笠原沙織さん

仙台大学に進学したのは進路を決定する時期に、地元が同じ北海道である仙台大学漕艇部OGの久保佳子さん（平成19年度学部卒、21年度院卒）と練習を一緒にする機会があり、仙台大学を勧められたのがきっかけとなりました。元々、田舎育ちの自分には、自然に囲まれた仙台大学の環境は合っていました。監督・先輩に恵まれ、人としても成長させていただきました。世界U-23では日本代表としてメダル獲得を目標に頑張ってきます。また、その後に行われる8月のインカレでも仙台大学で成長した証をクォドルプルでの初優勝という形で残したいです。

## 漕艇部の松岡 真さんがU-19日本代表に

～8月の世界ジュニアボート選手権代表に～



6月12日（日）に熊本県菊池市斑蛇口湖ボート場で行われた平成23年度 JOCジュニアオリンピックカップ・第9回全日本ジュニアボート選手権大会・（兼）2011年U-19日本代表選手選考会において、松岡 真さん（体育学科/宇和島水産高校出身）が第3位となり、2011年U-19日本代表に決定いたしました。

代表決定に伴い、松岡さんは8月にイギリス・ロンドンで開催される世界ジュニアボート選手権に出場します。日本代表が出場する種目はシングルスカルと舵手なしクォドルプルで、強化合宿を経て出場種目が決定します。

## やり投げの佐藤寛大さんがユニバーシアード代表に決定

陸上競技やり投げの佐藤寛大さん（大学院1年）が、8月に中国深圳で行われるユニバーシアード夏季大会の代表に決定しました。更に、陸上競技選手団のキャプテンを務めることになりました。

佐藤さんは今大会が初の代表選出ですが、以前から日本代表として活躍することを大きな目標としてきました。6月17日に行われた日本学生個人選手権でも大会新記録で2連覇しており、初の海外の舞台でも上位入賞が期待されます。

なお、陸上競技部からのユニバーシアード代表選出は、2001年の北京大会で400m（7位）と400m×4（3位）に出場した佐藤光浩選手（現：富士通陸上競技部副部長）以来、2人目の選出です。



## 頑張ろう東北！東日本学生体操競技 仙台大学支援大会



6月19日（日）に本学体操競技場において「頑張ろう東北！東日本学生体操競技 仙台大学支援大会」が開催されました。これは、学生体操の男子1部リーグに所属する日本体育大学、順天堂大学、早稲田大学の3校が、被災地となった仙台大学体操競技部の復興支援を目的に企画してくれたものです。本学を含めた4校は毎年上位を争っている大学ばかりで、震災の影響により中止となった東日本学生体操競技選手権（東日本インカレ）の代替試合としての意味合いも含んでの開催となりました。

試合結果は男子団体総合で本学が優勝、個人総合においても宗像 陸さん（体育学科4年）が優勝（87.5000点）、富澤祐太さん（体育学科3年）が第2位（85.550点）となりました。この順位はインカレでの順位の大きな目安となるため、これからの学生の飛躍が期待されます。

### < 男子団体総合 >

- 第1位 仙台大学
- 第2位 日本体育大学
- 第3位 順天堂大学
- 第4位 早稲田大学

### < 個人総合 >

- |     |        |        |
|-----|--------|--------|
| 第1位 | 宗像 陸さん | 仙台大学   |
| 第2位 | 富澤祐太さん | 仙台大学   |
| 第3位 | 松岡龍介さん | 順天堂大学  |
| 第4位 | 宮原 敏さん | 日本体育大学 |
| 第5位 | 佐藤 亘さん | 仙台大学   |
| 第6位 | 若林裕樹さん | 日本体育大学 |
| 第7位 | 菅野 哲さん | 日本体育大学 |
| 第8位 | 石原 大さん | 仙台大学   |

# Monthly Report

Vol.63 / 2011 Jul.

## 中国国費留学生で初の大学院修了生

日野 晃希さん ~ダブルディグリー取得第一号~



写真右は安 載鶴先生(東北師範大学国際交流センター副所長)

中学国費留学生として東北師範大学大学院で学んでいた日野晃希さんが修士課程を修了し、帰国しました。日野さんは本学大学院2年生であった平成20年9月から東北師範大学に国費留学し、1年間は語学を学び、2年目から同大学大学院で学んでいました。東北師範大学と本学は両大学で学位・修士を取得できるダブルディグリーを締結しており、日野さんが本学でのダブルディグリー取得第1号となりました。日野さんは「中国で過ごした3年間で、中国語を身につけることができましたが、それ以上に多文化と触れ合うことで、中国の良さを知り、そして今まで以上に日本という国の素晴らしさを再認識しました。3年間は視野を広げる素晴らしい機会となりました。国費留学でお世話になった両大学の先生方に心から感謝しています」と話しています。

### 目次

中国国費留学 初の大学院修了生	1
上海体育学院とダブルディグリー覚書締結	2
慰霊碑を建立 学外実習における補充実習	3
日本スポーツ法学会と合同研究会	5
あかげさま色紙で感謝を 仙台大学柔道塾開講	6
流しソーメンで学生交流	7
同窓生2名が甲子園監督に	8
学生の活躍	10

学生の活躍や、取り組みをご存知でしたら  
広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関  
にも旬な話題を提供していきたいと考えて  
おります。

本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、  
広報室までご一報ください。

#### 広報室

直通 0224-55-1802

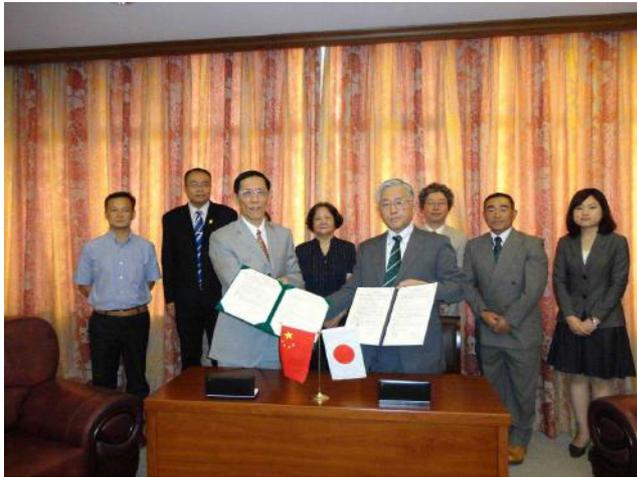
内線 佐藤美保 256

土生佐多 200

伊東宏之 271

Email:kouhou@scn.ac.jp

## 上海体育学院とダブルディグリー制度に関する覚書締結



写真提供：事業戦略室

本学と上海体育学院は6月27日にダブルディグリー制度に関する覚書の調印を行いました。両大学は2002年に国際交流協定を締結し、互いの大学院に学生を送るなどの交流を図ってきました。

今年度、上海体育学院が本学の学部学生を受け入れることになったことから、両大学間の学部生に関するダブルディグリー制度について覚書を締結したものです。

本学がダブルディグリーを締結するのは東北師範大学に続いて2例目となります。

## 上海体育学院に留学中の羽川茜さん(明成高 仙台大)



今年3月に明成高校を卒業後、本学に入学。その後直ぐに上海体育学院へ留学した羽川茜さん。明成高校では女子バスケットボール部に所属し3年の時には中心選手としてインハイ3位の躍進に大きく貢献しました。

中学時代には漢字検定2級を取得するなど文武両道成績も優秀です。

羽川さんが留学を意識するようになったのは高校時代に同級生であり、チームメイトでもあった中国人の韓雨濠さん(ハンユウモン)の存在が大きかったそうです。

韓さんが留学してきた当初は、通訳を介し話さなければならず「中国語を覚え、直接彼女と話したい」と強く思ったのが留学を意識するきっかけになったそうです。

現在は9月からの学部入学に向け、中国語を猛勉強中の毎日だそうです。

「日本に留学経験を持つ中国人との出会いや、その友達とつながりが持てることはうれしい。寮には仙台大学の先輩3名を含む日本人学生4名がいるので心強いです。世界中から留学生が集まっており、これから多くの人とコミュニケーションを図っていくのが楽しみ」と話します。

卒業後は上海の日本人学校で働きたいとの希望も持っており、上海体育学院と初のダブルディグリー制度を使った学部留学生として、彼女のますますの成長が楽しみです。

## 志半ばで犠牲となった学生を悼み慰霊碑を建立



本学では東日本大震災の犠牲となった3名の学生と、これまで本学在学中に不慮の事故等により亡くなった学生を悼む慰霊碑を建立し、7月8日（金）と7月28日（木）に慰霊祭を執り行いました。慰霊祭には亡くなった学生のご遺族、教職員、学生が出席し、志半ばで犠牲となった学生を追悼しました。28日の慰霊祭では式に先立ち学内放送で黙祷が捧げられましたが、学生たちがそれぞれの場に立ち止まり黙祷する姿がありました。



慰霊碑の裏面には下記の言葉が刻んであります。

時代を担うべく  
 学に勉めんと  
 本学に籍を置きしに  
 志しむなしく生を終え  
 本学の礎となりし  
 学徒の御霊を  
 ここに慰めん  
 平成二十三年七月  
 仙台大学

## 平成23年度 学外実習における補充実習(災害ボランティア)



今回の大震災により、健康福祉学科における学外実習にも大きな影響を受けました。

その補充実習として、6月30日、7月7日の2回にわたって介護福祉士養成課程の学生46名が南三陸町と東松島市の介護老人保健施設において、災害ボランティア活動を実施しました。

このボランティア活動を実践するために事前に介護技術やレクリエーション等学内演習を行い臨みました。

参加した学生達は、みな真剣な表情で利用者の方々の足浴やリネン交換、清掃などを行い、また、レクリエーションではいきいきと歌や体操を展開し、利用者の方々と触れ合っていました。

帰りには、ひとり一人握手を交わしながら、利用者の方々の喜ぶ姿に学生達もうれしそうでした。

未だ、道路の脇には倒壊した建物や瓦礫の山があり、津波による被害を自分の目で確かめ、被災地での災害ボランティア(介護体験)は、「生活を支援する専門職」として大変貴重な学びとなったと思われます。

(情報提供：大山さく子教授)

## 一日学科体験会



写真提供：スポーツ情報マスメディア学科

7月9日(土)に体育・スポーツ情報マスメディア・現代武道学科、7月10日(日)に健康福祉・運動栄養学科の「学科一日体験会」を開催し、377名の生徒・保護者の方々にご来場いただきました。学生によるキャンパスライフの紹介や学科ごとの模擬授業を体験してもらい、自分の大学生像を膨らませていただけたことでしょう。

8月6日(土)には「オープンキャンパス」を開催します。仙台大学の魅力を十分に知っていただけるよう、教職員・学生が引き続き協力して大成功に導きましょう。

## 馬場准教授が仙台大学紀要「第3回ベスト論文賞」を受賞



撮影：薊職員(庶務課)

7月5日(火)に開催された第843回教授会の中で、学会会の仙台大学紀要「第3回ベスト論文賞」の表彰式が行われました。この賞は昨年度の仙台大学紀要に掲載された原著論文を学外の有識者5名で構成された仙台大学紀要ベスト論文賞選考委員に厳正な選考をしていただき、最も良い論文に対して表彰するものです。選考の結果、今年は馬場准教授の「我が国におけるアスレティックトレーナーの制度化に関する研究～制度の変遷に着目して～」が選ばれ、朴澤学長より賞状と記念品が授与されました。

## 南三陸町に支援物資



被災地の支援物資として、7月22日に南三陸町に支援物資を送りました。この日、送られたのはTシャツ444枚、辞書700冊、野球と陸上のユニフォーム4箱等です。

学内外から送っていただいた物資をサイズ・用途で細分化しています。少しでも被災地のお役に立てば幸いです。

## 日本スポーツ法学会との共催で夏季合同研究会を開催



日本スポーツ法学会の夏季合同研究会が本学と共催で7月24日（日）に開催されました。

はじめに、スポーツ法学会からの報告として、弁護士の山崎卓也氏が「東日本大震災がスポーツに与えた影響と法的問題」と題し、プロ野球開幕問題や外国人選手の帰国要望と契約問題についての報告がなされました。国際武道大学の鈴木智幸氏は「東日本大震災における公共スポーツ施設の対応調査（中間報告）」として、震災が今後の指定管理者制度に及ぼす影響等についての調査報告がなされました。

後半には「震災復興とスポーツ」のテーマで、3つの報告がありました。

はじめに宮城県教育庁スポーツ健康課の土生善弘氏（仙台大学大学院1期生）からは、行政の立場から被災地の現状とともに、復旧・復興におけるスポーツ振興の果たすべき役割などが話されました。

本学からも2名の教授が報告を行い、避難所や仮設住宅などでエコノミークラス症候群予防のための運動指導や医療支援を実施している医師の橋本実教授からは、「震災から4ヶ月が経ち、スポーツへのニーズは高まっているが、被災者の中にはボランティアを受けていながらスポーツを実施するのは難しいといった声もある」と現場の声を報告しました。スポーツ情報マスメディア学科長の山内亨教授からは、被災地のニーズを収集・発信し、被災地との仲介役を果たして課題解決を試みる「スポーツ&ヘルスコンシェルジュ」の構想を紹介し、被災地にある体育系大学としてすべきことなどが話されました。



写真提供：スポーツ情報マスメディア学科

## 「第6回スポーツを考える会」開催



スポーツ情報マスメディア研究所は7月24日（日）、第3体育館2FのFDルームで平成23年度第1回の「スポーツを考える会」を実施しました。

これは、地域のスポーツ関係者をお招きし定期的に行っている勉強会で、通算6回目。この日は、学内で行われた日本スポーツ法学会に参加していた全国の有識者を交え、24名の方々にご参加頂きました。

出席者たちは、学会同様、この日のテーマであった「東日本大震災とスポーツ」や新しく制定された「スポーツ基本法」について熱い議論を交わし、放射能問題や子どもがスポーツをする権利の保証など、被災地におけるいまのスポーツの姿から、未来を見据えた新たな形のスポーツまで、互いの声に耳を傾け、真剣に意見交換をしていました。

次回開催は年末の予定です。

（情報提供：スポーツ情報マスメディア研究所）

## おかげさま色紙で“感謝”をつなぐ ～人づくり・絆づくり～



仙台大学・宮城県サッカー協会・ベガルタ仙台・ベガルタ仙台ホームタウン協議会の4者で推進している「リスペクト！おかげさまプロジェクト」では、震災復興支援企画「おかげさま色紙で被災地に元気を！」を実施しています。おかげさまプロジェクトは、スポーツを支える人やものに感謝をあらわそうと展開されてきたもので、東日本大震災後、アスリートや指導者の方々から、日頃、スポーツを支えてきてくれた被災者のみなさんへのメッセージを頂き、8月から被災地で広く巡回展示します。

ベガルタ仙台VS大宮アルディージャの試合が行われた7月23日は、ユアテックスタジアム仙台で記者会見を行い、これまで寄せられたおかげさま色紙およそ200枚を仙台市に寄贈しました＝写真＝。

会見に参加した郷内和軌さん（仙台大学スポーツ情報マスメディア学科1年）は「今回の巡回展示

は、“おかげさま”を地域に広める大きな一歩だと思う。色紙プロジェクト以外でも、これまで続けてきた活動をより広く浸透できるように努力し、サッカーに限らずあらゆるスポーツ界からの“おかげさま”をひとりでも多くの方に感じて頂きたい」と決意を新たにしていました。

3年目を迎えた「リスペクト！おかげさまプロジェクト」。感謝をあらわす“おかげさま”で、スポーツ界からの発信“人づくり”“絆づくり”を目指します。

\*8月2日（火）～8月31日（水）まで、地下鉄仙台駅・勾当台公園駅・泉中央駅の南北改札の間のコンコースで色紙を展示中。今年度いっぱい、岩手県・福島県を含めた被災地で巡回展示した後、おかげさまを楽しく学ぶ“おかげさま読本”と合わせ、宮城県内の小学校に寄贈予定です。

<スポーツ情報マスメディア研究所>



## 仙台大学柔道塾が開講 ～ 体育大学としての地域貢献事業 ～



7月19日（火）に仙台大学柔道塾が開講し、幼稚園児と小学生の15名が入塾しました。今回の開講は、近隣に住む幼児・児童を子供に持つ保護者からの強い要望があったもので、今後も入塾希望者が増えることが見込まれています。

柔道を含む「武道」は平成24年度から中学校で必修となることが決まっており、日本古来の伝統

が見直されており、世界の柔道界を知りつくす指導者が、柔道を通して子供たちの心と身体を鍛え、人間力向上を図ります。

開講日：毎週火曜日・金曜日19:00～20:30

場所：仙台大学第3体育館3F柔道場

指導者：南條 充寿 准教授

南條 和枝 柔道女子監督

仲田 直樹 助教

サポートスタッフ：柔道部員



## 夏の風物詩「流しソーメン」で学生交流

～ 学生支援センターキャンパスライフサポートグループの取り組み～



学生同士の仲間づくりの場を企画・提供する学生支援センターのキャンパスライフサポートグループが、学科を越えた交流と学生交流の場を提供する目的で、「流しソーメン」を企画し、7月27日（水）に噴水広場前で実施しました。キャンパスライフサポートグループの8名の他に5名のボランティア学生も参加し、留学生をはじめ多くの学生が立ち寄り、夏の風物詩を堪能していました。

キャンパスライフサポートグループのリーダー  
横山奈々さん（運動栄養学科4年）



キャンパスライフサポートは、学科を越えた交流を行う場として、これまでコラージュ会やお茶会など様々な活動を行ってきました。今回行った流しソーめんは、新入生の交流の場を作ること、またキャンパスライフサポートのメンバーを増やすことを目的として行いました。今後もこのような活動を行い、学科・学年を越えた交流の場をつくり、多くの学生に出会いの場を提供し、よりよい学校生活を送れるように支援していきたいと思います。

学生支援センターの活動にはキャンパスライフサポートグループの他に以下の4グループあります。興味がある学生は是非、参加してください。

- ・ラーニング・サポートグループ  
障害を持つ学生へのサポート活動
- ・インターナショナル・ラーニング・サポートグループ  
外国人留学生へのサポート活動
- ・ボランティアサポートグループ  
ボランティア活動の推進と支援活動
- ・アクティビティ・サポートグループ  
学外交流事業に関与する学生への支援及び学生が主催・共催するベンチャー活動への支援

## 名取市みどり台中学校との交流

荒井教授が校長先生として出向している名取市みどり台中学校と本学は、様々な交流を行っています。7月17日には女子バレーボール部が練習で第2体育館を使用し、20日には橋本教授が同中学校を訪問して教職員に対してAED（心臓救命装置）の使用法などの救急救命講習を行いました。25日には高橋理恵さん（健康福祉学科4年）が養護教諭のアシスタントとして活動、25、26日には中国人留学生で元卓球プロ選手の劉思さん（大学院1年）が卓球部の指導を行っています。

今後もプール監視員や養護教諭のアシスタントとして学生が関わることが予定されており、益々の交流が図られていきます。荒井校長も「今後も部活動をはじめ様々な領域でご協力をお願いします」と話されています。



高橋理恵さんが養護教諭アシスタント



劉思さんの卓球指導

写真提供：荒井校長

## 仙台大学の卒業生2名が監督として甲子園に出場

全国高校野球大会は甲子園を目指し、49地区で熱戦が繰り広げられました。その中で、東日本大震災の被災地になった宮城県・福島県の代表を勝ち取ったのは、仙台大学を卒業した監督が率いるチームでした。震災の影響があった中でもチームを立て直し、斎藤智也監督（本学17回生）は聖光学院高校を5年連続出場、間橋康生監督（本学24回生）は古川工業高校を初出場に導きました。

甲子園では被災地からの出場校として注目度も高いことが予想されます。皆さんも是非、応援をよろしくお願い致します。



## 第13回校長職就任祝賀会、第1回宮城県新規採用教員激励会

7月30日（土）にKKRホテル仙台において第13回校長職就任祝賀会、第1回宮城県新規採用教員激励会が行われ、同窓生及び本学関係者73名が出席しました。本学の同窓生で今年、宮城県の校長職に就任したのは石巻市立鮎川小学校校長の山本玲先生（9回生）と仙台市立坪沼小学校校長の大内啓邦先生（10回生）の2人です。また、今年は初めて宮城県新規採用教員の激励会も合わせて開催され、採用された20名うち14名の先生方に出席いただきました。

多くの方が挨拶で激励を行いました。前日に全国大会優勝監督となった常盤木学園高校女子サッカー部監督の阿部由晴氏（17回生）の挨拶では、全国大会優勝報告が述べられた後、教え子の3選手（鮫島彩選手、熊谷紗希選手、田中明日菜選手）がなでしこジャパンのメンバーとして、ワールドカップ優勝に大きく貢献したことも紹介されました。

今回は新規採用者の激励会も同時開催したことで、若手の同窓生も多く見られ、同窓生同士の交流の場としてもたいへん充実した交流の機会となったようです。



山本玲校長

大内啓邦校長



新規採用教員のOB・OGの皆様

## 仙台大学同窓会代議員会



7月23日（土）に仙台大学同窓会代議員会が第5体育館大会議室で行われ、同窓会会長の鈴木省三教授をはじめとする同窓会理事・支部長など役員20名が各地から集結しました。会では決算や予算、事業報告、同窓会会則の変更等について審議が行われ、同窓会として震災復興のために何ができるか等について話し合われました。

代議員会終了後にはサンシャイン青葉（柴田町内）で懇親会を行い、朴澤学長・佐々木事務局長も参加し親睦を深めました。

## フィンランド・カヤーニ応用科学大学留学より帰国

～ スポーツ情報マスメディア学科3年 高橋 悠さん ～



韓国料理の日(友達と韓国料理を作った時)

平成22年8月31日から平成23年5月27日の9ヶ月間の留学を終え、高橋悠さんが帰国しました。

昨年3月の3週間のフィンランド・カヤーニ応用科学大学への短期留学を経て今回は2度目の同大学留学となった高橋さん。カヤーニ応用科学大学の留学生寮において、様々な国の人との交流を通じ沢山の学びを得てきたようです。

### 高橋 悠さん(スポーツ情報マスメディア学科3年)

「短期留学中に仲良くなったフィンランドの友達と再会できたことで、フィンランド生活は順調にスタートしました。9ヶ月の大学生活は毎日が刺激的でした。大学ではExchange student(留学生)に対し短い旅行も企画されているので、プログラムの中で在学生や他の留学生との交流が深まり、フィンランドの文化に触れる良い経験ができました。

また、カヤーニの授業は双方向授業が殆ど。与えられた課題には必ず全員が提出します。忘れたという学生はゼロです。この、学生の授業に対する姿勢にも刺激を受けました。

10月の仙台大学での後期授業からは、1学年下の学生のみなどと一緒に、授業を受けることになります。知り合いが少ないので不安もありますが、新しい友達が増えるチャンスと前向きに捉え臨んでいきたいと思います。また、英語力が落ちないように、キーナート副学長の「English Club」、また森先生が授業外で開いて下さっている英会話のレッスンなどにも参加し、フィンランドでの学びを活かしながら大学生活を送っていききたいと思います。」と笑顔で話してくれました。

もともと英語が大好きだった高橋さんは、フィンランドでの大学生活を通じて、将来は日本の子どもたちに、よくある日常英会話を教えるだけでなく、スポーツを通して英語(ルールや、体の部位・動作など)に触れる機会をつくってみたいと強く思ったそうです。今後の進路についても、試行錯誤しながらも目標に向かって何をすべきかを見極めていきたいと夢を膨らませています。努力家の高橋さんですので、これからの大学生活で沢山の可能性を見つけてほしいと思います。



IPC Biathlon & Cross Country Skiing World Cupでのお手伝い

## 予算管理課 只野課長の作品を第5体育館に展示



予算管理課の只野課長は平成21年3月に武蔵野美術大学を卒業されました。卒業制作作品「In the rain(日本画)」を大学に寄贈いただき、第5体育館2階の廊下壁面に展示しています。是非、ご覧ください。

日本画は油彩とは違い、一般的に色調が濃厚ではなく、表現が簡潔であるのが特徴とされています。基底材として和紙や絹に描かれることが多く、岩絵具(ラピスラズリや孔雀石などの<sup>にかわ</sup> 鉱石を砕いて作った顔料)や染料系の水干絵具を膠(動物の皮膚や骨などから抽出するたんぱく質)で定着させて制作されます。また、墨や金箔などを用いることもあります。本作品も、和紙に岩絵具および水干絵具で制作されています。

## コ・アクト 今年のテーマは“前進”



神奈川県で行った「ナイスハートふれあいのスポーツ広場」

障害者スポーツサポート研究会Co-Act.（以下：コ・アクト）が学外でも多方面にわたって活躍しています。普段の活動は、年齢や障害の有無に関係なく楽しめるニュースポーツ教室や交流会の企画・開催や障害者スポーツ団体への援助等を介し、スポーツや身体を動かすことの楽しさを伝える活動を行っています。

まさに、本学の基本理念であるスポーツ・フォア・オール～スポーツは健康な人のためだけでなくすべての人に～の精神に沿った活動といえます。3.11東日本大震災の影響で、予定していた活動が困難となる中、部員達は「障がい者に限らず、避難所で暮らす一般の方々へもニュースポーツを提供し、笑顔になってもらおう」と、避難所の宮城野体育館を訪問し子供のストレス発散を目的としたニュースポーツの提供を行いました。石巻地区でも同じ活動を1ヶ月に1度実施しています。この活動の他、県内のみならず全日本自動車産業労働組合総連合会からの依頼により神奈川県や青森県で行われる「ナイスハートふれあいのスポーツ広場」に講師として招かれニュースポーツの指導も行なっています。さらには岩沼北中学校1年生90名にもニュースポーツ3種目の指導を行ったりもしているそうです。

今年度コ・アクトには25名が所属しています。彼らの活動源は「参加者の笑顔」。部員たちは「自分たちも楽しいし、相手に喜んでもらいたい」「活動を楽しみに待ってくれる人がいる」と

話します。

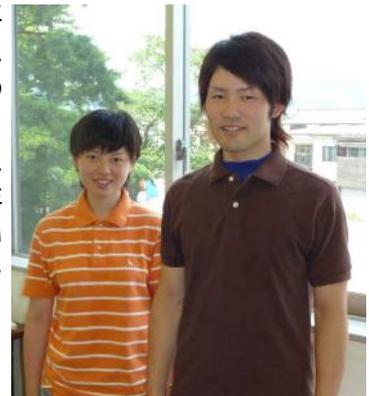
主将を務める朝井寛輝さん（運動栄養学科3年/酒田南高卒）は、コ・アクトの活動の魅力とエピソードを話してくれました。

「私は正直、高校まで障がいのある方と、どのように接してよいか判りませんでした。コ・アクトに入部当初のこと、月に1度「仙台市手をつなぐ育成会」から依頼されているニュースポーツ教室の活動で、接し方が難しい方とペアを組むことになりました。この方は、突然大声を発したりや暴力を振るってしまう方で、毎月のマンツーマン活動で、どう接すればよいか悩み、活動に参加することさえ嫌になっていました。でも最後の指導となった日、この方から思いがけず「ありがとう」と感謝のことばと握手を求めてくれました。この一言で自分の想いだけで接したことに気付かされ、先輩に強制的に押し付けられたと感じていた自分が恥ずかしく思え、大きな感動となりました」。

副主将の佐竹香さん（スポーツ情報マスメディア学科3年/多賀城高卒）も「障がいのある方もない方にも大学生でしかできない活動をやっていきたい。」と話します。

今後の活動は、障がい児を持つ母親サークル「にこにこキッズ」のキャンプサポートを9月からあらたにスタートすること、10月末の学園祭では、恒例のCo-Aピックを「前進～みんなPeaceCoアピック～」をテーマに開催します。

今年は大震災もあったので、年齢や障害の有無に関係なく柴田町の全員を集めるくらいの勢いで盛大に行いますので是非みなさんに来ていただけたらうれしいです。と話してくれました。



左：佐竹香さん、右：朝井寛輝さん

## 世界U-23ボート選手権 結果は7位



漕艇部女子キャプテンの小笠原沙織さん（体育学科4年/北海道網走南が丘高校卒）がU-23日本代表として7月21-24日にオランダ・アムステルダムで行われた世界U-23

ボート選手権大会の女子クォドルプルに出場しました。予選で前回大会優勝のイタリアチームに勝るタイムを出すなど素晴らしいレースをしましたが、コンマ差で決勝Aに進めず、結果は7位でした。

世界大会に出場するのが高校からの目標だったと話す小笠原さんは、卒業後も社会人チームに所属し競技を続けることが内定しています。

早生まれでもあるため、来年のU-23世界選手権の年齢条件をクリアしており、出場のチャンスがあります。

「はじめての世界戦で多くのことを学ぶことができました。海外の選手は体が大きく、体格の差はありますが、日本人でも十分戦える手ごたえがありました。来年も日本代表として出場しメダルを取りたい。」と得たものも大きかったようです。

漕艇部は8月にインカレを控えており、悲願達成に向けた小笠原さんの活躍が期待されます。

## トライアスロン部 インカレで悲願の入賞を



小山真男さんのこれまでの成績		
	東北大会	インカレ
2011	2位	8/28実施
2010	4位	27位
2009	22位	88位
2008	35位	不出場

トライアスロン部の小山真男さん（体育学科4年）の目標は「インカレで入賞（6位以内）し、23歳以下日本代表となること」と話します。本学のインカレでの最高成績は昨年大会で上村昌志さん（平成22年度卒）の個人7位と団体7位という成績で未だ入賞を成し遂げていません。小山さんの「インカレ6位以内入賞」は実現できるところまで来ています。

7月3日に栃木県で行われたインカレ予選（東北北学生選手権大会）では、東北大学に次いで第2位。昨年のインカレ優勝校は個人・団体共に東北大学で今年も優勝候補です。今回の準優勝は全国でも通用するはずと、インカレに向けて大きな弾みがついたようです。小山さん以外にも4名がインカレ出場権を獲得。各大学3名の合計タイムで競う団体戦の出場もできた。インカレまで2ヶ月を切ったが残された時間で各々のレベルアップを図る。

トライアスロン部は震災後は大学のプールが使用できず、道路もうねりや陥没等で、安心して練習ができない状況が続いた。現在は角田市営

プールで一般客の方々の邪魔にならないよう気をつけながらスイムを練習し、路面状況に注意を払いつつも不屈の精神でバイク、ランに取り組んでいる。インカレは8月28日に香川県観音寺市で行われる。本学トライアスロン部初の入賞に期待したい。

### 小山真男さん（体育学科4年）

トライアスロンの魅力は練習の分だけタイムが伸びること。はじめはスイム1.5km、ラン10km、バイク40kmという長い距離をゴールすることが想像すらできませんでしたが練習を重ねることでゴールできるようになりタイムも伸びてきます。また、レースの度に新しい課題が見つかるため、課題・達成・課題の繰り返しで自分自身を成長させてくれます。練習が成績にこれほど直結する競技は他にはないと思います。

私がトライアスロン部に入部したのは上村昌志さん（平成22年度卒）に誘われたのがきっかけです。入部後は上村さんのトライアスロンへの情熱を間近で見て「この人を超えたい」と思うようになりました。昨年仙台大学は個人戦で上村さんが7位、団体戦も7位で入賞の一步手前で涙を飲みました。先輩を越えるためにも、上村さんが成し得なかったインカレ入賞（6位以内）を必ず果たします。

### <インカレ出場者>

- 小山真男さん（体育4年）
- 細川 慧さん（体育4年）
- 佐藤光希さん（健康福祉3年）
- 佐藤秀樹さん（健康福祉3年）
- 佐藤京太郎さん（体育2年）

## 関西学生アメフト連盟が主催する「ニューエラボウル」に本学の学生も招待出場



仙台大学アメリカンフットボール部公式HPより

7月10日（日）に京セラドーム大阪で開催された「ニューエラボウル（主催：関西学生アメリカンフットボール連盟）」に、東日本大震災で被災地となった東北学生選抜が特別招待され、本学アメリカンフットボール部員5名もチームに加わり出場しました。「ニューエラボウル」は関西学生アメリカンフットボール連盟所属各校の選抜選手・コーチと全米大学体育協会（NCAA）加盟大学からの招待選手・コーチがBLUE STARSとWHITE STARSに分かれて戦うオールスター形式のゲームです。今年はアメリカからハワイ大学とネバダ大学ラスベガス校が加わり熱戦が繰り広げられました。ゲーム以外にもフットボール・クリニック等を通じた国際交流の場となっており、学生たちにとって貴重な体験となったようです。

東北選手団の主将を務めた  
加藤良太さん（体育学科4年）



東北の選手が関西の選手と同じフィールドでプレーできる機会は少ないのでたいへん良い機会となりました。アメリカの選手のレベルに触られたことも刺激になりました。

アメリカンフットボールの東北地区予選は今月下旬からはじまります。是非、甲子園ボウル（インカレ決勝）出場を勝ち取り、今回交流を図った関西のチームとの対戦を果たしてほしい。

< 参加した学生 >

- 加藤良太さん（体育4年）
- 飯田浄至さん（健康福祉3年）
- 菅原正人さん（体育3年）
- 高橋史弥さん（体育3年）
- 菅原久義さん（体育2年）

# Monthly Report

Vol.64 / 2011 Aug.

## 仮設住宅で暮らす人たちの輪と健康を育む

~ 地域健康づくり支援センター ~



震災から5ヶ月が過ぎ、避難所で生活してきた方々の大多数が仮設住宅に入居しました。避難所でのエコノミー・クラス症候群予防を目的に活動してきた地域健康づくり支援センターでは、7月中旬より仮設住宅での活動へと切り替えを行いました。1995年に発生した阪神淡路大震災では仮設住宅での孤独死、廃用症候群が問題となりました。これらの問題に着目して、仮設住宅に設置されている集会場を利用し「健康づくり茶話会+楽しい運動」を定期開催しています。これは、仮設住宅に住む方同士が対面する機会を提供することで、孤独死の予防を図ることが狙いです。また、運動の機会を提供することで廃用症候群の予防を目的としています。

この活動では毎回、来場した方に運動栄養学科が調理したお漬物とお菓子、飲み物を振舞っています。気軽にお茶を飲みながら、会話と運動をしていただくことで楽しい時間を過ごす交流の場とすること、そして運動前の水分と少量の塩分補給で熱中症予防を防ぐ目的も兼ねています。



お漬物とお菓子はとても好評で、レシピは希望者に配布しています。

仮設住宅での活動により、友人同士が震災後はじめて再会したり、情報を共有する場ともなったりと、人と人をつなげる役割も担っているようです。

現在の活動は亍理町を月・金曜日、女川町を木曜日に伺って活動しています。

### 目次

仮設住宅で暮らす人たちの輪と健康を育む	1
エレナさん来日 教員採用試験2次対策	2
青海省との共同研究 龍仁大学校より留学生	3
柔道部2名がイタリアへ	5
御礼状を紹介	6
禁煙レポート	7
同窓生関係	8
学生の活躍	9

学生の活躍や、取り組みをご存知でしたら  
広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関  
にも旬な話題を提供していきたいと考えて  
おります。

本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、  
広報室までご一報ください。

#### 広報室

直通 0224-55-1802

内線 佐藤美保 256

土生佐多 200

伊東宏之 271

Email:kouhou@scn.ac.jp

## ベラルーシ共和国から新体操競技指導者エレナさんが来日



8月24日(水)にベラルーシ共和国ミンスク市より新体操競技指導者のエレナさん(本名:グリゴロワ・エレナ・アレクサンドロブナ)が来日し、学長および新体操競技部関係者等と顔合わせを行いました。

エレナさんは昨年度まで2年間ご指導くださったマカロワさんに替わり、4月から新体操を指導くださる予定でしたが、震災の影響で来日が遅れていました。新体操大国ベラルーシ共和国で新体操に携わってこられた経験を元に、本学でも新体操の指導の面で存分に発揮いただきます。

笑顔の素敵な方ですので学内で会った際には声を是非かけてみて下さい。

### 【競技歴】

- ・1978 - 1990年 センシヨル(スポーツ幼少科) 予備校)で新体操を学ぶ
- ・1990 - 1993年 ベラルーシ共和国国立体育・スポーツ学院で新体操を学ぶ
- ・団体競技のベラルーシ共和国ナショナルメンバー。シカゴ選手権、ベラルーシ共和国王座決定戦、国際大会などに出場し、入賞多数。

### 【職歴】

- ・1996 - 2002年 ベラルーシ共和国国立シカゴ言語大学 体育教師
- ・2000 - 2006年 センシヨル 新体操コーチ
- ・2002 - 2003年 シカゴ第270幼稚園 運動療法指導員
- ・2003年 現在 ベラルーシ共和国国立体育・スポーツ学院 体育教師
- ・2006年 現在 シカゴ市体育・スポーツ・観光局 新体操コーチ

## 教員採用試験2次対策に教職の先生方が熱血指導



教員採用試験は各都道府県の1次試験が終わり、2次試験がスタートしています。そんな中、一次試験を見事突破した、本学学生の合格者を出そうと、今年度新設された「教育支援コーナー」では7月中旬から教員採用試験2次対策講座をスタートさ

せています。講座は10時から15時半頃まで教職支援システムディレクターの渡邊宣隆教授をはじめとする教職の先生方の指導の下、模擬授業や面接、集団討論など各都道府県教育委員会の2次試験にあわせた指導が行われています。受講を希望する卒業生の門戸も開いており、9月5日には卒業生5名も加わり受講する予定だそうです。教職の先生方がフル回転で対応されています。

受講する山崎えりなさん(健康福祉学科4年・写真)は「先生方が休みなく毎日対応していただけるので本当に感謝しています。先生方のご尽力に合格という形で報いることができるよう頑張ります」



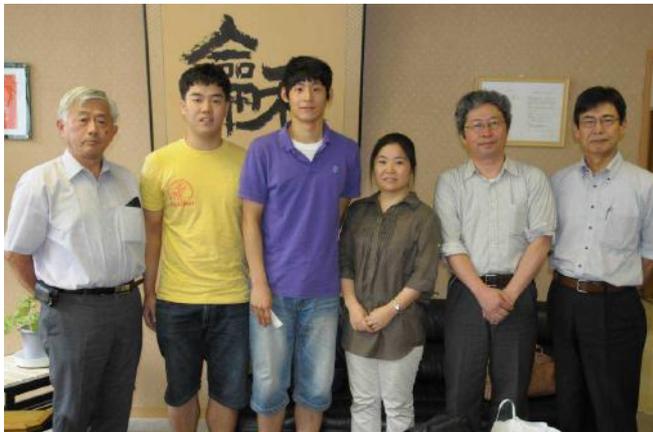
## 青海省体育科学研究所との共同研究



8月5 - 13日の日程で、内丸講師はじめ運動生理学の先生方が中国青海省体育科学研究所を訪問し、同研究所スタッフと共に現地の運動習慣を持つ65才から74才までの男女100名の協力を仰ぎ、体力測定と血液検査を行いました。

これは、青海省が平均標高3000mという高地にあることから、健康・体力に関するデータにより、同じ年代の日本人との比較・考察を行うものです。両国における健康・体力分野における成果となることが期待されています。研究結果が待たれます。

## 韓国の龍仁大学校より初めての留学生



8月24日（水）に龍仁大学校（韓国）からは初めてとなる留学生2名が来日し、朴澤学長および関係教職員に挨拶を行いました。姜寅皓（Kang In-Ho / 写真：左）さんと、羅沅廷（Na Won Jung / 写真：右）さんの両名は龍仁大学3年生で、韓国では義務となっている兵役を終えた24歳です。来年8月31日までの1年間、科目等履修生として本学で学びます。

学内で彼らを見かけた際は、是非お声掛けください。

## フィンランド短期留学プログラムへ 佐藤 翔さん

9月から半年間のカヤーニ応用科学大学（フィンランド）短期留学プログラムに佐藤翔さん（運動栄養学科3年）が参加します。佐藤さんは海外での生活に強い関心を持っており、昨年まで休学してオーストラリアに7ヶ月間滞在した経験を持っています。

しょう  
佐藤 翔さん（運動栄養学科3年）



本来はオーストラリアの後にカナダに留学するつもりでした。森教授にフィンランド短期留学の話を知り、参加することに決めました。その大きな理由はフィンランドが教育大国・福祉大国であること、体育系大学として健康福祉学科を有する仙台大学の教育と合致していると感じ

たからです。フィンランドでは小学校の英語教育について学びたいです。また、高校では野球部に所属していたので、クリケットとフィンランド野球を見ることも楽しみです。

〜〜佐藤翔さんから在学生に向けて〜〜  
「ワーキングホリデー制度を知ってほしい」

私はワーキングホリデーという制度を使ってオーストラリアに滞在していました。この制度は日本政府が協定を結んだ国との交流の場を提供するものです。18才～30才と年齢制限があり、滞在中の資金を補うために一定の就労をすることも認められています。日本が協定を結んでいるのはオーストラリア、カナダ、韓国、イギリス、フランスなど11カ国で、ほとんどの国では1年の滞在ですが、オーストラリアとイギリスでは3ヶ月間の季節労働を条件に2年間の滞在が認められています。この制度を利用すれば海外も身近になるので、是非、チャレンジしてみてください。

## 大学を超えた留学生同士の交流



### ～国際友好交流スポーツ大会～

8月21日（日）に仙台地区中国学友会が主催する国際友好交流スポーツ大会が東北大学医学部星陵体育館を会場に開催され、本学の留学生も多数参加しました。競技はバレーボール、バスケットボール、バドミントン、卓球、フットサルの5種目行われ、スポーツを通して大学を超えての留学生の交流が深められました。さすがは体育大学に通う留学生、バドミントンを除く4種目で見事優勝を飾りました。

## オープンキャンパス 盛会裏に終了



8月6日（土）にオープンキャンパスを開催し、高校生・保護者あわせて約1000名弱の方々にご来場頂きました。オープニングセレモニーは学生が主体となって本学の魅力を紹介。チアリーディングチーム“Twinkle”が演技披露と司会進行を務め、バスケットボール部とバレーボール部が試技披露しました。引き続き行った「OBからのメッセージ」と題した講演にはスポーツ栄養士として活躍する清野隼さん（平成20年卒 / 森永製菓(株)所属）と、体操日本代表として世界の舞台でも活躍している植松鈺治さん（平成21年度卒 / コナミ(株)所属）にご登壇いただき、現在の職場での活躍や

在学中のエピソードなどをお話頂きました。この他、各学科の特徴的な取り組みの紹介を兼ねた体験会や紹介コーナー、施設設備を紹介するキャンパスツアー、個別入試相談会などを実施しました。高校生・保護者の皆さんには今回のオープンキャンパスを通して、少しでも本学での大学生活や卒業後のイメージを持っていただけたことでしょう。

なお、当日の様子がCAT-VNetTV(キャットヴィ ネットテレビ)で動画紹介されていますので是非ご覧ください。

[http://cat-vnet.tv/category110/110\\_001/110\\_001\\_0013.html](http://cat-vnet.tv/category110/110_001/110_001_0013.html)

## 柔道部の 勅使瓦 慧さん、薬師神桃子さん2名がイタリアへ

～ 親日イタリア柔道家 バリオーリ先生が、被災地柔道支援のため無償で招待～



ピッラサルタ合宿所柔道場にて

7月31日(日)～8月20日(土)までの約3週間、本学柔道部から勅使瓦さん(柴田町出身・東北高卒)と薬師神さん(岩手県宮古市出身・宮古高校卒)の男女1名ずつが被災地支援の柔道研修としてイタリアへ招かれました。3.11の東日本大震災で甚大な被害にあった日本に心を痛めたイタリアの柔道家バリオーリ氏が、女子柔道の谷本歩実さんを通じ、被災地の柔道をする若者を無償で招きたいとお申し出があり、谷本さんとの交友関係が深い南條和恵柔道部女子監督に声がかかったことがきっかけで今回の遠征に至りました。渡伊前にはイタリア在住経験がある遠藤保雄教授にもイタリア語の指導を定期的に行っていたいただいたそうです。

イタリアボローニャ空港への到着時間が午前0時すぎにもかかわらず温かい出迎えをうけ、ブレダッピオ市にあるピッラサルタ(合宿所)で3週間の合宿が行なわれました。合宿はイタリア各地から柔道や講義を学ぶために訪れた方々と合同で行なわれました。朝練習後の2時間のイタリア語研修も毎日あったことから、聞き取りはほぼマスターでき、二人とも会話もなんとかできるようになったそうです。バリオーリ先生は、柔道の父である嘉納治五郎氏の目指した「自他共栄」など教えるを大切にされ、スポーツとしての「JUDO」の方向性が原点から離れつつあることに警鐘をならす柔道家の一人で



バリオーリ先生と共に

### イタリアでの主なスケジュール

7:00～8:00	練習 寝技
8:00～	朝食
9:20～10:20	古武道 (剣術・棒術) ランニング
10:40～12:40	イタリア語研修
12:40	昼食
14:00～17:00	自由時間
17:00～19:30	練習 立ち技

古来の「一本」をとる柔道を愛し「美しい技」や「柔道を通しての人間形成」をイタリアの門下生たちに伝え続けているそうです。

この合宿の3週間、全行程を通して被災地から来た日本人の彼らを温かく迎え入れてくださり、柔道の練習はもちろんのこと、合宿所のあるブレダッピオ市の市長表敬訪問やミラノ市観光など、きめ細やかな対応でイタリアを満喫するために沢山の交流を無償でさせていただきました。柔道を通じた今回の交流が日本とイタリアの架け橋となるように、また、日本の復興と二人の今後の成長をお世話になった皆さんに、恩返しとして伝えることができるようにとこれからもイタリア語も勉強を続けたいと帰国後、二人は話してくれました。



ミラノ市観光、福島の高校生と共に

### 勅使瓦 慧さん(体育学科3年)



バリオーリ先生の教えるを伺い、自分もスポーツとして「勝つ」ことのみ目標と考えていたことを思い、あらためて柔道の本質的なものを見つめる機会となり感謝しています。柔道の指導者を目指しているため、人生の学びを得られ良い経験となりました。合宿中、東日本大震災についての質問会があり、東日本大震災の記録写真集をもっていき合宿所のテーブルにおいて自由に皆にみてもらいました。瓦礫撤去のボランティアで見た津波被害の光景の話をする、積極的に質問もされ真剣に話を聞き入ってくださいました。

### 薬師神 桃子さん(現代武道学科1年)



とても充実した合宿でした。おなじ階級での対戦もできましたし、様々な年代の方々とも仲良くなりました。イタリアでお会いする方々はみなさんとても温かくジェントルマンでした。バリオーリ先生からは「無心になって柔道をする事」、「柔道を通して世界をみる事」を教えていただきました。合宿期間、バリオーリ先生の誕生会があり私たち二人へ「葉月(はづき)の月、100年続く友情がうまれた」という言葉を贈って下さったことがとても嬉しく、印象深い思い出となりました。

## 石巻市立谷川小学校より御礼状

衣類提供を行った石巻市立谷川小学校より御礼状が届いております。

谷川小学校は宮城県で最も海に近い小学校で、津波により2階建ての校舎はのまれ、体育館は跡形もなく破壊されたそうですが、全員無事に難を逃れたそうです。現在は他の学校を間借りして授業を行っているそうです。震災の直前まで毎日更新されていた谷川小ブログは震災当日の3月11日を最後に更新されることはなく、震災当日のブログには午前中に行われていたであろう卒業式の練習模様が紹介されています。大震災が一瞬にして平穏な小学校生活を崩してしまったかを察することができます。御礼状と共に送っていただいた写真に写っている皆さんの明るい笑顔がたいへん印象深いです。



## おかげさま色紙が仙台市地下鉄にお目見え



仙台大学、宮城県サッカー協会、ベガルタ仙台、ベガルタ仙台ホームタウン協議会で進めている「リスペクト！おかげさまプロジェクト」の震災復興支援企画で集めたおかげさま色紙が、8月いっぱい、仙台市地下鉄（仙台駅・勾当台公園駅・泉中央駅）で巡回展示されました。皆さんも

ご存じ、あのトップアスリート達からの直筆応援メッセージ。いつもは声援を受けている選手が、日頃の感謝を込めて、この色紙に復興への思いを託しました。9月は宮城県立こども病院での巡回展示が予定されていますので是非、ご覧ください。

巡回展示の様子は仙台市ホームページでもごらんになれます（[http://www.city.sendai.jp/sports/1199797\\_2709.html](http://www.city.sendai.jp/sports/1199797_2709.html)）

「リスペクト！おかげさまプロジェクト」とは？

「おかげさま」は感謝をあらわす魔法の言葉を合言葉に、スポーツを支えるひとやものに感謝を表そうという活動

<スポーツ情報マスメディア研究所>

## 職員Aさんの禁煙レポート

～ お医者さんと禁煙しよう ～

健康管理センター長の橋本教授より平成23年度からの学内全面禁煙化に伴い、禁煙治療の紹介が全教職員に向けて6月になされました。

この禁煙治療は、テレビCM「お医者さんと禁煙しよう」でおなじみの、ニコチンを含まない飲み薬（チャンピックス）の服用と医師のアドバイスで進める治療法です。

チャンピックスはニコチン切れ症状を軽減するほか、タバコがおいしいと感じにくくするとされています。禁煙治療期間の12週間治療を続け

た患者の禁煙成功率は50%を超えており、治療費は診療費と薬剤料あわせて約18,000円（保険適用）を自己負担しています。

このレポートは、Aさんに協力を仰ぎ、禁煙治療により非喫煙者となるまでの道程を記すレポート紹介です。

チャンピックスの効用・副作用については医師の指導の下、適切な説明を受けながら服用しています。

### チャンピックス の服用法

禁煙日の1週間前から服用

- ・1～3日目は0.5mg錠を1日1回
- ・4～7日目は0.5mg錠を1日2回（朝・夕食後）
- ・8日目（禁煙日）～84日目は1.0mg錠を1日2回（朝・夕食後）

### 職員Aさんの喫煙歴



- ・職員A：男性
- ・喫煙歴：15年
- ・一日のタバコ本数：20本
- ・一ヶ月の出費：12,300円（410円×30日）
- ・過去の禁煙歴：1度（2010年10月のタバコ料金値上げに伴い禁煙を決意したものの日没を待たずに断念）

### 【 Aさんの禁煙日誌 】

日付	感想	呼気中の一酸化炭素濃度 (ppm) (正常値0～7)	一酸化炭素ヘモグロビン濃度 (%COHb) (正常値0～4.5)
7/25	チャンピックス の服用開始。タバコは普段どおり1日20本。	12	2.5
7/29	薬服用5日目。いつも通りタバコが美味い。薬の効果は全く感じられない。		
7/31	タバコの本数が自然と減り、心なしか体がタバコを欲しない。しかし、タバコが生活の一部になっているため、食後や行動の節目でタバコに火をつけてしまう。		
8/1	<b>禁煙初日。</b> 起床後、直ちに残っていたタバコ数本をゴミ箱に捨てる。薬の効果なのか、タバコを欲しない。癖でタバコを探す、所持していないため諦める。		
8/2	引き続き、吸いたい衝動は起きない。	3	1.1
8/3	夕食後に禁煙して初めてタバコを吸いたい衝動にかられる。ここで吸ったら無駄になると思いガムを噛んでしのぐ。(この日の薬服用が朝6時と夜9時で、時間があいてしまったことが要因か。)		
8/4	朝方にタバコの夢を3度みて起床。深層心理で吸いたいという意識のあらわれなのだろうか。起床すると吸いたい衝動は消えているが、この日から5日間連続でタバコの夢をみる。		
8/5	他人が吸っているタバコの煙が、おいしく感じる。非喫煙者の方は矛盾に感じるかもしれないが、他人の煙は臭く嫌なものであった。にも関わらず、他人の煙を心地よく感じるのは人生で初めての異様な体験。		
8/11	タバコの夢もみなくなり、タバコのない生活にもだいが慣れてきた。ふとした時にタバコが吸いたいと思うが、我慢はできる。	3	1.1
8/13	禁煙生活最大のピンチ。親戚とお酒を飲む機会があった。タバコが吸いたくなる...が、我慢。		
8/18	タバコは全く欲しない。		
8/23	橋本医師より「一酸化炭素の数値も順調に下がっているの、お酒の場を特に注意して継続するように」との指導があった。タバコは全く欲しない。	2	0.9
8/30	呼気の一酸化炭素濃度検査がはじめて測定不能のゼロを記録。	0	0.0
8/31	禁煙して1ヶ月が経過。この1ヶ月でどうしても吸いたいと思ったのは8月3日と13日の2度だけ。ここを乗り越えれたことが大きい。それと、お酒をあまり飲まなかったことが継続できている大きな要因と自己分析。		

## 本学OB鶴岡剣太郎さんが 著書『それでも、あきらめない。』を寄贈

～ トリノ五輪スノーボードパラレル大回転出場・現在プロスノーボーダー ～

トリノ五輪・パラレル大回転に出場した本学OBの鶴岡剣太郎さんから仙台大学の後輩たちへと著書を御恵贈いただきました。

鶴岡さんは、ご両親も仙台大学OB（お父様は1期生、お母さまは2期生）です。著書では少年時代から現在までの半生が書かれており、スキー競技を続けるために千葉から山形の羽黒高校へ入学し、仙台大学では競技スキー部で念願のインカレ出場。その後、大学3年のときスノーボードとの出逢いで転機が訪れます。

オリンピック出場までの道のりや想い、周りの方々の応援へや感謝の気持ちなど、興味深い内容が満載です。本学附属図書館に寄贈いただきましたので、是非ご覧下さい。

また、今年8月6日（土）の、仙台大学オープンキャンパスでKMCH（クラブハウス）内に展示する本学教職員・卒業生「オリンピック・プロスポーツに関する展示」として、鶴岡さんが2003年アジア大会で銅メダルを獲得した時に使用したビブを、今回寄贈くださいました。



## 青年海外協力隊として活動するOGの齋藤まりさん



平成21年度に卒業し、その後、JICAの青年海外協力隊としてマレーシアで2年間の活動を行っている齋藤まりさん（平成21年度・運動栄養学科卒）が一時帰国し、8月12日（木）に大学に立ち寄ってくれました。

日本への滞在は2週間ということで、大学の先生方への挨拶や、亘理町でボランティアとして地域健康づくり支援センターの活動に同行したりしたそうです。

### 齋藤まりさん

マレーシアではデイセンターなどの施設を巡回し、そこで働く方達に対してレクリエーションなどを指導し、プログラムの充実を図る活動をしています。マレーシアは治安も良く、時間や人種に関係なく誰にでも優しく接してくれる陽気な国民性溢れる国です。外国からの留学生も多く、大学の授業は英語で行われています。活動をはじめて1年が過ぎましたが、マレー語もほぼ習得することができました。マレーシアでの生活は全てが楽しく、仕事で悩むことも楽しいくらいです。

青年海外協力隊は、旅行では味わうことのできない経験ができます。

是非、後輩の方たちも積極的にチャレンジしてもらいたいです。



## 仙台大学同窓会東海支部総会

8月20日（土）に仙台大学同窓会東海支部総会が名古屋市市内で行われ、同窓生16名が終了しました。本学から朴澤学長と横川教授が出席も出席して情報の交換・共有を行い、朴澤学長からは東日本大震災の状況等が説明されました。



## 第26回夏季ユニバーシアード大会 結果

### <柔道>OB田中美衣選手

中国の深圳で開催された第26回夏季ユニバーシアード大会に出場した田中美衣選手(平成20年度卒/了徳寺学園職員)が前回大会に引き続き個人戦で銀メダル、団体戦で金メダルを獲得しました。個人戦決勝では不本意な判定で反則負けという結果でしたが、その数日後に行われた団体戦では気持ちを切り替え団体戦金メダル優勝に貢献しました。



### <女子サッカー>黒澤 尚新助手

黒澤新助手がゴールキーパーコーチを務めた女子サッカー代表は、地元である中国代表との決勝戦に惜敗しましたが、前回大会に引き続き堂々の銀メダルを獲得しました。黒澤コーチは大会を経て「日本女子サッカーのレベルは確実に上がっており他国も日本チームをマークし研究している。今後の課題はパス精度や状況判断など、質をあげていくこと、ピッチ上でイニシアチブを発揮できる選手を育成していくことが今後の課題。」と話しています。

### <陸上競技やり投げ>佐藤 寛大選手(院1年)

海外大会初出場で陸上競技選手団のキャプテンも務めたやり投げの佐藤寛大さん(大学院1年)は、残念ながら予選落ちという結果でした。

## 仙台大学バレーボール縦の木杯・松本昌三杯



本学OBが中学・高校で指導しているバレーボールチームのレベルアップと、同窓生と現役生が交流する場となっている「仙台大学バレーボール縦の木杯並びに松本昌三杯」が、8月20(土)、21日(日)に本学第2、第5体育館を会場に開催されました。審判や試合の運営は男女バレーボール部員が務め、中学・高校生のはつらつとしたプレーが繰り広げられました。

### 参加校と同窓生名

中学校男子<4校>	
高崎中学校	下堂前孝士先生(17回生)
名取第一中学校	荒川 裕子先生(19回生)
円田中学校	今村 守彦先生(21回生)
高清水中学校	高橋 利恵先生(26回生)
中学校女子<7校>	
田尻中学校	堀谷美姫子先生(8回生)
東仙台中学校	岩垣 和人先生(11回生)
亘理中学校	岩本真理子先生(23回生)
蒲町中学校	佐藤 祐子先生(24回生)
仙台第二中学校	阿部 有一先生(19回生)
利府中学校	高橋 志保先生(26回生)
幸町中学校	松田 美穂先生(26回生)
高校女子<8校>	
宮城県私立東北生活文化 大学高校	池田 信文先生(10回生)
	小笠原智美先生(22回生)
宮城県立宮城第一高校	大内 昭浩先生(16回生)
福島県私立帝京安積高校	鈴木 透先生(16回生)
宮城県私立聖ドミニコ学院高校	村上 成司先生(17回生)
宮城県立仙台西高校	三浦 公浩先生(18回生)
宮城県立村田高校	河村 貞男先生(22回生)
宮城県立塩釜高校	高橋 久美先生(23回生)
新潟県立長岡大手高校	上村 裕希先生(26回生)

## 漕艇部インカレ結果



全日本大学選手権大会が8月25日～28日に、埼玉県戸田ボートコースにおいて行なわれ、本学漕艇部悲願の「男子エイト」、「女子舵手つきクォドルプル」制覇を達成すべく大会に挑みました。大学からも教職員をはじめ柴田町の大応援団が今年もバスで駆けつけ、選手を温かい声援で後押ししてくださいました。

「男子エイト」の結果は、僅か2秒差で4年連続の準優勝。「女子舵手つきクォドルプル」は準決

勝で優勝候補の早稲田大学に1秒差競り負け、決勝へは進めずに5位という結果でした。

### 【インカレ結果】

男子エイト	準優勝
男子舵手なしフォア	準優勝
男子舵手つきフォア	準優勝
女子舵手つきクォドルプル	第5位
女子舵手なしペア	第5位
女子ダブルスカル	第6位
男子ダブルスカル	第7位



# Monthly Report

Vol.65 / 2011 Sep.

東北の子供たちに、たくさんの笑顔を  
「東北こども博」 10月8(土)、9日(日)開催



東北のこどもたちの健やかな成長と笑顔の広がりを願い、それを実現するためのイベント「2011東北こども博」を10月8日(土)、9日(日)に、宮城県柴田郡柴田町の仙台大学キャンパスにて開催します。

主催は仙台大学、(社)日本玩具協会、宮城県柴田郡柴田町などで構成される東北こども博実行委員会(実行委員長: 朴澤泰治学長)。当日は、様々なおもちゃで遊べたり、スポーツを体験できたり、キャラクターショーで楽しめたりと盛りだくさんのイベントになります。

会場には、石巻市をはじめ東日本大震災の被害が大きかった宮城県、福島県、岩手県からこどもたちを招待し、秋の1日を体いっぱい楽しんでもらう計画となっています。

2011東北こども博 公式ホームページ <http://www.toys.or.jp/tohoku/>

## 目次

「2011東北こども博」開催	1
管理栄養士国家資格 国際スポーツ情報カファルス	2
節電 目標達成 明成高校教育懇談会	3
就活キックオフセミナー	4
もう一度 自在に身体を動か したい ~ 足漕ぎ車椅子 ~	5
高橋雄太さん、オマーン・ス ルタン国に	6
桜美林大学大学院アメリカ 研修に参加して	7
学生の活躍	8

学生の活躍や、取組みをご存知でしたら  
広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関  
にも旬な話題を提供していきたいと考えて  
おります。

本誌へのご意見・ご質問等がございまし  
たら、広報室までご一報ください。

### 広報室

直通 0224-55-1802

内線 佐藤美保 256

土生佐多 200

伊東宏之 271

Email: kouhou@scn.ac.jp

## 過去最多の10名が合格 ～ 管理栄養士国家試験 ～

本学の運動栄養学科は厚生労働省の栄養士養成施設の指定を受けており、所定の科目を履修・修得することで栄養士免許を取得できます。また、卒業後に厚生労働省が指定する施設において1年以上の栄養指導に従事した場合は管理栄養士国家資格の受験資格が得られます。

管理栄養士国家試験は3月20日に開催されましたが、東日本大震災の影響により受験できなかった東北地方の受験生のために7月末に追加試験が行われ、見事、新助手2名を含む7名のOBが合格を果たしました。3月の試験で既に合格している3名を含む10名の合格者は本学では過去最多で、合格率も非常に高いものです。運動栄養学科卒業生たちの努力の結果といえます。

### 合格した平良拓也さん



4月から非常勤で専門学校で栄養学の授業を担当しており、学生への解説のために栄養について深く勉強することができたのが合格に結びついたと実感しています。管理栄養士国家資格を取得しておくことで就職の幅が広がるので、研究の道に進めるよう就職活動を進めていきたいです。

### <合格者>

#### 平成20年度卒

たけうち せいこ

・竹内 晴子さん

仙台大学新助手

たいら たくや

・平良 拓也さん

仙台大学研究生

つ だか よ こ

・津田 佳代子さん

ひらさわ かずき

・平澤 和樹さん

いずみかわ たかひこ

・泉川 尚彦さん

こんの さき

・今野 早紀さん

#### 平成21年度卒

はっとり えみこ

・服部 恵未子さん

仙台大学新助手

いわぶち あゆみ

・岩淵 安祐美さん

さわだ はなこ

・澤田 花子さん

わたなべ しょうこ

・渡邊 祥子さん

## 第4回 国際スポーツ情報カンファレンス開催



仙台大学主催、宮城県・仙台市・柴田町後援の「第4回国際スポーツ情報カンファレンス」は9月11日（日）、仙台大学を会場に開催されました。「大震災 スポーツの明日を考える」をメインテーマに、全国のスポーツ関係者や学生ら約80人が参加し、実り多いカンファレンスとなりました。

カンファレンスでは、震災後の被災地に対するスポーツ界の取り組みや現状について、日本オリ

ンピック委員会事務局長 平 眞 氏からの情報提供を皮切りに、メディアの視点、競技団体の視点、そして被災地の子どもたちと向き合う教育現場の視点から「震災」と「スポーツ」について示唆にとんだセッションが繰り広げられ、参加者全員で「スポーツの明日」を考えました。大震災発生の日午後2時46分には全員で黙祷し、亡くなられた方々に哀悼の意を表しました。

また今回はカンファレンスの一環として、被災地などの子どもたちを招待しての「あしたひろば」を併催。宮城県、岩手県、山形県、石川県からの参加もあり、子どもたちが思いっきり体を動かし、ボールゲームやアドベンチャーゲームなどに取り組み、交流する機会となりました。



< スポーツ情報マスメディア研究所 >

## 節電目標達成 ご協力ありがとうございました

今夏は東日本大震災による電力不足のため、東北地区においては各家族・事業所に対して一律15%の節電が課せられました。さらに大学に対しては大口使用者として電気事業法による使用規制が課せられました。

本学でも学生・教職員のご協力のもと15%節電を達成すべく、エアコンの28℃設定や照明の間引き、職員による見回り等を行いました。結果、本学の最大使用電力許容量であった765kwを大幅に下回る647kw（7月12日）で、昨年の900kwを大きく下回りました。

冷房の設定を28℃に設定したにもかかわらず、講義中に熱中症になった学生数が増えることもありませんでした。これは、各々の自己管理の徹底が節電の目標達成に大きく関与したことは間違いありません。学生・教職員の皆様、ご協力ありがとうございました。

そして、今後も無駄な電力の排除は日頃から心がけていきたいと思います。



## 明成高校大河原地区教育懇談会



9月28日（水）にA棟大会議室において明成高校の大河原地区教育懇談会が行われ、県南地区に所在する16の中学校の校長先生にご出席いただきました。明成高校の教員と共に本学からも朴澤学長はじめ校長職の経験をお持ちの諸先生方が出席しました。

朴澤学長の挨拶では、明成高校から仙台大学に進学した後、社会人として活躍している同窓生の紹介として、管理栄養士国家資格を合格した2名の紹介があり、調理科から運動栄養学科という進路の魅力などを説明されました。

## 明成高校父母教師会が来訪



9月16日（金）に明成高校父母教師会の18名が来訪し、佐々木局長及び庶務課が対応を行いました。はじめにKMCH大会議室を会場に仙台大学の概要が佐々木局長より説明されました。主に教育方針や入試についての概要が話され、途中で質問が出るなど、父母会の方たちは真剣に聞いていました。その後、第5体育館をはじめとする本学の主たる施設を回り、見学していただきました。同法人である明成高校からは毎年多くの生徒が進学しております。本学を良く知っていただき、優秀な生徒がに入学していただく好機となれば幸いです。

## 就職活動キックオフセミナー



9月22日（木）にB300教室において創職作業チーム主催する「就職活動キックオフセミナー」が開催され、就職活動をスタートさせる3年生が出席しました。はじめに創職作業チームリーダーの齋藤博教授より就職活動における心構えについて話が

ありました。その後、キャリアデベロップメントアドバイザー（CDA）でもある佐々木事務局長より、就職活動に取り組む姿勢と準備について話がなされ、早めに就職活動をはじめることが何よりも重要であるという説明がなされました。

その後、上野法律ビジネス専門学校の担当者よりSPI模試並びに解説がなされ、学生達はこれからスタートする就職活動への意識を高めていました。



## 明成高校学園祭に仙台大学ブース設置



9月2、3日に明成高校学園祭が行われ、生徒たちが趣向を凝らしたイベントやショー、模擬店など盛りだくさんの内容で大盛況でした。そんな中、図書館では法人事務局が本学紹介コーナーを設置くださり、今年度の入学式で放映した大学紹介映像や、大学案内・広報誌などの冊子が展示されました。



## エルジーヤンkeesHIROさんより道衣など寄贈



前列は道衣、左はタオル、右はCDを持って撮影

仙台市を拠点に活動する人気ヒップホップユニット「L G Yankees（エルジーヤンkees）」のHIROさんが9月19日（月）に本学を訪れ、柔道部員に対して柔道衣などを寄贈くださいました。これは、東日本大震災直後に大学近隣の商店の片付けなど、積極的にボランティア活動した柔道部員の活躍がミヤギテレビ「OH!バンドス（放送：7/5）」で取り上げられ、この放送を観たHIROさんから「是非、柔道部に道衣を送りたい」との申し出があり、実現したものです。

道衣の他に「L G Yankees」のタオルとCDも頂き、学生たちは大喜びでした。大切にさせていただきます。

## 全ては「もう一度自在に身体を動かしたい患者さん、子供たち」のために ～足漕ぎ車椅子～

関矢准教授が東北大学大学院医学系研究科で研究を行った足漕ぎ車椅子を紹介します。

この足漕ぎ車椅子は、脳卒中やパーキンソン病によって主に片麻痺で歩行が困難になった方の「もう一度自分の足で歩きたい」というおもいを、実現するために開発された車椅子です。

足漕ぎ車椅子は身体の状態によりますが、片足が動く人であれば、平均的な一般成人の歩行速度と同等のスピードで移動することができます。また、エレベーターの中でも自在に回転できるほど小回りに優れているため、補助者がいなくとも一人で自由に動きまわることができます。更に優れた点としては、足漕ぎ車椅子で移動すること自体がリハビリの効果を生み出す点にあります。片麻痺の方は、脳からの指令が手足の末端に届かないため、動かせない部分が循環不全、筋力低下や関節が固まるなどの二次的な要因が出てきてしまいます。しかし、この足漕ぎ車椅子を使うと動かない方の足も連動して動くため、これらの要素が解消されます。更に、動かない足を動かすことで脳血流量の増加や麻痺側の筋肉が反応することもわかってきています。つまり、この車椅子を使用すれば、歩行困難な方が、もう一度自分の足で移動することができる。リハビリしながら本来の自分の機能の回復が見込める画期的な車椅子といえます。

既に「足漕ぎ車椅子療法」として厚生労働省で認定され、介護保険の認定も受けることができます。海外ではデンマーク、オーストリア、カナダ、台湾等で特に賞賛の声を頂いており、多くの病院が取り入れているそうです。

関矢准教授は今後更に改良を重ね、在宅や教育現場で使えるマシンへ活用の幅を広げていきたいそうです。熱い思いの背景には「支援学校では自立訓練が行われているが、子供たちにとって決してリハビリは楽しい時間ではありません。足漕ぎ車椅子を使えば楽しんでできることでしょ。」と話されます。

足漕ぎ車椅子はオープンキャンパスで体験会を実施し、高校生にも乗車してもらいました。10



月8、9日の「2011東北こども博」でも健康福祉学科の出展として披露される予定です。また、ベガルタ仙台と提携して、ホームゲームでベガルタ仙台が勝利すると1勝するごとに1台寄付される提携をしたそうで、既に西多賀支援学校、船岡支援学校に寄贈され、活躍しているとのこと。

学内で足漕ぎ車椅子を使用している管理課の丸谷課長も「片麻痺の人は、一人で自由に動けないことが最大のストレスになります。この車椅子を使えば一人で移動することができるうえに、移動するスピードも早いので、たいへん重宝しています。片麻痺の人は手漕ぎ車椅子に乗ると左右の力のバランスが違うために一方向に曲がってしまい真っ直ぐ進めません。また、電動の車椅子では筋力が低下してしまう一方で、リハビリも兼ねられる足漕ぎ車椅子はある程度のスピードも出るし、ハンドル操作も簡単で小回りが利く点は素晴らしい」と絶賛されています。



## 剣道部の高橋 雄太さん、オマーン・スルタン国サマー・スポーツフェスティバルに参加



高橋さんは後列右から2番目

7月18～29日の12日間、高橋 雄太さん（名取市閉上出身・健康福祉学科2年）が、2012年で日本との国交40周年となるオマーン・スルタン国から被災地支援として招待を受けました。宮城からは仙台大の高橋さんのほか、東北大から1名、宮城学院大から1名の大学生、宮城(石巻)・福島の高校生3名の計6名が「オマーン・サマースポーツフェスティバル」に参加しました。今回本学からの派遣となったのは、剣道部顧問の斎藤浩二先生を通じ派遣要請があり実現したものです。6人は3.11東日本大震災で家屋が流失したり福島原発の避難区域に居住していたりと今回の震災で被災した経験を共有する生徒や学生たちです。

震災当日、高橋さんは名取市閉上の自宅に祖父母と3人でいたそうです。津波警報発令後急いで足腰の弱い祖父母を、とっさの判断で通りがかりの車に乗せ、それから自分も避難したそうです。海岸沿いの閉上地区は津波により壊滅的な被害を受けました。現在は両親含め一家で仙台市に住所を移しているそうです。

オマーン国からは、彼らが楽しめるようにとスポーツ交流をはじめ全行程を通じオマーン国政府の要人からの温かいもてなしを受けました。高橋さんは中学時代、名取市の姉妹都市交流で豪州へ青少年交流派遣の経験もあり、海外への渡航は初めてではなかったものの中東への渡航経験はなく最初はやや不安もあったとか。オマーン政府との連携で、このようにこまやかな配慮の元で沢山のアクティビティを楽しみ、かけがえない経験となったそうです。

### 高橋 雄太さん（健康福祉学科2年）

今回の派遣でオマーン政府のお世話になった方々それぞれに、「大丈夫か?」「家族は無事か?」と温かい言葉をかけていただきました。震災後初めての楽しい思い出でもあり、本当にすばらしい経験をさせていただきました。震災では辛いこと、なくしたものも沢山ありましたが、いつまでも引きずらず、今は前向きに生活していきたいと思っています。現在は保健体育科教諭と、特別支援教諭それぞれの教職科目を取得し、教員をめざしている高橋さんです。震災の辛い経験を大きな糧とし目標の現役合格に向けて力強く邁進していくことと思います。

### ～高橋さんの手記から…主な行程表～

7月18日(月)成田(エチハド航空7便)アブダビ経由マスカット空港へ

7月19日(火)

11:50 マスカット空港へ到着、フムード氏(法務省)、フメイド氏、マルク氏(ともにスポーツ省)と運転手ハムード氏に出迎えた。交替で我々をフルアテンドしてくださった。前記3氏は青年の船で日本に滞在経験がある大の日本びきの青年たち

13:00 City Season Hotel到着(5スターホテル)に宿泊

7月20日(水)

15:30 アル・ホタ・ケーブ(鍾乳洞)見学、キャンプ場へ到着

19:00 Summer of Sportsの集會に参加

19:30 屋外でアラビア式夕食後、ニズワスポーツコンプレックス内に宿泊

7月21日(木)

10:00 ワジバニ(山麓の村)の古民家、農園、大渓谷等見物

16:00 4kmのマラソン大会。200名位が参加

我々も日本チームとして6名参加。2000mの高地の初マラソンだったが、全員完走

17:00 綱引き大会。4チームトーナメント戦。日本チームあえなく初戦で敗退

7月22日(金)

16:00 クルムビーチで海水浴

20:00～23:00 日本人会有志による東京大呂(日本食料理店)での歓迎会。オマーン在8人の日本人が参加

7月23日(土) ルネッサンスデー。祝日となる。

08:00 スペール博物館、王宮、オールドマスカット見学

17:00 オマーンの若者とウッドボール、サッカー後野外パーティー

7月24日(日)

12:00 オマーン国スポーツ省にてラシッド次官と面談

17:00 スルタンスポーツコンプレックス到着後、スネイディ大臣と面談。その後オマーンチームとサッカーをし、バドミントン、水泳など楽しむ。

7月25日(月)

08:00 ナハール城見学、驢馬に騎乗。

20:00～21:30 外交官クラブにて外務省ザラフィ次官(前駐日大使)主催の晩餐會に招待される。クサイビ米州局長(前々駐日大使)も同席。

7月27日(水)

08:00 グランドモスク見学。

19:30～21:30 休暇から一時帰国のムスラヒ大使私邸に夕食に招かれる。

7月28日(木)

08:00 カンタブビーチでボートを借りクルーズ。クルーズ先で水泳を楽しむ。

13:00～16:00 City Center Hallにてショッピング。

19:00～21:30 森元大使公邸に夕食に招かれる。

7月28日(金)

10:50 マスカット空港からアブダビ空港へ

13:35 EY無料リムジンでドバイへ。昼食後ショッピング組と市内見学組に。

18:25 EYリムジンでドバイよりアブダビへ。



ナハール城

地元新聞にも掲載

## 2011年 桜美林大学大学院アメリカ研修に参加して 8/25(木)～9/2(金)



ザビエル大学のトーマス先生と船戸ゼミ一行

本学では、桜美林大学大学院大学アドミニストレーション専攻修士課程（通信課程）に事務職員を派遣し、資質向上を図っています。本学からの派遣職員が多く所属する船戸高樹教授のゼミでは毎年アメリカ研修が実施され、今年度の研修には全国からの船戸ゼミ修了生・現役生合わせて18名が参加し、本学から朴澤学長、修了生の入試創職室・杉本、現役生の庶務課・薊の3名がアメリカの高等教育機関の現状を学んできました。

今年度はAGB（Association of Governing Boards - 大学理事会協会）、UE（United Educators - 学校のみを対象とした保険会社）、Xavier Universityを訪問しました。

最初はワシントンD.C.にて、1230以上の大学理事会に対しアドバイスやコンサルティングを行っているAGBのDr. Susan Johnston氏から、経済の後退に伴い大学への補助金も減退していることや営利型大学の台頭、進学層の変化などアメリカの大学が直面する問題と、大学を強くするための理事会の役割についてレクチャーを受けました。次に幼稚園から大学まで会員校が出資し運営している保険会社UEからは、大学でのリスク事例について聞きました。訴訟社会のアメリカでは、学内の怪我等に留まらず、就職試験の失敗原因を教員の推薦状に問われたり、カリキュラム履修がうまくできなかった場合やライセンススクールで資格が取得できなかった場合に「大学側の説明が悪い」と裁判を起こしたりする学生もいるということです。日本とは違い、大学のサービス項目はハンドブックに明記されその不履行がリスクにつながる、「契約」を重視した環境ではあるものの、大学と学生の役割を把握し、教職員もしっかりとした意識で対応する必要があると感じました。

その後はニューヨークを経由し、ニューロンドンのConnecticut Collegeでラーニング・アウトカムについて講義を受ける予定でしたが、ハリケーンのアイルーンがニューヨークを直撃したためニューロンドン行きは中止となり、二日間の足止めとなったワシントンでそれぞれ有意義な時間

を過ごしました。

二日後、まだハリケーンの影響で乗車予定だった電車は運行せず、バスで5時間をかけニューヨークへ移動、短時間ながらも同時多発テロから10年を迎えるニューヨークを各自堪能し、翌日オハイオ州のシンシナティへと飛行機にて出発しました。

シンシナティでは、雄大なオハイオ川を横目に市内北部にあるXAVIER UNIVERSITY（私立大学・学生数7,000名）へ向かいました。全米でも屈指の実力を誇るバスケットボールの専用アリーナはなんと1万人以上収容可能なほか、構内はほとんどここ2、3年新たに建てられた建物で、「私が留学をしていた12年前とは別世界（薊職員）」ということでした。卒業生による寄付文化が定着しており、各棟には個人名や企業名が掲げられています。



ジョージタウン大学

この大学では、二日間に渡り大学マーケティングが専門の

Ph.D. Thomas Hayes氏に『アメリカにおける大学のマーケティングの歴史と現状』と『マーケティングを成功させている大学のケース・スタディー』についてレクチャーを受けました。大学マーケティングにおいては変化の兆しを見極めることと、地域社会に貢献する卒業生を育てること、人材を育てるためには入学予定段階から在学中、卒業後まで温かくフレンドリーなサービスの充実が求められる点が3つの大きなポイントであるとの話を聞き、学内で働く教職員へのインターナルマーケティングも含めて教育現場でもリサーチとマーケティングが重要だと感じました。



ザビエル大学

ケース・スタディーでは、経営の危機に陥った大学がマーケティングや特色を打ち出すことで立ち直った事例を聞くことができました。本学も地方を拠点とする私立大学であり、今後一層の18歳人口減少や震災の影響といった外的リスクにも囲まれ、存続が危ぶまれる時が来ないとは言えません。社会の高い期待に応えられる大学となるためには、大学全体で意識を共有しマーケティングに取り組む必要があるのではないのでしょうか。

研修では、普段日本では知ることのできない生の情報を得ることができました。今後はこの貴重な経験を日々の実務において大学へフィードバックしていきたいと思えます。

<入試創職室 杉本、庶務課 薊>

## 審判として一流選手と同じフィールド上に

8月31日(水)にACミラン(イタリアセリエA)とJリーグで活躍した往年の名選手がユアテックススタジアム仙台に集い、「日伊レジェンドマッチ(主催:宮城県サッカー協会など)」が行われました。これは東日本大震災の復興支援の一環として行われたもので、試合の収益は全て被災地のサッカー復興支援に充てられます。本学臨時職員の伊勢裕介さんやOBの平間亮さん(平成19年度卒)が審判というかたちで復興支援事業の一役を担いました。

### 臨時職員の伊勢裕介さん(平成22年度卒)

今回、会場を沸かせた往年の名選手たちは私が3、4才の頃に活躍した人ばかりなので知らない選手も多くいましたが、審判というかたちで震災復興に携わり、少しでも力になれて良かったです。

私はJリーグや国際試合をジャッジする一級ライセンス審判になることを目指しています。審判を



目指すのは日本のトップ選手が集うフィールドに立ちたいという思いがあるからです。勿論、はじめは選手としてその場を目指していましたが、大学2年の時にそれが叶わないことに気づき、別の形でフィールドを目指すことを決意しました。そこで私が選択したのが審判でした。本学の多くの学生も指導者を目指しています。しかし、指導者は試合中にフィールドの中に立つことはできません。一方で主審はフィールド内でプレイヤーと共に走り回り、試合の統制という重要な役割を担います。このことが審判を目指す大きな魅力となっています。

私は現在、2級ライセンスを取得しており、社会人の試合やJリーグの練習試合などの審判を行っています。この一級ライセンスは誰もが受験できるものではなく、東北では毎年4人しか受験することができない敷居の高い資格です。今回、私は東北の審判委員会から強化指定を受けたので、受験するチャンスでできました。審判という道が学生の進路の選択肢として示しているよう頑張るとともに、一流選手と同じフィールドで試合を創っていきたいです。

## 体操競技部インカレ



8月29 - 31日に和歌山ビッグホールで行われた体操の全日本大学選手権大会(インカレ)は団体戦4位、個人戦でも下田悠太さん(体育学科4年)が6位に入りました。種目別跳馬では宗像陸さん(体育学科4年)が跳馬で2位、山本収一さん(運動栄養学科3年)が3位、種目別つり輪では佐藤亘さん(体育学

科4年)が3位となりました。また、昨年2部リーグに降格した女子は、団体戦で2位となり1部リーグに返り咲きました。

### [男子1部]

団体戦	4位	
個人総合	6位	下田 悠太(体育学科4年)
	13位	宗像 陸(体育学科4年)
	15位	石原 大(体育学科4年)
	17位	柴田 恭佑(体育学科4年)
個人種目別		
跳馬	2位	宗像 陸(体育学科4年)
	3位	山本 収一(運動栄養3年)
つり輪	3位	佐藤 亘(体育学科4年)

### [女子2部]

団体戦	2位	
個人総合	9位	橋 あすか(運動栄養1年)
	11位	浅見 真希(運動栄養4年)
	14位	千葉ありさ(運動栄養1年)

## 全日本プッシュスケルトン選手権大会



9月24日（土）に長野県スパイラルを会場に全日本プッシュスケルトン選手権大会が行われ、ホプスレー・リュージュ・スケルトン（B・L・S）部員や「伊達なSPORT PROJECT」の高校生3名が参加しました。この大会は今シーズンのワールドカップやアメリカズカップを遠征する日本代表選手の選考会になっており、日本のトップ選手が顔をそろえました。

そんな中、女子は新助手の小室希さん(平成19年度体育学科卒、22年9月大学院修了)が2連覇を果たし、大向貴子さん(平成18年度運動栄養学科卒)が準優勝、小林真衣さん(体育学科2年)が3位に入り、表彰台を本学関係者が独占しました。男子は本学OBの笹原友希さん(平成18年度運動栄養学科卒)がバンクーバーオリンピック男子代表の田山真輔選手（㈱システックス）を制して初優勝を果たし、松本紳司さん（体育学科4年）が3位入賞しました。

「伊達なSPORT PROJECT」の選手も、入賞には届かなかったものの全員が自己ベスト記録を更新

しました。3選手は今後、プロジェクト最大の目標であるユースオリンピック出場を果たすために、11月5日からアメリカとカナダで行われる予選会に挑みます。ここでアジア・オセアニア地区でランキングの上位3名以内に入らなければユースオリンピックの道はついでてしまいます。今大会で明らかとなった各々の課題を修正し、是非出場権を勝ち取ってもらいたいです。



全日本プッシュスケルトン選手権大会

本学関係者の主な結果

【男子】

- 優勝 笹原友希さん  
(平成18年度卒 / 安曇農園浅川)
- 第3位 松本紳司さん(体育学科4年)
- 第4位 近藤圭佑さん  
(平成19年度卒 / 埼玉大学研究生)
- 第7位 谷藤祐貴さん(体育学科4年)
- 第17位 野倉大貴さん  
(伊達なSPORT PROJECT / 柴田高校2年)
- 第21位 佐藤 弾さん  
(伊達なSPORT PROJECT / 柴田高校2年)

【女子】

- 優勝 小室希さん (仙台大学新助手)
- 第2位 大向貴子さん (平成18年度卒 / 長野市役所)
- 第3位 小林真衣さん (体育学科2年)
- 第4位 米倉理絵さん (運動栄養学科3年)
- 第6位 明石七海さん (体育学科3年)
- 第8位 安藤早紀さん  
(伊達なSPORT PROJECT / 柴田高校2年)

## ボート全日本選手権

9月15 - 18日にボートの第89回全日本選手権が戸田漕艇場において開催されました。この大会は、全国から社会人強豪クルーが集う、国内最高レベルの大会です。本学漕艇部も8月末に行なわれたインカレから3週間というタイトなスケジュールでしたが、順調に調整を進め、結果を残しました。

- 男子舵手なしフォア 第2位
- 男子舵手つきフォア 第2位
- 女子 舵手つきクォドルプル 第4位



## 男子バレーボール部 国体・天皇杯へ



バレーボールの全日本バレーボール選手権大会 天皇杯の東北ブロックラウンドは9月10、11日に山形県体育館を会場に行われ、各県の代表6チームに高校・大学・社会人リーグの各カテゴリーを制した3チームを加えた全9チームで全国大会出場の1枠を懸けた熱戦が繰り広げられました。本学は東北地区大学リーグの代表としてAチームが出場し、宮城県代表としてBチームも出場しました。強豪チームが集まりましたが、決勝戦は本学のAチームとBチームの対戦で、本学の層の厚さをうかがい知ることができました。12月14～18日に東京体育館で開催されるファイナルラウンドに出場します。昨年は初出場ながら1回戦で関東大学リーグ1部の国際武道大学に勝利し、プレミアリーグのパナソニックとの対戦を果たしました。昨年よりもチーム力はあがっており、ファイナルラウンドでのベスト8入りに期待がかかります。

バレーボール部は8月26～28日に行われた「国民体育大会東北ブロック大会」でも、ベストメンバーが組めなかったにもかかわらず宮城県代表として本戦の出場権を獲得。同じく東北代表権を獲

得した秋田県代表でも本学部員がチームの中心を担っています。

### バレーボール副キャプテンの 渡辺侑也さん(体育4年)



男子バレーボール部は着実にレベルアップし、選手の層も年々厚くなっています。これには部員の努力は当然ですが、多くの人たちの支えが大きいです。その一つは、トレーニンググループの加賀新助手のトレーニングです。加賀さん

さんが組んだトレーニングメニューを週3日こなしているため、垂直跳びも高く飛べるようになり、パワーも付いたと実感しています。体つきは他大学に負けていません。もう一つが栄養サポート研究会です。定期的な栄養指導に加え、試合の合間に出してくれる間食提供は、選手たちが少ない時間で栄養を摂ることができ、試合の活力となっています。最後に、学生トレーナーの川田諒さん(体育4年)の存在です。練習や大会に帯同してもらい、選手のケアを行ってもらえるので、選手が全力でプレーできています。これらのチームを支えてくれる体制が、自分たちの強みになっています。試合が続きますが、最大の目標はインカレでのベスト8なので、サポートしてくれる方々に報いるためにも1試合1試合を無駄にせず課題を見つけ、チームのレベルアップを図っていきたいです。

# Monthly Report

Vol.66 / 2011 Oct.

## 「2011東北こども博」盛会裏に終了



10月9、10日に被災地の子どもたちにスポーツやアニメのキャラクターで楽しんでもらうイベント「東北こども博」（主催：2011東北こども博実行委員会）が本学を会場に開催され、両日とも天候に恵まれ13,800名の方々に来場いただきました。仙台大学としてはスポーツエリアとお祭りエリアを担当し、学科単位での企画や教職員有志によるイベント、ちびっ子スポーツ広場のキックターゲットなど各種企画によりイベントを大いに盛り上げました。

学生も約360名がボランティアとして活動してくれました。イベントはたいへん好評で、「来年も是非開催してほしい」という声や「子ども達は学生が盛り上げてくれることを喜んでいた」という感謝の声も多く聞かれました。また、この様子は開催期間及び前後に「日本経済新聞社」をはじめ、のべ15社もの新聞・テレビ局に取り上げられるなど、反響の大きさを物語っています。関わった皆さまたいへんお疲れ様でした。



### 目次

東北こども博盛会裏に終了	1
仙台大学高校会より寄贈 中国、タイ王国から留学生	2
朴沢学園高等師範科卒業 生から寄贈品	3
伊達なSPORT PROJECT 海外遠征に出発	4
学生が地域イベントに協力	6
海外研修報告(台湾、フィン ランド、アメリカ)	7
朴准教授より海外研修報告	10
学生の活躍	11

学生の活躍や、取り組みをご存知でしたら  
広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関  
にも旬な話題を提供していきたいと考えて  
おります。

本誌へのご意見・ご質問等がございまし  
たら、広報室までご一報ください。

#### 広報室

直通 0224-55-1802

内線 佐藤美保 256

土生佐多 200

伊東宏之 271

Email:kouhou@scn.ac.jp

## 仙台大学高校会より第5体育館へ時計(目録)が贈呈

～ 1人でも多くの高校教員輩出を願い～



10月13日(木)、仙台大学高校会の会長である  
たきかわまさひろ  
滝川雅啓氏(4回生)より、朴澤学長に対し、第  
5体育館内に設置する時計の目録が贈呈されまし  
た。

仙台大学高校会とは、平成15年に発足し、主  
に宮城県内の高校教員になられた本学の卒業生  
で構成されている会で、現在、約150名の会員  
の方々が教育現場の第一線で活躍なさり、また、  
現役引退後は後進の育成にご尽力くださって  
います。

滝川会長によりますと、第9回の総会にて母校  
校である仙台大学へ何らかの寄付をしたいとい  
う意見が出て、新設された第5体育館に時計を贈  
呈することにより、それを目にした学生達から  
1人でも多くの高校教員が輩出されるよう願  
いを込めたそうです。目録を受け取られた朴澤  
学長から「同窓生が常に母校のことを気にかけ  
てくれているのは大変有難く、時の経過を刻む  
時計を寄贈いただくことは、後輩である現役  
学生にとって、先輩との繋がりを肌で感じる  
ことになります。」と感謝の言葉がありました。

時計は現在同会で選定中だそうで、今後、  
第5体育館には、諸先輩方の熱い思いが込め  
られた時計がお目見えし、高校の教員を  
目指す学生達にとって力強い励みとなる  
ことでしょう。

## 中国からの留学生



10月13日(木)国際交流提携大学から来年4月に  
大学院に入学予定の留学生5名が挨拶のため馬  
臨時職員と共に学長室を訪れました。留学生  
たちは10月17日から3ヶ月間、東北多文化  
アカデミー(仙台市)で日本語を学び、4  
月からの大学院入学に備えます。

写真左から	ほう 鮑 ちん 陳 そん 孫 る 盧 たく 卓	うん 雲 か 家 き 奇 けん 健 けん 健 ぶん たつ 文 達	さん さん さん さん さん さん	<瀋陽師範大学> <吉林体育学院> <吉林体育学院> <上海体育学院> <上海体育学院>
-------	--	---	----------------------------------	--

## シーナカリンウィロート大学からの留学生



10月3日(月)に国際交流提携大学シーナカ  
リンウィロート大学(タイ王国)の留学生4  
名が挨拶のため鎌田教授、大山教授と共に  
学長室を訪れました。ソンプラソン・プラ  
セトスリさん(写真:左2)とタニツ  
ト・リンプラセルトさん(写真:左3)は10  
月から3月までの半年間、学部の科目等履  
修生として本学で学びます。

マネーノート・カナンタイさん(写真:右  
2)とテラスワト・ワタナサクさん(写真  
右3)は5月からの科目等履修生としての  
日程が終了したことを朴澤学長に報告し、  
感謝の言葉を述べました。

## 朴沢学園高等師範科卒業生から寄贈品



左から渡辺さん、赤松さん、近江先生

10月7日（金）に朴沢学園高等師範科卒業生の渡辺京子さん(旧姓：増澤 / 昭和14年度卒)、赤松くに子さん(旧姓：吉田 / 昭和15年度卒)が朴沢女子高等学校で教鞭をとられていた近江孝子先生と共に朴澤理事長・学長を表敬訪問し、当時の貴重な研究作品や雛形などをご寄贈くださいました。

お二方には7月の仙台市指定有形文化財に指定された際にも昨年から客員教授の伊達宗弘先生の聞き取り調査に協力いただき、資料の来歴の証言を行っていただいております。今回も伊達先生が聞き取りを行い、その結果「加藤陸奥雄先生(本学園の元理事で第13代東北大学総長)が撮った写真を元に作品を作成したものもあったそうで、加藤先生が如何に朴沢学園のために献身的な協力を惜しまなかったかが明らかになりました。」と話されています。

朴沢学園の「裁縫教育資料」は裁縫教育を知る上で貴重な資料で、7月1日に掛図や教科書類課題研究提出物など557点が仙台市指定有形文化財に指定されました。この他にも貴重な資料はまだあり、今回寄贈いただいたものも含め、文化財の指定への申請が予定されています。

## 朴沢学園裁縫教育資料展を開催 11 / 1(火) ~ 6(日)

11月1 - 6日に東北電力グリーンプラザを会場にして、今年7月に仙台市指定有形文化財に指定された朴沢学園「裁縫教育資料」の展示会を行います。近代日本の裁縫教育の展開をその初発からたどることができる重要な歴史資料を展示しますので、是非ご来場ください。



【仙台市指定有形文化財】  
(平成23年7月11日指定)

# 朴沢学園 裁縫教育資料展

日時 11月1日(火)~6日(日)  
10:00~18:00

会場 東北電力グリーンプラザ  
「プラザギャラリー」

パネルディスカッション  
11月5日(土)13:30~  
会場/コミュニティルーム

主 催 学校法人 朴沢学園 (仙台大学・明成高校)

後 援 仙台市教育委員会 財団法人宮城県文化振興財団 河北新報社

お問い合わせ (学) 朴沢学園法人事務局 Tel:022-278-9136 Fax:022-278-6219 E-mail:somu@hozawa.ac.jp  
ポスターデザイン 明成高校デザインアートコース 相澤節志 相取由希奈



## 「伊達なSPORT PROJECT」選手が第1回冬季ユースオリンピック出場を懸けて遠征に出発



10月25日(火)、スケルトン競技での第1回冬季ユースオリンピック出場を目指している「伊達なSPORT PROJECT (<http://www.sport-project.jp/>)」の3選手が、ユースオリンピック出場予選会が行われる北米に向けて出発しました。出発式にはご父兄にも参加いただき、選手たちから決意表明として「女性が一人なので不安はあるが、ユースオリンピックの出場権を獲得するために一生懸命頑張ります(安藤早紀)」、「家族や友人、協賛企業の方からの大きなサポートがあってここまでできたので、その応援に応えられるようなレースにしたい(野倉大樹)」、「1ヶ月の海外遠征なのでケガをせず、堂々とした滑りをしたい。また、高校の授業に取り残されないよう現地でも勉強を頑張りたい(佐藤弾)」と述べました。プログラムの責任者である鈴木省三教授からは「ユースオリンピックの出場権獲得は大事であるが、それ以上に選手たちをケガなく無事に帰国させることが一番重要と考えています。選手たちには遠征を通して人間として一回り大きく成長してもらい、柴田高校や被災

地となった東北地方にフィードバックできるものを得てきてもらいたい。その上で出場権が獲得できていけば言うことなしです」と話しました。

遠征期間は11月下旬までで、アメリカとカナダで開催されるユースオリンピック予選会全4戦に出場します。ユースオリンピックには、アジア・オセアニアから男女共に3名の出場枠があり、総合成績でアジア・オセアニアランキング上位3カ国に日本がランクインした場合、日本にはユース五輪の出場権が与えられます。

2年越しで取り組んできた選手育成の集大成が発揮されることへの期待と、選手たちが海外遠征を経ての成長が楽しみです。

遠征期間：平成23年10月25日～11月22日

遠征場所：パークシティ/アメリカ(第1・2戦)  
カルガリー/カナダ(第3・4戦)

### 1. 選手

のくらひろき

野倉大樹選手(柴田高校)

さとう だん

佐藤 弾選手(柴田高校)

あんどうさき

安藤早紀選手(柴田高校)

### 2. スタッフ

鈴木省三教授

柳谷怜兵新助手

野澤悠樹コーチ(本学0B)

### 3. スケジュール概略

10月26日～28日 滑走合宿

10月30日～4日 パークシティFIBTスケルトンスクール

11月5日～10日 ユース五輪予選会第1・2戦

11月13日～19日 ユース五輪予選会第3・4戦

## KMCHのサークルブース移動



10月21日(金)にKKMCH2階にあるサークルブースの移動があり、16時に一斉に新しいブースへの移動を行いました。ブースは40あり、サークルによっては数多くのトロフィーを飾っているところもあるため、荷物の移動だけでもたいへんそうでした。

KMCHブースはサークル単位での交流だけでなく他のサークルとの情報共有の場とするべく、オープンスペースに敷居だけで区切られています。更に、毎年このブースをシャッフルすることで更なる情報共有が促進されることを目的としています。例年ですと6月に移動を行っていますが、今年は東日本大震災のため、半期遅れての移動となりました。

## 学生相談室主催研修会

「自律神経バランスを自分自身で整える ころとからだのセルフケア」 <学生相談室より>



10月11日、アイ・プロジェクト統合医療研究所、ナチュラル心療内科クリニックの竹林直紀先生をお招きして、「自律神経バランスを自分自身で整える ころとからだのセルフケア」というテーマで研修会を開催し、教職員と学生を合わせ36名の参加がありました。

今回は東日本大震災の被災者と援助者のための体験ワークショップとしての開催でした。講師の竹林先生は、日本心療内科学会認定「心療内科」専門医、日本心療内科学会登録医として、クリニックでは薬を使わずにストレスやトラウマによる心と身体の症状や病気を治療していらっしゃいます。東日本大震災の後、宮城県へも数回きて活動をされています。今回の研修会では、薬に頼らなくてもできるセルフケアの方法をご指導いただきました。

強いストレスにさらされ続けると自律神経のストレス反応が学習され、ストレスから開放されてもストレス反応が続くようになります。つまり、今回の震災のような強いストレスにさらされ、避難所生活が続いて不眠等になった場合、避難所生活から解放されてからも不眠が続

くということでした。

このような状態の自律神経へのアプローチ方法について、自分で出来る方法を体験しながら教えていただきました。行動からのアプローチでは、腹式呼吸が良い休養になるということでした。良く腹式呼吸がリラクゼーションに良いと言われます。実際に、小さな温度計を指に挟み腹式呼吸を繰り返すと、手の温度が上昇するというビックリ体験もあり、腹式呼吸の身体への影響を体感しました。

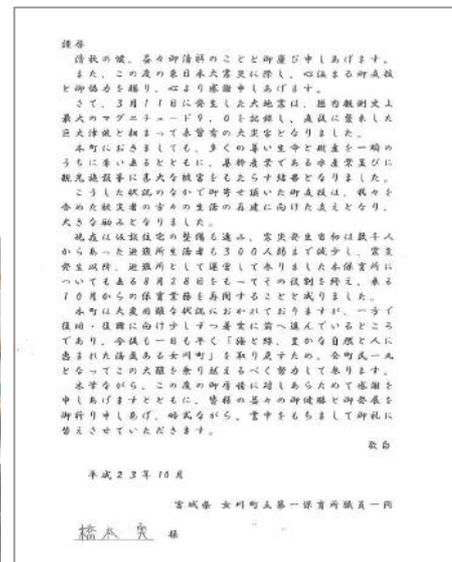
ほかに栄養面からのアプローチ方法として、低血糖予防のお話がありました。甘いものやご飯のような炭水化物ばかりの食生活だと血糖の変動が激しくなり、気分の変動が激しくなったり、体調不良となるので、たんぱく質などの摂取が大切になるとのことでした。また言葉からのアプローチでは、プラスの言葉が大切ということでした。「梅干」と聞くだけで唾液が出てくるように、私たちの身体は言葉に反応します。例えば「すみません」を「ありがとう」というプラスの言葉に置き換えて使うことで、プラスの情報が入ってきて行動につながるということです。

以上の行動・栄養・言葉の3つからのアプローチ方法を、楽しく体験しながら学ぶことができました。どれもすぐに実践できることで、日常に役立つことばかりです。今回、使用した温度計と腹式呼吸の経過を見るパソコンソフトを頂きましたので、興味のある方は是非、体験していただきたいと思います。

今後も、その時々にあった内容で研修会を開催したいと考えております。興味のあるテーマがありましたら、ご指案下さい。

## 女川町立第一保育所からの御礼状

3.11の震災後避難所としての役割を果たし、今月から通常の保育園業務を再開した女川町立第一保育園より御礼状が届いております。本学の同保育園での活動は、避難していた方々が仮設に移る8月までの毎週木曜日に教職員・学生（健康づくり運動サポーター）が訪問してエコノミー・クラス症候群予防体操を実施していました。



## みやぎ大菊花展柴田大会がいよいよ開催



柴田町の秋を彩る「みやぎ大菊花展柴田大会」が船岡城跡公園において10月20日(木)～11月13日(日)まで開催されています。20日には開

幕式が挙行され本学から佐藤滋学長補佐が参列し関係者とともにテープカットを行ないました。

今年は3.11東日本大震災があり、春の祭典「さくら祭」が中止になったことから、秋の菊まつりの開催が危ぶまれたそうですが、柴田町近隣市町をはじめ仙台市や大崎、栗原市などの菊愛好家たちの復興にかける思いは大きく、町の助成金や企業など100件以上のご協賛があり今年も無事開催する運びとなったそうです。

10月28日の競技花審査会では「仙台大学学長賞」が授与される菊も選ばれる予定です。菊花栽培愛好家の丹精込めた作品が勢ぞろいですので、期間中には是非足を運んでみてはいかがでしょうか。

## 学生がボランティアとして「子育て応援団 すこやか2011」に協力



小林唯さんが子供たちと開会宣言

10月22日(土)、23日(日)にセキスイハイムスーパーアリーナ(グランディ・21)を会場にして「子育て応援団 すこやか2011」(宮城県、仙台市、ミヤギテレビ、宮城県医師会などで行われる実行委員会が主催)が行われました。このイベントは子供を楽しく育てることのできる社会環境づくりを目指し、来場者が楽しい時間を過ごす中から、子育ての助けになるものを一つでも持ち帰っていただく機会の提供を目的として実施されています。放射線に関するミニ講座や幼稚園・保育園児によるステージ発表、親子で楽しめるワークショップなどが行われ多くの来場者を集めました。本学からも日頃の活動で地域の方と関わる機会が多い「障害者競技スポーツ部 UNITY」(以下：ユニティー)と「障害者スポー

ツサポート研究部Co-Act」(以下：コ・アクト)の学生等約30名がボランティアとして参加し、「みんなでチャレンジ! ワクワクひろば」ブースで遊び場を提供しました。学生が事前に準備した複数の遊具や体を使ったゲームなどで子供たちは楽しそうに遊んでいました。

こはやしゆい  
子供達と共に開会宣言を行った**小林唯さん**  
(健福3年 / 障害者競技スポーツ部UNITY)



準備段階からコ・アクトとユニティーが協力して意見を出し合い、「家庭ではできない遊びを提供すること」、「安全に遊んでもらうこと」の2つを念頭において準備をすすめました。ダンボールで作った大きな積み木やパズル、JPクッションを

使ったゲームなどでしたが、子供たちには元気に楽しく遊んでもらえたので良かったです。これまでも様々なボランティアを行ってきましたが、今回の活動が一番たいへんでした。それは来場者が多かったため休憩も取れませんでしたし、何よりも子供たちがケガをしないように終始気を配る必要があったためです。しかし、2日間とも何事もなく無事に終わることができましたし、子供たちが可愛く元気だったので楽しい2日間でした。



写真提供 坂根教授(生涯学習センター長)

## 子ども達に「食」の大切さを

～みやぎまるごとフェスティバル～



多彩な「味」や「技」が一堂に会し、宮城県をまるごと体感できるイベント「第12回みやぎまるごとフェスティバル」が10月15、16日に宮城県庁及び勾当台公園で開催され、本学からも運動栄養サポート研究会の学生10名と丹野准教授、

竹内新助手、菊地新助手、服部新助手が参加しました。このイベントに協力してから5年目を迎える今年は、宮城県の依頼により「キッズ食育パーク」というコーナーを任されました。このコーナーでは未来の食育の担い手である児童等に楽しみながら「食」の大切さを伝えることを目的として みんなで作ろう！「食育フラッグ」、レンジDE簡単！野菜Cake！チャレンジ！3色食品群わ・な・げ！という3つのイベントを行い、子供たちに関心を持ってもらいました。「みやぎまるごとフェスティバル」は今年も大盛況で、学生達も子ども達との交流が楽しかったようです。



## 海外留学報告会

～台東大学・カヤ二応用科学大学～



10月5日（水）にF 101教室で「海外留学報告会」が開催され、台東大学（台湾）、カヤ二応用科学大学（フィンランド共和国）に留学した学生から留学先での講義や生活等について報告がなされました。今回の報告会には教職員・学生あわせて38名が聴講するために出席し、教員や学生から英語での質問が出されるなど、積極的な質疑応答がなされました。

台東大学への短期留学プログラム（2月28日～ながいのぞみ3月28日）に参加した永井希さん（体育学科4年）からは日本と台湾の比較と異文化体験が報告された後、今度は中国への留学を希望してい

るので中国語の勉強を継続し、将来は中国語を活用できる職業に就きたいとの目標が述べられました。フィンランド短期留学プログラム（2月

なかつりのひる21日～3月15日）に参加した中津範洋さん（大学

つねだみか院2年）、恒田三加さん（運動栄養学科3年）、

かのりょうすけ狩野良介さん（体育学科2年）の3名からは、授業内容や留学中の生活が発表された後、留学中に起きた東日本大震災時のカヤ二応用科学大学と本学の対応について感謝の気持ちが述べられました。更に、カヤ二応用科学大学に正規留学（2010年8月31日～2011年6月30日）してい

たかはしゆうた高橋悠さん（スポーツ情報マスメディア学科3年）からは10ヶ月間のフィンランド生活ならではの闇夜期と白夜についても説明がなされるなど、たいへん有意義な報告会となりました。

報告会の最後には小松恵一先生から、月曜5コマに小松研究室（A506）にて「ドイツ（語）クラブ」開催のお知らせがありました。今後ますます多くの学生が国際交流事業へ参加することが期待されます。なお、11月には今夏行われたハワイ州立大学研修とカリフォルニア州立大学ロングビーチ校研修の報告会が開催される予定です。

## CSULB短期研修報告

研修先: California State University, Long Beach



9月4日～11日までカリフォルニア州立大学ロングビーチ校（CSULB）において「2011年度仙台大学秋季短期集中研修プログラム スポーツ栄養&スポーツマネジメントセミナー」が実施されました。一昨年からスタートしたこの研修は3回目となり、今回はハワイ大学ATアドバンス研修と共に、(独)日本学生支援機構から留学生交流支援制度奨学金が支給されるようになりました。また、今まではCSULBの夏季休暇中に行われていたこのプログラムが、今回はCSULBの授業が開始



されてから実施されたため、CSULB学生との交流時間を設けていただくことができ、参加した学生達はより英語を使う機会を得ることが出来ました。

参加者は引率教職員として朴澤学長、佐藤学長補佐、林准教授、岩田講師、笹生講師、真木新助手、遠山事務職員の7名、学生は松本玲奈さん(運動栄養1年)、松本雄也さん(コーチング2年)、鈴木春菜さん・中村麻衣さん・櫻井潤平さん(マネジメント2年)、森麻衣子さん・高木美咲さん・東館亮太郎さん(運動栄養2年)、進藤亮祐さん(運動栄養学科3年)、奥山隆寛さん(トレーナー3年)、大黒ゆきこさん(スポーツ情報マネジメント4年)の11名です。

プログラムをより充実したものとするため、研修初日に岩田講師・笹生講師によるスポーツ栄養・スポーツマネジメントの事前レクチャーが行われ、林准教授は最終日に行う英語発表の指導をしてくださいました。これらの予習を通して学生

たちは専門外の講義でも興味を持って聴講することができ、またそれぞれ専門の講義ではより積極的に講師に質問をすることができたようでした。

スポーツ栄養に関しては2回の講義が行われ、スポーツドリンクや栄養補助食品のラベルを見て運動後にふさわしいものかを判断する、より実践的な演習形式の授業に学生達は熱心に取り組みました。プロ選手を含む運動選手の栄養指導を実施している施設の見学では、栄養士の方が施設で実践している栄養指導について説明をしてくださり、運動栄養学科の学生たちから次々と出てくる質問にも丁寧に答えてくださいました。

スポーツマネジメントの分野ではスポーツクラブのトップマネジメントなどについて2回の講義を受講し、少年野球用の施設とデビッド・ベッカム選手が所属しているプロサッカーチームLA GALAXYのホームであるスタジアムを見学しまし



た。これらの授業や施設見学を通し、日本と比較してスポーツの産業化が進んでいるアメリカを肌で感じる事ができました。マネジメントコース2年の鈴木春菜さんは「それら(日米スポーツマネジメントの違い)は文化や習慣の違いによるものではないかと思いました。両方の良い部分、悪い部分を見つめて、これからより一層知識を深め、将来につなげていきたいです。」と述べていました。

最終日の修了証授与式では学生達が事前に日本で準備してきた英語によるプレゼンテーションが行われ、仙台大学や仙台のスポーツの紹介、震災の報告をしました。CSULBの教職員の方々には日本が被災したことに心を痛めながらも、学生たちの堂々とした力強い発表に暖かい拍手を送ってくださいました。



## ハワイ州立大学研修報告

研修先: University of Hawaii



8月30日～9月5日の日程でハワイ州立大学 A T アドバンスコース研修が実施され、朴澤学長、佐藤学長補佐、山野准教授、高崎講師、笠原講師、白幡新助手、佐藤広報室長、若生事務職員と多田朝(体育学科4年、以下同じ)、狩野芳明、千葉宣貴、松島遥香、佐々木千花(運動栄養学科4年)、遠藤蓉子(体育学科3年、以下同じ)、貝沼由香里、菅原夕貴、三浦結の9名の学生が参加しました。今回で13回目を迎えるこの研修が今までと大きく違うのは、カリフォルニア5州立大学ロングビーチ校研修と共に、体育大学で唯一、独立行政法人日本学生支援機構からの奨学金を獲得したということです。これは、これまで継続してきた独自の取り組みが認められたという意味で、非常に大きな成果であり、参加する学生たちにとってもより身の引き締まる思いだったのではないのでしょうか。

研修初日には、ハワイ州立大学医学部で行なわれる「献体解剖」を見学しました。学生たちは実際に献体に触れることが許され、筋肉や腱、骨の付き方などを注意深く観察し、テキストでは理解しにくい部位を学び取ろうと積極的に意見を交わしていました。

翌日以降は、早朝からハワイ州立大学のATルームを訪れ、アメフト部の練習に帯同するATの活動を見学したり、マッキンリー高校 A T ルームで実際に現地の高校生を相手にテーピングするなど充実したプログラムを精力的にこなしました。他には、ハワイ州立大学のAT関連の講義や英会話の講義に出席しました。

この研修をとおして、学生たちは、日米間のATを取り巻く環境・教育体制・法律・認知度・職域の違いや大学スポーツを取り巻く環境の違いを肌で感じることができたのではないかと思います。また、多くの日本人ATC(全米公認アスレティックトレーナー)から話を聞く機会があり、それぞれの日本人ATCの行動力と自らの希望を実現する活気に、学生たちは良い刺激を受けたようでした。人と人の繋がりを大切にする、人との出会いが今日を形成しているということをお話いただき、これから社会に出る学生たちにとっては、とても意義深い経験になったことと思われま

す。今回は上記AT研修と同時に、健康福祉学科の学生を対象としたプログラム立案の可能性を探るため、山野先生、高崎先生、笠原先生が現地ス

ポーツクラブや老人福祉施設等6施設を視察しました。日本との根本的な違いは、アメリカ力は国民皆保険制度がないために、全額自己負担で利用するという点でした。ハワイ州は、全米一高齢化率の高い州であり、介護や福祉に関するサービス提供とその方法は、今以上に話題に挙がるだろうとお話でした。

11月中旬に、開催予定の報告会では、なお一層学生達の励みとなりますよう、一人でも多くの方々のご参加をよろしくお願い致します。



## イギリスで海外研修中の朴賢貞准教授より研修報告

研修先: University of Leicester & De Montfort University, Kingston University

### 1. 研修先での所属及び研修内容

レスター大学で私が所属しているのは医学部にある医療と社会教育学部に所属しております。9月26日から新学期が始まり、医学部の講義に参加しております。レスター大学で実施しているIPE実習プログラムは複数あり、医学部が中心になり地域にある他の大学との連携を取りながら共同のIPE実習を学年別行っています。学年別行うIPE実習プログラムすべてに参加する予定です。今年は10月から12月上旬まで次々と実習グループが地域に出向いて異なる学科学生で構成される5-6人のグループでIPE実習が行われる予定です。来年は1月から3月まで次のメンバーが参加する予定です。主に地域医療と病院を対象にIPE実習を実施しています。

新学期が始まる前までは、教員の教授法に関する講義（教員が参加する）や新学期の準備作業を手伝ったり、IPE実践の実生のIPE実習のための打ち合わせ（医者、地域看護師、助産婦、ソーシャルワーカー、OT、PT、薬剤師、子供相談士、ティンダー行政責任者、IPE実習の個人Tutorなど）を行い、IPE実習準備を行いました。

レスター大学での実習の関してはLiz Anderson教授とアカデミックコーディネーターのDebbie Forstの仕事に注目しながら日程を一緒にしております。

### 2. De Montfort University

歩いて20分程度のところにあるDe Montfort Universityでは薬剤学科、言語治療士、看護学科、ソーシャルワーク学科、助産科などの学生の講義に関わりながら研修を行っております。De Montfort UniversityでのIPE実習は今年が3年目の試みである、薬剤学科（De Montfort University）、医学部（University of Leicester）のIPCP（Inter professional Care Plan）実習に参加し、学年ごとに全部参観し、学生のグループ活動や病院、地域訪問実習時は同行しながら参加しております。地域にある病院や施設との連携が本当に良くできており、環境的にもIPE実習をするのに適している大学であることが改めてわかりました。

レスター大学には社会福祉学科がないので（社会福祉学科は大学院のみある）実習の時はこちらの大学の学生が医学部の学生と一緒にIPE実習をチームで行います。

こちらの大学ではSALT（Speech and language therapy）学科教授であるJenny Ford教授が私のスケジュールを担当してくれており、週何日間はDe Montfort Universityの講義や実習に参観しております。

### 3. Kingston University

最後に、ロンドン南部KingstonにあるKingston Universityはこれから時期をはかり定期的に行く予定です。こちらはソーシャルワーク学科が中心になり、大学院生のIPE実践に関わる予定です。関連学科はソーシャルワーク、看護、医療、リハビリ、地域医療などの関連学科の学生が参加するプログラムです。こちらはIPE実習期間に合わせてUniversity of LeicesterやDe Montfort UniversityのIPE実習期間と重ならない時期を図り参観する予定です。



IPE実習の振り返り時間です。左側の方は社会福祉学科のMark Martin教授

### 4. CAIPE活動

大学以外では、イギリス政府の元で活動しているCAIPE（Centre For The Advanced of Interprofessional Education）が主催する理事会議に定期的に1年間参加する予定です。9月20日はUniversity of Nottinghamでの会議に参加しました。



CAIPEの理事会の時のNottingham Universityで開かれた会議。左側の方はJenny Ford（De Montfort University）

これは私のイギリス研修を最初から招聘状を下さったCAIPEの会長であるHugh Barr先生が特別に推薦してくださったので可能でした。CAIPEではイギリスの国内及び海外のIPE教育の在り方について教育を行ったりIPE専門ジャーナル（Journal of Interprofessional Care）を発行する他、学生個人や大学、医療保健福祉分野の施設や機関の団体会員を募集してイギリスだけではなくEuropの国々のIPE関連教育や組織のIPE政策のすべてがこの機関から作られているのでとても勉強になります。アジアでも日本の複数の大学が団体会員になっており、香港、オーストラリアなどの大学が会員になっています。

### 5. 学会参加

去る9月14日から16日まではBelgiumのGENT市に位置しているGhent Universityで開かれた第4回目のEIPEN（European Interprofessional Education Network）に参加し、IPEに関連する研究動向や交流をはかることが出来ました。来年（2012.10.5-8）はATBH（All Together Better Health）国際カンファレンスが日本の神戸にある神戸学院大学で開かれる予定で医療関連の学会がいくつか共同で開かれる学会にEIPEも共同で行うようです。とても盛大な大きな国際学会の準備をしているようです。

## 軟式野球部が7年ぶりに東北地区を制して全国大会出場

軟式野球部が、10月7日に開催された「第33回全日本大学軟式野球選手権大会東北地区代表決定戦」を制し、7年ぶり2度目の全国大会出場を決めました。全国大会は、11月19 - 23日に熊本県で開催されます。

### 監督兼主将でエース

なるみとかや

鳴海貴也さん（体育学科3年）



部員は約40名で、そのほとんどが高校時代に硬式野球部の経験を持っています。練習は柴田町内の並松グラウンドで週に3~4回行っています。部員たちは自主性を持ち、楽しく、和やかであることが部内の雰囲気です。部員の野球に取り組む意識も様々で、「勝利にこだわる部員」、「野球を楽しみたい部員」、「週に1度体を動かしたい部員」など様々です。これらの部員を監督兼主将として1つにまとめるのはたいへん感じる時もありますが、そこは高校まで甲子園を目指していた負けず嫌いな



部員達なので、試合が始まるとスイッチが入ったように一体となって、結束して勝利に向かう姿は見事です。

春に新チームを結成してからは公式試合・練習試合を通して負けておらず、負のイメージが微塵もありません。この勢いのまま全国大会では「まず1勝」を目標に頑張りたいです。全国大会まで1ヶ月しかありませんが、全国でも勝てるチーム状態に仕上げたい大会に臨みたいと思います。

## 男子バスケットボール部が12年ぶりの東北大学リーグ制覇



男子バスケットボール部が「第12回東北大学バスケットボールリーグ」において優勝を果たし、全日本大学バスケットボール選手権大会（インカレ）の出場権を勝ち取りました。本学男子バスケットボール部の東北リーグ制覇は12年ぶりのことです。同法人である明成高校との高大連携事業によるバスケットボール強化に着手して7年目。明成高1期生が大学4年生となった今年は、各々のレベルと共にチーム力が着実に向上しています。東北地区第1代表として全国の舞台での躍動が期待されます。

インカレは国立代々木競技場第二体育館等（東京都）で11月21日~27日に開催されます。お近くにお住まいのOB・OGの方々、是非バスケット部員に温かい声援をお願いいたします。

とりたたいよう

### 主将の鳥田泰洋さん

今年は、コート上の選手がチームのために何が出来るかを常に考えてプレーし、試合に出ていないメンバーもチームの勝利のために何が



出来るかを考えてするチームです。そのため、今回の東北リーグ制覇はバスケットボール部員全員の力で勝ち取った優勝です。

この「チーム一丸となって戦う」大切さは、昨年就任した村田健一監督の教えで、部員全員が共通理解しています。インカレでは東北地区第1代表としてチーム一丸となり、勝利にこだわったチームプレーをしたいです。また、全国に散らばった高校のときの仲間とインカレの舞台で対戦することも楽しみです。

### 【個人賞】

- ・最優秀選手賞 とりたたいよう 鳥田泰洋さん（体育4年）
- ・ベスト5賞 さとうふみや 佐藤文哉さん（体育3年）
- すがわらけいた 菅原敬太さん（体育4年）
- たがしゅうぞう 田賀脩造さん（健康福祉3年）
- ・3ポイント王 佐藤文哉さん（体育3年）

## 女子サッカー部「インカレ東北地区予選」2連覇



女子サッカー部が全日本大学女子サッカー選手権大会（インカレ）東北地区予選大会を全試合無失点で制し、インカレの切符を勝ち取りました。初出場した昨年のインカレでは1次リーグで敗退しましたが、今年は1次リーグ突破（＝ベスト4）を目指してチームが一丸となっています。是非、温かい声援をお願い致します。

### 主将の阿部千紘さん(スポーツ情報マネジメント学科)



創部から今年で5年目ですが、年々選手の層が厚くなっています。特に今年は、プレー中に自分自身で考えて判断できる選手、積極的に練習に取り組む選手ばかりです。そんな選手たちが連動してチームとして全員サッカーができていますので、日頃のパフォーマンスを出し切れれば全国でも十分戦える自信があります。

今年のインカレでは、仙台大学女子サッカー部が新たな1歩を踏み出せるような歴史に残る大会にしたいです。

### 第20回全日本大学女子サッカー選手権大会（インカレ）

<1次R>2011年11月25日～27日

J-GREEN堺（大阪）

<準決勝> 2012年1月3日（東京）

<決勝戦> 2012年1月5日（東京）

なお、女子サッカー部は10月16日に決勝が行われた東北地区女子サッカー選手権大会（決勝戦10/16）を初制覇し、12月3日から行われる全日本選手権大会に東北代表として出場します。あわせて応援ください。

### 第33回全日本女子選手権（主催：財団法人日本サッカー協会）

<1回戦>2011年12月3日、4日（兵庫、三重）

<2回戦>2011年12月10日、11日（静岡、香川）

<3回戦>2011年12月17日、18日（岡山、広島）

<準々決勝>2011年12月23日（埼玉、兵庫）

<準決勝> 2011年12月27日（東京）

<決勝戦> 2010年1月1日（東京）

## 片桐亜子さんが東北学連選抜チームとして出場

～ 杜の都全日本大学女子駅伝～

10月23日(日)に仙台市を会場として行われた「杜の都全日本大学女子駅伝（第29回全日本大学女子駅伝対校選手権大会）」に陸上競技部の片桐亜子さん(体育学科2年)が東北学連選抜メンバーとして出場しました。片桐さんは昨年も東北学連選抜に選出されましたが、大会直前に体調を崩して出場を断念した悔しい経験をしています。今年は、昨年の悔しい気持ちと、仙台大学チームとして出場が叶わなかった部員の想いも背負って走ったそうです。片桐さんは任された4区4.9km（西公園こけし塔前から上杉山中学校前を経由しネットヨタ仙台黒松店前までのコース）で、2つ順位をあげる力走を見せてくれました。



### 片桐亜子さん(体育学科2年)

東北学連選抜チームの目標は2つ。過去に達成できていなかった「ゴールまで襷をつなぐこと」と、東北地区代表の「東北福祉大学に勝つこと」でした。結果は2時間19分27秒の19位相当（オープン参加のため順位は出ない）で襷を最後までつなぎ、東北福祉大学よりも先にゴールすることができました。

個人としても、レース展開は納得のいくものでした。普段はペース配分に失敗し、後半にスピードを落とすことがあるのですが、今大会ではペース配分を順調に刻むことができ、楽しく走ることができました。しかし、タイムだけを見ると決して納得のできるものではありません。全国のトップ選手に劣っていることは明らかなので、冬季の走り込みをしっかりと行い、来シーズンはトラックでも勝負できるようにトレーニングしていきたいです。

# Monthly Report

Vol.67 / 2011 Nov.

## 「伊達なSPORT PROJECT」選手がユース五輪出場権を獲得



スケルトン競技での第1回冬季ユースオリンピック出場を目指している「伊達なSPORT PROJECT (<http://www.sport-project.jp/>)」の3選手が、アメリカとカナダで開催されたユースオリンピック予選レース全4戦に出場し、佐藤弾選手と安藤早紀選手がユースオリンピック出場権を獲得しました。野倉大貴選手もヨーロッパで行われている予選会の結果次第で出場の可能性を残しています。

### 【予選レース結果】

- 第1戦 (アメリカ / パークシティ) 11月10日 (現地時間: 9日)  
男子 第2位: 佐藤 弾、第3位: 野倉大樹  
女子 第4位: 安藤早紀
- 第2戦 (アメリカ / パークシティ) 11月11日 (現地時間: 10日)  
男子 第2位: 佐藤 弾、第5位: 野倉大貴  
女子 第4位: 安藤早紀
- 第3戦 (カナダ / カルガリー) 11月18日 (現地時間: 17日)  
男子 第2位: 佐藤 弾、第3位: 野倉大貴  
女子 第4位: 安藤早紀
- 第4戦 (カナダ / カルガリー) 11月19日 (現地時間: 18日)  
男子 第2位: 佐藤 弾、第4位: 野倉大貴  
女子 第4位: 安藤早紀

### 目次

伊達なSPORT PROJECT ユース五輪出場権を獲得	1
保護者向け就活セミナー 就職体験談発表	2
朴沢学園裁縫教育資料展 仙台大学公開講座	3
東北リコー支援事業 みどり台中の高級学校訪問	4
管理栄養士「合格修練会」 「まなびや」学習支援報告会	5
	6
海外研修報告 内丸講師、朴准教授	7
学生の活躍	10

学生の活躍や、取組みをご存知でしたら  
広報室までお寄せください。  
Monthly Reportで紹介する他、報道機関  
にも旬な話題を提供していきたいと考えて  
おります。

本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、  
広報室までご一報ください。

#### 広報室

直通 0224-55-1802

内線 佐藤美保 256

土生佐多 200

伊東宏之 271

Email: kouhou@scn.ac.jp

## 保護者のための就活セミナー



写真：入試創職室提供

11月26日(土)にB300教室で「第2回 保護者のための就活セミナー」(主催：入試創職委員会)を開催し、約200名の保護者の来場がありました。このセミナーは保護者に就職活動に対する理解を深

め、目標達成に向けて家族一丸となって厳しい就職環境に立ち向かっていただくために開催しているものです。

はじめに、創職作業チームリーダーの齋藤博教授より、就職活動の現状と特徴、就職先や求人数、内定率の説明がなされ、近年の長引く不況や大震災・原発などの要因により雇用情勢が厳しいこと等が報告されました。次に入試創職室の鈴木職員より「現在の就職活動とその対策」として、就職活動の一連の流れや準備の説明がなされ、「就職活動には自己理解・自己分析が重要であり、そのためには親子の会話が土台となる」ことが話されました。最後に、企業の人材採用に関するコンサルティング等の事業を行っている(株)ディスコの高野裕氏より、「大学生を取り巻く就職環境と就活における親の関わり方」と題して就職活動における親の役割や就職費用の説明がありました。

## 4年生の就職体験談発表 ～第3回就職ガイダンス～



就職活動をスタートさせた3年生に向けて、内定を勝ち取った4年生が就職活動のコツを伝える「第3回就職ガイダンス 4年生の就職発表」が11月22日(火)にB300教室で開催され、各方面に内定を決めた10名の4年生が発表を行いました。

宮城県警察から内定を勝ち取った佐藤和広さん(運動栄養学科)からは試験対策や計画的な学習習慣を身に付けることの必要性などが話された後、「部活動やアルバイトなどで毎日忙しいとは思いますが、本気になるのは今です。この1年でこの先40年の人生が決まるといっても過言ではありません。頑張ってください。」とエールを述べ

ました。参加した3年生は10名の先輩のアドバイスをメモを取るなどして真剣に聞き入っていました。

### 発表した4年生と就職先

- ・ 佐藤和広さん(運動栄養学科) 宮城県警察
- ・ 小原翔平さん(スポーツ情報双学科) (株)ブレイン
- ・ 庄司文哉さん(健康福祉学科) 梨雲福祉会
- ・ 鈴木麻未さん(体育学科) (株)きらやか銀行
- ・ 高橋理恵さん(健康福祉学科) 宮城県養護教諭
- ・ 興谷裕介さん(運動栄養学科) 仙台市消防
- ・ 笠松 恵さん(体育学科) (株)東祥ホリデースポーツ・ツラフ
- ・ 森田勇輝さん(運動栄養学科) 郵便局(株)
- ・ 加藤麻未さん(運動栄養学科) アイビス(株)
- ・ 星 隼斗さん(体育学科) 東京都中高保体教諭



## 「朴沢学園裁縫教育資料展」



11月1日(火) - 6日(日)に東北電力グリーンプラザ仙台(仙台市)を会場にして「朴沢学園裁縫教育資料展」が行われ、6日間で746名の方々に来場いただきました。「朴沢学園裁縫教育資料」は近代日本裁縫教育の展開を初発からたどることのできる重要な歴史資料として、今年7月に557点が仙台市指定有形文化財に指定されています。資料展には朴沢学園の卒業生やご親族の方も来場され、なかには資料寄贈を申し出られた方もいらっしゃいました。また、3日(木)には仙台市の奥山市長も来場され、朴澤理事長、佐藤宏専務理事、伊達宗弘客員教授が案内役を務めました。

写真提供: 法人事務局

## 仙台大学公開講座「勝つための準備」

～学都仙台コンソーシアムサテライトキャンパス公開講座～



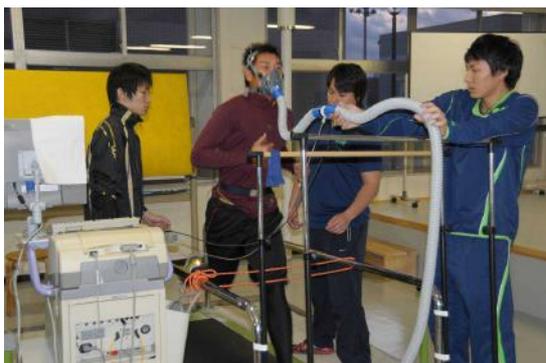
平成23年度の仙台大学公開講座(学都仙台コンソーシアムサテライトキャンパス公開講座)が「勝つための準備」をメインテーマに、10月29日(土)から3週にわたって開催され、延べ113名の受講者に参加いただきました。

10月29日に高橋陽介新助手が担当した「腰痛を予防・克服する」では、腰痛の原因を探り、その予防と緩和のために家庭でも実践できるストレッチングやエクササイズが紹介されました。11月5日の白幡恭子新助手が担当した「怪我に勝つ」では、突発的なケガに対する応急処置方法や

数種類のテーピング方法を紹介し、実際に参加者同士で練習してもらいました。11月12日の加賀洋平新助手が担当した「ライバルに『勝つ』体作り」ではより高い競技レベルを目指す運動選手や指導者を対象に、スポーツトレーニングに関する伝統的な迷信を解きつつ、科学的根拠のある体作りについて実践指導しました。この講座は毎回好評を頂いており、昨年よりも多くの方に受講いただきました。

写真提供: 坂根教授(生涯学習センター長)

## 東北楽天ゴールデンイーグルスの選手がトレーニング実施



11月25日(金)に東北楽天ゴールデンイーグルスの2011年入団選手6名が来学し、高橋弘彦教授、竹村講師の指導のもと最大酸素摂取量、脚筋力および体脂肪の測定が実施されました。選手の体力測定は今年1月にも行われており、今回の測定値との比較によりシーズン中のトレーニング効果を見ることが目的です。測定終了後は、高橋教授から各選手に対して測定値の詳細な説明とオフシーズンの自主トレに対するアドバイスが行われました。なお、測定には柳谷新助手と高橋研究室の学生達も加わり、安全に十分配慮して行われました。

## 東北リコー(株)支援事業

～ 山元町の仮設住宅で運動指導 ～



写真提供: 地域健康づくり支援センター

本学の「東北リコー(株)社員に対する健康支援協力」事業の一環で、10月30日(日)に岩垂新助手と柳澤新助手、健康づくり運動サポーターの学生が

同社員約35名と共に山元町の仮設住宅(中野熊野堂)を訪問して入居者と交流を図りました。山元町の被災者が柴田町の保養施設「太陽の村」に集団2次避難していたことが縁で、東北リコー(株)社員は郷土料理である芋煮などの炊き出しを行い、本学は仮設で暮らす方への体操指導を担当しました。通常であれば、東北リコー(株)社員に対しての健康指導を行う事業ですが、亘理町や女川町の避難所で多数の活動経験を持つ本学の資源を震災復興に充てようと企画されました。

本学も震災後に山元町での災害ボランティア活動の実施を試みましたが、被害が甚大で、学生を現地に入れることができなかった経緯があります。今回の活動を通して少しでも山元町の被災した方々のお役に立てて幸いです。

## 名取市立みどり台中学校生徒16名が「上級学校訪問」のため来学



11月8日(火)にみどり台中学校の生徒16名が「上級学校訪問」で訪れ、高橋弘彦教授によるミニ講座の受講および施設見学を行いました。この「上級学校訪問」は生徒が上級学校(高校・大学)を訪問することで、中学校卒業後の進路選択に役立つ情報を得ることなどを目的としており、取り入れる中学校が増えています。高橋教授のミニ講座はC棟3Fの環境生理学実験室



を使用して行われ、予め生徒から寄せられた質問に対して一つひとつ回答する形で行われました。その後に行った施設見学では、同中学校の卒業生である佐藤加奈恵さん(運栄4年)、我妻典明さん(体育3年)、水谷優さん(体育3年)が案内を担当しました。中学校の先輩ということで、生徒たちは気兼ねなく様々な質問を投げかけていました。

## 仙台大学管理栄養士「合格修練会」 第3回受験者激励会



11月27日(日)に第3回管理栄養士受験者激励会が行われ、今年度の管理栄養士国家試験に合格された本学OBによる講演と、東京アカデミー特別講師の小田嶋晋先生をお招きして模擬試験の活用方法やノート作成のポイントなど計画的に学習していくための勉強方法について講演して頂きました。後輩たちの力になればとの熱い思いから、遠路神奈川県からも駆けつけてくれた合格者OBもいました。

小田嶋講師からは、勉強方法は自分にあった方法を自分で見つけることが重要であり、合格者の勉強方法を参考に自分勉強方法を創ることがポイントであることなどが話されました。藤井運動栄養学科長からの挨拶とともに、管理栄養士資格付与主管である早川講師からの熱い励まし、管理栄養士合格修練会主管である長橋准教授より今年度受験を予定している参加者に激励のメッセージカードが授与されました。



初回受験で合格を果たした岩淵さんの講演

### 発表を行った本学卒業生

- 3期生 泉川尚彦さん(東洋食品勤務)
- 3期生 平良拓也さん(仙台大学研究生)
- 3期生 竹内晴子さん(仙台大学新助手)
- 3期生 津田佳代子さん(東洋食品勤務)
- 4期生 岩淵安祐実さん(レパスト勤務)

## 「まなびや」学習支援ボランティア活動報告会



写真提供: 朴澤学長

11月12日(土)に宮城教育大学において震災復興支援ボランティア報告会(主催:宮城教育大学教育復興支援センター)が行われ、本学からも山崎えりなさん(健康福祉学科4年)と星隼斗さん(体育学科4年)の両名が参加し、8月1-3日に16名が参加した女川第二小学校での活動を報告しました。

本学は、被災地の小中学校での学習支援ボラン

ティア活動を行っている宮城教育大学からの依頼を受けて、女川町教育委員会が実施する「夏休休業中の学習支援事業」に教員志望学生(主に小学校教員希望者)をボランティアとして派遣。窓口は教職支援コーナーが担い、16名の学生(延べ31名)を8月1-3日の3日間にわたって派遣しました。

学生たちは女川町や山梨県の先生方と一緒に活動し、主に国語と算数の学習指導や採点の補助等を行いました。子供たちとの交流を経て、より一層教師になりたいという想いを強めているようでした。

なお、発表を行った山崎えりなさんと星隼斗さんはそれぞれ今年行われた教員採用試験に合格しております。



## 岡田成弘助教が若手研究者に贈られる第3回日本野外教育学会奨励賞



大阪体育大学の伊原久美子先生(写真:左)、  
駿河台大学の吉松梓先生(写真:右)の3名が受賞

岡田成弘助教が10月21～23日に筑波大学を会場に開催された「日本野外教育学会 第14学会大会in つくば (<http://www.joes.gr.jp/tsukuba2011/>)」において、「第3回日本野外教育学会奨励賞」を受賞しました。この賞は、同学会誌に掲載された原著論文の筆頭者のうち、35歳以下の若手研究者(3名)に贈られるものです。

受賞した岡田助教は「この論文は、私が5年前

に修士論文として取り組んだ研究です。初めは『キャンプ中のどのような体験が、環境に配慮する行動につながるか』という素朴な疑問からスタートした研究でしたが、今では博士論文のテーマにつながっています。今回の受賞は、今の自分の研究テーマの原点を思い出す良い機会になりました。現在取り組んでいる博士論文を完成させ、より実践的でより現場に活かせるような研究に発展させていきたい」と、研究意欲を高めています。

### 【対象論文】

岡田成弘、岡村泰斗、飯田稔、降旗信一

「少年期の組織キャンプにおけるSignificant Life Experiencesが成人期の環境行動に及ぼす影響 花山キャンプを事例として」, 野外教育研究, 第12巻・第1号

論文はJournal@rchiveホームページ

([http://www.journalarchive.jst.go.jp/english/top\\_en.php](http://www.journalarchive.jst.go.jp/english/top_en.php))で閲覧が可能です。

## 二酸化炭素の発生を1トン削減 ～ ペットボトルキャップ収集活動報告 ～



先日NPO法人エコキャップ推進協会に対して第12回目となるペットボトルキャップを送付しました。今回の送付数は20,400個で、仙台大学からの送付総数は137,600個となりました。2年半前、学生が集うKMCH(クラブハウス)の自動販売機

前に設置した協力ボックスに集まったキャップ1,600個をこの協会に送付したことをきっかけに、学内の各建物に協力ボックスを設置し、以後多くの教職員、学生のみさんから継続してご協力をいただいています。

エコキャップ推進協会はペットボトルキャップ収集を行い、再生可能なペットボトルキャップをゴミとして焼却するのではなく、資源化し得た売却益で「世界の途上国の子どもたちにワクチンを寄贈し救済する」ことを目的に活動を展開しています。本学が送付した137,600個のペットボトルキャップは、ゴミとして焼却されていれば発生していたであろう二酸化炭素を1,084Kg抑制し、途上国の子ども人にポリオワクチンを172人分に接種させることができる量に相当する(エコキャップ推進協会調べ)ようです。今後とも引き続きご協力をお願いします。

## 海外研修報告

報告者；内丸仁（体育学科・講師）Jin Uchimar, Ph. D. , Visiting Scholar  
 研修機関；コロラド大学・高地研究センター  
 研修期間；2011年9月～2013年3月

研修先である、アメリカ・コロラド州にあるコロラド大学は医学部のあるAnschutz Medical Campus、Denver、Colorado SpringsおよびBoulderとキャンパスが複数あります。私が実際に研修する大学研究機関は、Altitude Research Center, Department of Emergency Medicine, University of Colorado School of Medicine, Anschutz Medical Campus（コロラド大学医学部、救急医療部門、高地研究センター（ARC））となり、Anschutz Medical Campusにあります。

ARCは高地あるいは低酸素環境に関する研究を中心に進めている大学研究機関であり、これまでに、関連する分野において多くの研究を行い、実績を有している研究機関です。特に、アメリカ国内においても、高地あるいは低酸素環境に関する研究においてはコロラド州にはロッキー山脈が連なっていること、Pikes Peak（標高4,300m）での高地環境における生理・生化学的応答についての研究が今からおよそ100年前に最初に取り組みされており、研究のフィールドとして、高地トレーニングの場所として、さらには、関連する分野の研究者も多く、恵まれた環境にある大学研究機関です。また、コロラド州は最も健康的な州とも考えられます。といいますのも、先日、アメリカ国内における肥満率が公表されましたが、コロラド州は最も肥満度が低い結果となっており、健康や体力に関しての関心が高い州であるといわれています。

私が研修先としてARCを選択した理由もここにあります。つまりは、低酸素環境下での生理・生化学的効果を背景として、競技者のための高地トレーニングはもちろんのこと、一般の健康体力の維持・増進、疾病の予防など応用範囲は広く、私が行っている研究の可能性を求めてARCを研究先として選びました。

現在は、いくつかの研究プロジェクトが進行あるいは準備されています。一つ簡単に紹介しますと、低酸素環境つまりは高地に行くと、高山病という症状が発生します。この高山病の症状は個人によって差があり、最悪の場合には命を落とすこととなります。ただ、私たちが普段、ハイキング



**ARCにある低圧チャンパー**

この低圧チャンパー内で高地環境を設定して様々な測定を行っています。

や観光に出かけるような高地ではほとんど問題ありません。この高山病の有無や程度が一般人から競技者の高地での体力や健康状態に大きく影響してくるのですが、では、なぜ人によって高山病は発症したりしなかったりするの？なぜ、人によってその程度が異なるの？高山病を発症すると高地での体力や高地トレーニングの効果にはどのような影響があるの？という疑問が出てきます。残念ながら、この疑問が完全に明らかとなっていないのが現状です。そこで、この点について明らかにするために、高山病の発症と運動能力や血液性状、さらには遺伝子の違いについて実験研究を行っています。

また、現在は来年度の大きな研究プロジェクトに向けた準備を進めております。私は現在、標高5500mに相当する高地環境での測定内容の検討を行っております。実際に低圧チャンパーで標高5500mを設定して、その中で様々な測定方法を検討しているところです。毎日、他のスタッフと試行錯誤しながらの作業ですが、非常に内容が濃く、充実した研修となっています。

私は今回の海外研修を通して、自身の専門分野における知識・技能の向上を、さらには、関連する国際的なネットワーク・ヒューマンリレーションシップの拡充をしたいと考えております。その上で、様々なノウハウや経験を仙台大学の学生に還元していくことが私の重要な使命と感じています。すでに、アイデアはいくつかあります。そのアイデアが本当に理論的根拠に基づいて学生に還元できなければならないこと、実践的な活動に結びつくこと、そして、学生の可能性を広げられるものであることを念頭に、今回の海外研修に取り組んでいきたいと考えております。



**低圧チャンパー内での実験の様子**

左図は私がこの低圧チャンパー内で高地環境を設定して様々な測定チェックを行っている様子です。鼻につけているチューブは酸素吸入ができるようになっています。当日は標高5500mに設定していたために酸素吸入を行って操作をしていました。右図は高地環境での生理学的測定方法を検討している様子です。多くの専門家がディスカッション状況を確認しながら、チェックしていきます。

## 海外研修報告

2011.10.30健康福祉学科 朴 賢貞

研修先：University of Leicester , De Montfort University , Kingston University (UK)



### 全体的な概要

10月は本格的に新学期が始まり、毎日が忙しく講義や演習が次々と入っており毎日が充実しております。先月の28日にレスター大学の受け入れの代表であるLiz Anderson教授と1年間の研修期間に私が目的とする研究内容について2時間ほど話し合い、具体的な支援内容についてもお願いし積極的に支援すると言われました。また、先月に計画されていたすべてのIPE実習のための理論講義及び演習に参加（学部及び大学院修士課程、博士課程）しました。

### 1. 研修内容

レスター大学では主に医学部の1年生からレジデント課程の学生までが対象（在籍するすべての学生）とし、学年ごとに講義内容や演習内容の難易度が違い、新入生には楽しく、遊ぶ感覚での演習が中心で高学年になると、深く考えさせる内容になります。以下はLiz Anderson教授と話し合った研修期間中の目標です。

多職種連携教育（以下、IPE）の理解を深めるための地域特徴

医学部中心のIPE実践（1995年）から現在（他大学や地域と取り組む）までの経緯

教材の開発（学習DVD作成、ワークブック作成、地域財源の開発方法）

学習効果の評価方法、今までの教育成果など教職員の役割分担、全体的な構想

イギリスにおける社会福祉実習教育及び理論教育の概要理解

レスター大学でのIPE特色は、多職種の中でも共に働く又は利用者のケアの質を高めるために

日々コミュニケーションを交わさなければならぬ職種の群ごとに演習講義が行われております。例えば、医学と薬学、臨床心理学、看護学が一つのグループで言語治療学、聴覚学、社会福祉学のグループ、医学部と薬学、臨床心理学、社会福祉学など学年によってグループ編成が変わります。二つ目に、地域にある資源を十分に演習に使い、演習効果を高めることです。例えば、利用者が演習対象になったり、経験談を学生に語ったりし、より理解度を高めます。講義や演習時間にも参加します。最後に、全ての講義や演習の最後には振替あり、教育効果をその場ではかり、講義後には教員が確認します。（IPEは教員も複数に関わり同じ時間に2-3人程（教員1名、現場をよく理解している実践者（こちらでは個人tutorと呼ばれます。アカデミックコーディネーター）がチームを組んで行なっております。）

\*注：個人tutorになるのはGP（General Practitioner：医者）、地域看護師、助産婦、ソーシャルワーカー、OT、PT、薬剤師、子供相談士、シティーセンター行政責任者、IPE実習の現任者や引退された方がなる場合が多いです。

10月には、個人tutorが持って来た利用者の手書きの情報を学生学習教材化するためのワード作業を手伝ったり、講義・演習に準備及び参観したり利用者や関係者との打ち合わせに参加しました。

IPE講義や演習がない日には、社会福祉学の修士課程の講義・演習に参観しました。講義や演習がない日にはDe Montfort UniversityからRoger Smith（社会福祉学科教授）がUniversity of LeicesterからはLatchem Stanley（児童福祉担当）と Hoffman John（児童・家族福祉担当）Couloute Janet（臨床心理学担当）が私の研究室に来てイギリスの社会福祉情勢を話したり、教材を紹介したり、自分の講義に招待し、聴講に行ったりもします。

### 2. De Montfort University

ド・モンフォール大学は医学部がないためIPE講義や演習はレスター大学から医学部の学生がこちらの大学に来て講義や演習に薬学科、言語治療学、看護学科、社会福祉学科、助産科（Midwifery）などの学生と一緒に講義・演習・実習を行います。

10月のド・モンフォール大学でのIPE実習は、薬剤学科（ド・モンフォール大学）、医学部（レスター大学）の4年生IPCP（Inter professional Care Plan）実習に参加し、学年

次頁に続く

ごとに全部参観し、学生のグループ活動やThe Leicester Royal Infirmary Hospitalでの模擬実習（患者以外は全て学生が模擬医者、薬剤師、看護師、ソーシャルワーカーになりアセスメントを行う演習）を行い、4つの課題が与えられ簡単な概要の説明後実施する。演習の時の患者役は引退された医者、看護師などが役割を演じます。2 - 3名の学生が患者を対象にアセスメントを行う間に他の学生は演習内容を評価します。



もう一つの演習は、実際に脳卒中になって10年目になる利用者が講義に参加し、演習を行いました。その時は、SALT (Speech And Language Therapy)、Audiology、Social workの学生及び3つの学科教授が参加し、聴覚障害や言語障害の演習を行い、振り返り時間には利用者のコメントを参考に理解を深めます。

### 3 .Kingston University

最後に、ロンドン南部Kingstonにあるキングストン大学はこれから時期をはかり定期的に行く予定です。そちらはIPE実習期間に合わせてレスター大学やド・モンフォール大学のIPE実習期間と重ならない時期を図り参観する予定で今調整中です。

私の訪問の受け入れをしてくれるMark Martin教授の家族がお亡くなり、連絡を待っているところです。

### 4 . CAIPE活動

CAIPE (Centre For The Advanced of Inter professional Education) の主な役割の一つはイギリス国内及び海外にIPE教育の方法や教材開発、IPEの教育的効果を研究する事です。10月には10月20日にUniversity of Birmingham、Birmingham City University、University of Worcesterの3つの大学のIPE実践の報告されるBirmingham地域に行き、CAIPE FOURMが開かれ、医学部を持っているUniversity of Birminghamと連携しながら実践する大学から開発されたIPE教育教材 (DVD及びWebsiteを使ったE-learningの現状) の発表がありCAIPE理事の意見交換がありました。

また、IPE実践を行った学部生と大学院 (博士課程) のプレゼンテーションが行われ、教育効果を他の大学から来られたCAIPE理事からの意見、改善点などがありとても有意義な時間でした。CAIPE理事からの意見では、学習用に作成されたシミュレーションが医学部中心のものになり他の学科の学生が理解しにくい部分は改善点であるとの指摘もありました。

大学院の学生博士論文のIPE実践に関する論文構成に関しても専門的なコメント等がありとても学際的な支援するCAIPEの活動の一面をみることができました。

## 全国障害者スポーツ大会へ陸上競技コーチとして本学学生が帯同

10月22日～24日、山口県において全国障害者スポーツ大会が開催され、本学の学生吉住 諒さん（健康福祉学科2年）が役員（コーチ）として選手団とともに派遣されました。

この大会は、「全国身体障害者スポーツ大会」と「全国知的障害者スポーツ大会」を統合した大会として2001年から国体終了後に同じ開催地で行なわれています。大会の目的は、障害のある方々の「社会参加の促進」と障害のある方に対する理解を深めることにあります。大会へのかかわりは体験学習でもあることから、宮城県障害者スポーツ協会から依頼を受け、障害者スポーツに関心の深い本学学生が派遣され、毎年貴重な体験をさせていただいています。

よしずみ りょう  
健康福祉学科2年 吉住 諒さん



宮城県選手団役員、陸上コーチとして主に知的障害の方々のサポートを行ないました。障害者スポーツの陸上指導経験はなかったので、役員の方々に教えられながら、自分にできる仕事を率先してみつけ実践することで大会期間の活動に携わりました。選手が所

属する施設職員の方と話す姿を見て個々の選手のモチベーションを保つためにどのような声かけで接しているか、その結果取り組む姿勢にどのような影響となったのかが目に見えて判り生きた学びとなりました。

大会本番による緊張や不安を取り除くこと、障害や個人の特性をいかし、選手の力を引き出すこともおきな役割をはたします。今大会の経験はすべてが勉強でした。山口の同年代のボランティア学生と共に選手団一同喜びを分かち合った場面もありました。今年は選手たちとの信頼関係の基礎を築いたばかり。声を掛けていただけるなら来年も是非やりたいです。と話してくれました。



## トレーナー部がブースを出して協力支援「2011味の素スタジアム6時間耐久リレーマラソン」



左から  
みよしせいな  
三好聖奈さん(体育1年)  
えんどうこうき  
遠藤皓樹さん(体育1年)  
ひがしたてりょうたろう  
東館亮太郎さん(運栄2年)  
もと やりょうすけ  
外谷涼将さん(体育2年)

11月13日(日)に行われた「2011味の素スタジアム6時間耐久リレーマラソン」(東京都調布市)の会場に本学トレーナー部がブースを出展し、学生4名と鈴木のぞみ臨時職員が活動しました。このイベントは今年初めて企画されたもので、味の素スタジアム内1周2kmのコースを、チームでタスキをつないで6時間で走った距離を計測する「6時間リレーの部」と、フルマラソンの距離を走った時間を計測する「42.195kmリレーの部」の2種目が行われました。スタジアム内には東北復興産直市やスポーツ用品会社などの各種ブースが設置されましたが、その一角に「仙台大学トレーナー部」ブースが設けられ、ストレッチとテーピングの提供を行いました。今回、

出展に至ったのは鈴木臨時職員の知人からの紹介でブースを出すことができたためです。

本学のブースには約50名の来場があり、部員たちは責任感を強く持って1人1人に全力で施術を行ったそうです。活動に参加したトレーナー部の外谷涼将さん(体育2年)は「時間配分の難しさや1回の施術で効果を出さなければならないというプレッシャーがありましたが、たいへん貴重な経験ができました」と話し、東館亮太郎さん(運栄2年)は「先に来た人お客さんから評判を聞いて来てくれる人が多かったことが嬉しかったですし、『だいぶん楽になった』などと感謝されることが嬉しかったです。反省点としては、お客さんから聞かれたことに対して知識不足で回答できないことがありましたし、自分で納得できる施術ができたわけでもありません。今回の活動は卒業後の体験ができ、勉強になりました。より一層、選手の要望に応えられるトレーナーになりたいと強く思いました。」と話しており、学生たちは貴重な体験を経て大きく成長したようです。



## 西村光生さんが独立行政法人日本学生支援機構の平成23年度優秀学生顕彰

～ ロンドン五輪出場にも期待～



独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）では、学術、文化・芸術、スポーツ、社会貢献の各分野で優れた業績を挙げた学生・生徒に対して、これを奨励・支援し、21世紀を担う前途有望な人材の育成に資することを目的として、多くの方々から寄せられた寄附金を基に「優秀学生顕彰」を

行っています。平成23年度優秀学生顕彰において、本学漕艇部の西村光生さん（体育学科4年）がスポーツ分野・優秀賞を受賞しました。西村さんは平成21年から日本代表として活躍し、平成21

年に開催されたU-23世界選手権大会では、日本ボート史上初めてとなる銀メダルを獲得しています。また、国内でも全日本選手権での優勝の他、数多くの入賞を果たしたことが評価されました。本学では平成21年度に柔道の田中美衣さん（平成21年度卒）が受賞して以来2人目の受賞です。優秀学生顕彰表彰式は12月10日にアルカディア市ヶ谷（東京都）で行われます。

なお、西村さんは日本ボート協会が11月21日～28日に行った日本代表最終選考合宿を経て、2012年ロンドン五輪大会アジア最終予選会（韓国・忠州）の男子軽量級ダブルスカル日本代表に選ばれました。ロンドン五輪の代表権獲得し、ロンドンの地での活躍に大きな期待がかかります。

## アメリカンフットボール部が全国大会初勝利

2年ぶり3回目の東北学生リーグ優勝を果たした本学アメリカンフットボール部SILVER FALCONSが、11月26日（土）に開幕した全日本大学選手権大会の初戦で北海道代表の小樽商科大学TOMAHAWKSに31-8で勝利し、全国大会での初勝利を成し遂げました。大会には北海道在住の同窓生が多数駆けつけ、大きな声援で選手を後押ししていただきました。初戦に勝利した本学は既に全国4強に進出しており、2回戦（東日本代表決定戦）は12月4日（日）に会場を東京（味の素スタジアム）に移して関東代表の日本大学PHOENIXと対戦します。この試合は12月18日に甲子園球場（兵庫県）で行われる決勝戦「第66回甲子園ポウル」への出場を決める大事な試合となります。引き続き温かい応援をお願いします。

### アメリカンフットボール部主将 加藤良太さん（体育4年）

今年は震災の影響で2ヶ月間の活動休止を余儀なくされたため例年4、5試合行っている春のオープン戦は1試合しか組むことができませんでした。そのためリーグ戦序盤はチームの連携が取れずに、試合の中でつめていく状態でした。最終



戦となった東北大学との全勝同士の対決で、ようやくチームの意図がゲームの中で発揮できるようになりました。特に攻撃の司令塔であるクォーターバックの山田達彦（体育3年）の成長がチームの大きな戦力となりました。

現在の部員数は36名（マネージャー、トレーナー含む）。アメリカンフットボールは試合中に無制限に選手の交代が許されているため、大抵のチームには攻撃専門の11人、守備専門の11人、キックオフやパント専門の11人のレギュラーが用意されており、控え選手を含めると70人～100人いるのが当たり前です。本学では同じメンバーが攻撃と守備のポジションを担わないといけないため、必然的に練習量が増えてしまい、選手の負担が多いのが現状です。しかし、今年の選手はその練習に楽しんで励む者ばかりなので、心強く感じています。

普段からお世話になっている部長の小池先生、生、副部長の平田先生、山田喜信監督、父母会、OB会の方々のためにも目の前の試合を全力で戦うことが恩返しと信じて全国大会を戦ってきます。

なお、震災では全国の大学から東北地区の大学に対して多くの支援を頂いたそうで、その感謝の気持ちを伝えるために、加藤さんが東北学連の代表として全国大会の表彰式に出席し、優勝校に対して感謝の気持ちを伝えることが決まっています。

## OGの田中美衣選手が講道館杯初優勝



11月12、13日に千葉ポートアリーナを会場に平成23年度講道館杯全日本体重別選手権大会が開催され、本学OGの田中美衣選手（了徳寺学園職員）が女子63kg級を制しました。この大会は平成23年度後期の全日本強化選手の選考と、2011年ロンドンオリンピックの日本代表選手第1次選考会と位置づけられています。今大会に出場していませんでしたが同階級には2010年世界選手権大会を優勝した上野順恵選手や、今年4月の全日本選抜柔道体重別選手権大会を優勝した阿部香菜選手（両選手共に三井住友海上火災保険(株)）などレベルが拮抗しています。その中で代表に選考されるためにも、今大会の優勝は大きな意味あるものです。また、今大会には10名の学生が出場し、女子57kg級の宮原尚子さん（体育学科4年 / 秋田商業高出身）と女子52kg級の鈴木真佑さん（体育学科1年 / 京都文教高出身）が5位入賞を果たしました。

## 体操競技部が日本体操協会の小林隆氏を招いて体操クリニック



体操競技部では11月29日(火)に日本体操協会コーチディレクターの小林隆氏を招いて体操クリニックを行いました。開催の目的は、跳馬に独特の理論を持つ小林氏に指導してもらうことで、跳馬を

きっかけとして学生たちに理論の捕らえ方を学んでほしいとの想いで開催したそうです。指導では、はじめに映像を使って前進運動を最大限ジャンプ力に変換する身体の動き等を説明してイメージを持たせた後に、跳馬での小林理論の基本を何度も繰り返し行い、その都度小林氏から注意点が指摘されていました。部員たちは小林氏のアドバイスに素直に耳を傾け真剣に取り組んでいました。体操競技部が外部の指導者を招いたのは初めてのことで、4時間かけて基礎理論と実践をしました。副部長の小西准教授は「今回の指導を受けて、自分自身の動きを理論的に捉えるための何かきっかけをつかんでもらえれば成功です。」話しています。



## Futsal部が第17回全日本フットサル選手権宮城県大会で初の準優勝

～12月10、11日に行われる東北大会へ進出～



本学Futsal部が社会人チームも参加する全日本フットサル選手権宮城県大会において、初の準優勝に輝きました。Futsal部は12月10、11日に福島県で開催される東北大会へ進出し、優勝チームだけに与えられる第17回全日本選手権大会の出場権

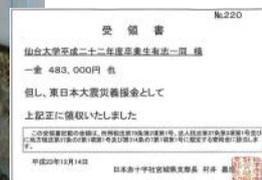
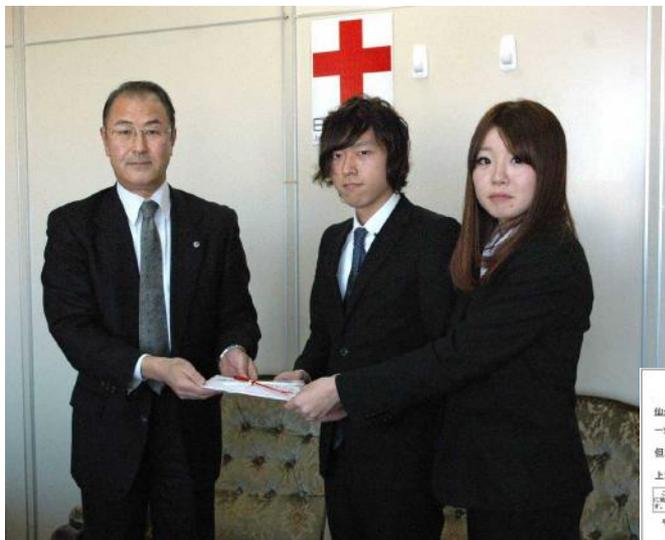
獲得を目指します。

Futsal部は5月に行われたインカレ予選では東北大学に敗れて2位に終わりましたが、今大会の準決勝で東北大学にリベンジしました。決勝戦でも接戦となりましたがPK戦の末の惜敗でした。今大会では選手として試合に出場した笹生講師は、「今年のチームは個人のレベルが高いわけではありません。そのぶん練習を多くしてレベルアップを図ってきました。これまでの努力が東北大会出場という結果で実を結び、良かったと思います。東北大会は厳しい戦いになることは間違いありません。部員たちは経験が積める機会なので、選手たちには全力で戦い、試合を通して何か学び取ってもらいたい」と話しています。

# Monthly Report

Vol.68 / 2011 Dec.

## 平成22年度卒業生有志から日本赤十字宮城県支部に義援金



12月14日（水）、学友会委員長の野村早紀さん（体育学科3年）と学友会副委員長の風間靖久さん（健康福祉学科3年）が日本赤十字宮城県支部を訪れ、平成22年度の卒業生有志からの義援金483,000円を鈴木隆一事務局長に手渡しました。

この義援金は卒業生が今年3月19日に行うはずであった卒業記念パーティーに使用するために集金していたもので、卒業生の一部から「震災の影響で使用することがなかったこのお金を4年間過ごした被災地への寄付にしようか」との声があがり、これに賛同した有志のお金が集められたものです。

鈴木事務局長からは「ありがとうございます。卒業生のお気持ちとして確かに受け取らせていただきます」との言葉と、「仙台大学の震災復興に向けたボランティア活動等はよくメディアなどで目にしました。これからも頑張ってください」との言葉をいただきました。卒業生に替わり義援金を届けた野村さんは「先輩たちは楽しみにしていた卒業式や卒業記念パーティーが中止となっただけでなく、友達に会えないまま新しい生活を歩まなければならない状況で、残念な思いをしていた方は多かったと思います。そんな中でも、人のためになろうと行動した先輩たちを誇りに思います。」と話していました。

日本赤十字社宮城県支部HPで紹介されています  
<http://www.miyagi.jrc.or.jp/contribution/index.html?php>

## 目次

平成22年度有志から日本赤十字宮城県支部に義援金	1
仙台大学同窓会より1千万円の義援金	2
健サポ認定書授与式 NSCAジャパン講習会	3
海外研修・短期留学合同報告会	4
吉井講師がエコプロ出展 スポーツを考える会	6
学生の活躍	7
訃報	9

学生の活躍や、取り組みをご存知でしたら  
 広報室までお寄せください。  
 Monthly Reportで紹介する他、報道機関  
 にも旬な話題を提供していきたいと考えて  
 おります。

本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、  
 広報室までご一報ください。

### 広報室

直通 0224-55-1802

内線 佐藤美保 256

土生佐多 200

伊東宏之 271

Email:kouhou@scn.ac.jp

## 仙台大学同窓会より1千万円の義援金



12月19日に仙台大学同窓会を代表して鈴木省三会長より仙台大学に対して災害ボランティア用車両(マイクロバス1台、ワゴン車1台)の購入費用として1千万円の義援金が贈られました。これは、震災復興に向けた活用を目的に、今年8月の同窓会代議員会で承認されていました。背面に「贈：仙台大学 同窓会」と刻まれたマイクロバスは26日に納品され、ワゴン車は1月初旬に納品される予定です。



## 洪水被害のあったシーナカリンウィロート大学に5万バーツの見舞金



国際交流締結先のタイ王国・シーナカリンウィロート大学に対して、本学より見舞金5万バーツ(約126千円)が贈られました。これは、タイ王国が10月初旬から洪水被害に見舞われていることに伴い、科目等履修生として本学に留学中のソンプラソン・プラセトスリさん、タニット・リンブラセルトさんが国際交流センターを通して大学祭や学内に募金を呼びかけたものです。大学祭への来場者や教職員から集められた募金5万バーツが贈られました。



大学祭で募金を呼びかけたソンプラソン・プラセトスリさん(左)と募金する宮坂基也さん(体育学科3年)

シーナカリンウィロート大学からの御礼状



## 健康づくり運動サポーター認定証書授与式



12月20日（火）にA棟大会議室において健康づくり運動サポーター認定証書授与式が行われ、ベイシック認定者18名とアドバンス認定者6名に対して朴澤学長より認定証書が授与されました。今年の健康づくり運動サポーターは、延

べ400名が災害ボランティアとして避難所や仮設住宅でのエコノミークラス症候群予防運動の指導をして回り、被災者への健康維持に大きく貢献しました。この活動は現在も継続しています。

認定証書授与の後には、4年生の小熊理恵さん（体育学科）、横山宗平さん（健康福祉学科）、佐藤幸子さん（運動栄養学科）から後輩に向けたメッセージが述べる時間が設けられ、横山宗平さんは「活動で得た貴重な経験は自分を大きく成長させ、これからの社会人としての生活に役立つものと考えています。被災地には今も支援を待っている人たちがいるので、後輩のみんなには積極的に被災者支援ボランティアに参加してもらい、多くのことを学び取っていただきたい」との話がありました。

## 本学を会場にNSCAジャパン講習会を開催



12月8日（木）に本学B300教室を会場にして「NSCAジャパンの海外講師招聘セミナー（NSCAジャパン主催、仙台大学後援）」が開催され、米国NSCA理事長のJay R. Hoffman博士が講演を行いました。Jay R. Hoffman博士はNFL（National Football League）の選手としてプレーした経歴を持ち、研究者としても様々な学

術部門での賞を受賞しています。特に運動栄養・トレーニングの分野での権威として知られています。米国NSCA理事長の講演を聞こうと会場には東北在住のNSCAジャパン会員と本学の教職員あわせて約200名が聴講しました。講演は、「ストレングストレーニングとピリオダイゼーションの原理」を演題として、トレーニングの原則の説明や、ピリオダイゼーションモデルのタイプの解説・比較を、ご自身の研究結果を取り入れながらお話いただきました。筋力増加を促すために、トレーニング強度が主要な刺激となると強調されていました。

この講演については加賀新助手のコメントとともにNSCA公式ブログ（2011年12月26日付）で紹介されていますので、ご覧ください。

<http://nsca-japan.typepad.jp/blog/>

## 学内業界研究セミナーを開催

12月17日（土）仙台大学を会場に3年生対象の学内業界研究セミナーが開催され、約300名の学生が参加しました。今回のセミナーは、21の事業所に参加していただき、各業界の説明・求める人材像を詳しくお話していただきました。学生たちは、お目当ての企業以外にも平均3～4社のブースを訪問し、自分の知らなかった業界などの説明を受け刺激を受けたようです。就職戦線のスタートが例年より2ヶ月遅くなった本年において、この説明会が学生たちの良いきっかけになればと願うばかりです。

< 創職作業チーム >



## 海を越えて輝く学生達 2011(合同報告会実施)

～海外研修・短期留学合同報告会～

仙台大学柔道部個別イタリア研修  
 ハワイ州立大学アスレティックトレーニング  
 グ研修アドバンスコース  
 カリフォルニア州立大学ロングビーチ校ス  
 ポーツ栄養&マネジメントセミナー

11月16日(水)17:30～F101教室において、国際交流センター長主催の学生達による海外研修・短期留学合同報告会が開催され、朴澤学長、佐藤滋学長補佐、鎌田国際交流センター長他、総勢46名が参加しました。

はじめに朴澤学長より「国からの補助金を得て海外研修を実施できることは意義深く、世界を知る意味においても参加した学生達は引き続き英語も含め勉学に努めてほしい」とのご挨拶がありました。

最初に発表したのは7月31日～8月20日までイタリアのプレダッピオで柔道の合宿に参加した2名です。(体育3年勅使瓦慧・現代武道1年薬師神桃子)今回の実現に際しては、東日本大震災で甚大な被害にあった日本に心を痛めたイタリアの柔道家チェザーレ・バリオーリ氏が、女子柔道オリンピックチャンピオンの谷本歩実(コマツ)さんを通じ、被災地で柔道をする若者を無償で招きたいとの申し出があり、谷本さんと親交の深い本学の南條和恵柔道部女子監督にお声がかかったことがきっかけでした。

バリオーリ氏は現地でA・I・Z・Eという柔道協会を立ち上げていて、現在4000人以上いる団体の会長です。2人は午前中に古武道やランニング、イタリア語の研修、午後は立ち技などの練習をする生活をしながら、合間をみでは市長を表敬訪問し、その様子が後日地元新聞に掲載されるなど、約20日間の滞在中、積極的に学びました。



最初は通訳が不在だったため、辞書を片手に現地の方々とコミュニケーションを図ったそうですが、帰国する時には簡単なイタリア語も覚え、言葉の壁を越え理解しあえる醍醐味を経験したそうです。バリオーリ氏は最後にはなむけとして、自身の師である阿部謙四郎氏から教わった「葉月の月100年続く友情が生まれた」という言葉を2人に贈り、別れを

惜しまれたとのことでした。

参加した勅使瓦君は「これまでは勝つことのみを目標にしてきましたが、バリオーリ氏の教えを伺い、あらためて柔道の本質的なものを見つめる機会を得られ、心より感謝しています」と述べました。

バリオーリ氏は、来年も本学から学生を招いて下さることを検討中だそうで、この経験を是非、他の学生達と共有し継続されるよう望まれます。

2番目に発表したのは、8月15日～22日までカリフォルニア州立大学ロングビーチ校で、スポーツ栄養とマネジメントセミナーに関する短期研修を行った11名です。(スポ情4年大黒ゆきこ・運動栄養3年進藤亮祐・体育3年奥山隆寛・運動栄養2年高木美咲・同 森麻衣子・同 東館良太郎・体育2年鈴木春菜・同 松本雄也・同 櫻井潤平・同 中村麻衣・運動栄養1年松本玲菜)

運動栄養とスポーツマネジメントの混合プログラムに取り組んだ学生達は、一般的にアメリカ人は、分野に限らず日本人よりプロフェッショナル意識が高いことや、試合においても競技そのもののみならず、エンターテインメント性を織り込み、いかに観客が楽しめるか、リピーターになって何度も競技場に足を運んでくれるか、も含めて重要な要素であるなど、プロスポーツをビジネスの視点で捉えつつ、成功させるために数多くのことを学んだそうです。

栄養面については、日本で行われている栄養指導と共通する部分が多々あり、自分達が今、勉強していることが世界に通じる手ごたえを得たとのこと。難点は、アメリカも日本と同様、実際にアスリートに指導できる職場が非常に少ないことで、今後、自分達が学んだことが仕事として活かされる場を切望する声が聞かれました。



彼らは、本格的なスポーツ栄養学に触れた経験によりさらに興味・関心が深まり、通訳を介するとどうしても情報が限られてしまうので、もっと英語を学び、次回はできるだけ自分で理解できるようにしたいとの意欲に溢れていました。普段は他の学科のカリキュラムを学ぶことができないため、今回の混合クラスはとても新鮮で自分達の大学の良さを海外で改めて知る機会になったそうです。4年生唯一の参加者である大黒さんは「短期間の研修でとても中味の濃い勉強ができたので、今後は海外の大学への留学を視野に入れた上で進路を検討していきます。」と語っていました。

3番目に発表したのは8月31日～9月6日までハワイ州立大学でアスレティックトレーナーのアドバンスドコースに参加した9名です。(体育3年菅原夕貴・同 遠藤蓉子・同 貝沼由香里・体育4年狩野芳明・同 多田朝・同 千葉宣貴・同 松島遥香・同 佐々木千花・同 三浦結)



初日に今回の目玉の一つである「献体解剖」を見学した学生達は、対応していただいたUH関係者の多大なご尽力により、実際に献体に触る許可も得られ、日本では到底体験できない貴重な学習をしたそうです。アスレティックトレーナー(ATC)は、日本の場合、医師がいないと活動できないのに対し、アメリカでは医療資格として一定の医療行為が認められているなど大きな差があり、選手と監督の間に立ち積極的にコミュニケーション

ンをはかりながら「精神面でのケア」をも担うATCの活躍に、学生達は尊敬のまなざしで真剣に取り組みました。

また、大学院での授業を見学した際、先生がほとんど黒板を使わず学生との会話形式で授業を進めていること、質問があれば学生達は積極的に発言し、その場で疑問点を解決しようとする活気あふれる内容が新鮮だったそうです。

平成22年2月、23年8月に引き続き今回で3回目と、過去最多参加者となる4年生の松島さんは「海外と日本のトレーナーの違いを知りたくて3回研修に参加しました。特に前回「献体解剖」を体験した時は、衝撃があまりに大きくせつかくの機会を十分に活かすことができなかつたため、今回は事前に自分で解剖に関する知識を得た上で臨み、その結果、人体の仕組みや筋肉がどのように作られているかなど、詳しく知ることができとても満足しています。選手と現場で接し、水汲みなど具体的なサポートが可能なこの研修は最大の魅力で、後輩達には是非参加して欲しいです。」と話しています。

佐藤滋学長補佐から「学生達の立派な発表に感銘を受けました。現場で学ぶ大切さに一人でも多くの学生が触れ、視野を広げていって下さい」とのご挨拶があり、2時間にも及ぶ報告会が終了しました。

来年の2月には同大学における英語NICE研修・ATビギナー研修が今回同様、独立行政法人日本学生支援機構からの奨学金を得た形で予定されており、海外での貴重な体験は学生達を一段と成長させる大きな糧となり、今後の勉学への意欲と自信にもつながることでしょう。



## 吉井講師が今年も「エコプロダクツ2011」に出展



写真提供：吉井講師

日本最大級の環境展示会「第13回 エコプロダクツ2011」が15 - 17日に東京ビッグサイトで開催され、吉井講師を中心とする研究グループが昨年に引き続いて振動床を出展しました。この

振動床は、(株)音力発電が開発した「発電床®」の技術をスポーツ分野に応用することを目指しているもので、将来的にはスポーツ施設の電力の一部を利用者自身の自由なスポーツ活動で賄うというビジョンを構想しています。展示会は吉井講師の他、研究チームの阿部篤講師と藤本助教、補助学生がブースに来場した方に対して、説明と体験をしていただきました。本学ブースには3日間で約1000名の来場をいただく大盛況で、12月15日のNHK昼のニュース全国版でも放映されました。



写真提供 / 朴澤学長

## 「第7回スポーツを考える会」開催



2011年12月1日（木）、仙台市青葉区内で「第7回スポーツを考える会」（本学スポーツ情報マスメディア研究所主催）が行われました。考える会は大学と地域を結び、ともにスポーツについて語り合うもので、県内外から業種を越えた40余名が集まりました。

3月11日の東日本大震災後、久々に顔を合わせたメンバーは互いに近況を伝えあい、スポーツを通じたふるさと仙台市・宮城県・東北全体の復旧・復興に向け、その絆を確かめ合っている

ようでした（写真右）。

また、日刊スポーツエージェンシーの阿部賢氏（写真左）が座長を務められた「スポーツ報道の過去・現在・未来」では、スポーツ新聞の変遷に加え、将来の豊かなスポーツ文化形成のためには「見る者の品格」を高める必要性がある一と話されていました。

今回は、宮城県のスポーツ振興基本計画策定に向けてただいま奔走中の宮城県スポーツ健康課様に座長をお願いし、皆さんとともに震災後厳しい環境下に置かれたスポーツの「再生」を考えます。興味のある方は、スポーツ情報マスメディア研究所（0224-55-1045）までお気軽にお問い合わせください。

<スポーツ情報マスメディア研究所>

## 北海道道央支部同窓会開催（報告）



12月3日（土）に北海道道央支部同窓会がホテルオークラ札幌で開催されました。57名の同窓生が集結し、本学からも朴澤学長、小池教授、渡辺入試担当課長が出席して情報交換をするなど交流を深めました。また、同支部同窓会の更なる発展を確認しあう大変有意義な時間となりました。

写真提供 / 渡辺入試担当課長

## 細川優樹さんがV・プレミアリーグの大分三好ヴァイセアドラーに入団内定

～ 本学で初のVリーグ選手に～



男子バレーボール部の細川優樹さん（体育学科4年）がバレーボールのV・プレミアリーグに所属する大分三好ヴァイセアドラーへ入団することが内定しました。

本学からバレーボールで社会人に進んだ卒業生は複数名おりますが、石丸出穂監督が就任してからは初めてのVリーグ入団選手となります。

細川さんは秋田県立雄物川高校出身。高校でもインターハイに出場するなど活躍し、本学入学後も1年生から主力として実力を発揮。2年時

には仙台大学を13年ぶりの東北大学リーグ優勝に導き、その後の連覇にも大きく貢献しています。4年からはチームのキャプテンを務め、チームを鼓舞してきました。

男子V・プレミアリーグは今週末12月24日に開幕し、細川さんも大分三好ヴァイセアドラーの一員としてチームに帯同しました。Vリーグでは内定選手の試合出場が許されているため、細川さんは試合にも出場。チームは敗退したもののV/プレミアリーグデビューを飾りました。細川さんの今後の活躍に是非、ご注目下さい。

## 全日本スケルトン選手権

～ ジュニア日本代表の渡辺みずきさんが4位入賞～

12月25日に行われたスケルトン・ボブスレーの全日本選手権大会において、新助手の小室希さんが女子スケルトン3連覇を果たしました。男子スケルトンでは本学0Bの高橋弘篤選手（システックス）が2連覇を果たし、渡辺瑞基さん（体育3年）が学生としては前例がない4位入賞という快挙を果たしました。「伊達なSPORT PRO - JECT」の高校生3選手もジュニアオリンピックカップの部で好成績を収めました。

[本学関係]

男子

- 1位 高橋弘篤選手（平成18年度卒）
- 4位 渡辺瑞基さん（体育学科3年）

女子

- 1位 小室希新助手
- 3位 大向貴子選手（平成18年度卒）

[ジュニアオリンピックカップ]

男子

- 1位 佐藤 弾選手（柴田高校2年）
- 2位 野倉大貴選手（柴田高校2年）

女子

- 1位 安藤早紀選手（柴田高校2年）

4位入賞を果たした渡辺瑞基さん（体育3年）



私がスケルトンに興味を持ったのは高校の時に仙台大学0Bでソルトレークシティ五輪、トリノ五輪日本代表選手である稲田勝さんとの出会いでした。はじめて会ったオリンピックからスケルトンの魅力を切々と話しされたことで、小学2年から続けてきた野球を捨てて仙台大学でスケルトン競技

に打ち込むことを決意しました。スケルトンの魅力は生身で体験できるスピード感と、自分の成長がタイムに表れる点。今年の好調は、ジュニア日本代表として昨年・今年と参戦しているアメリカズカップでの経験が大きいです。世界のレベルの高さを感じる事ができましたし、競技者としての視野が広がりました。

当面の目標は1月末にオーストリアで開催されるジュニア世界選手権で6位入賞を果たすことですが、最終的な目標はオリンピックでのメダル獲得です。そのためにはプッシュのスピードが課題となります。年々、プッシュのスピードは上がっていますが、まだまだ伸ばせると確信しています。滑走技術には自信を持っているので、プッシュスピードの強化を図っていき、夢を実現させたいです。

## 韓国体育大学の柔道部が本学で強化合宿



12月20 - 27日に韓国体育大学の柔道部員17名と指導者2名が本学で強化合宿を開催しました。これは平成21年より互いの大学を行き来して交流を図っているものです。

韓国体育大学には2月に現代武道学科の学生が訪問する予定になっており、今後更なる交流が図られます。

## 初開催のインカレで女子2位、男子3位 / フロアボール同好会



写真提供:フロアボール同好会

12月24、25日に、フロアボールのインカレ「第1回日本フロアボール学生選手権大会」が初めて開催され、本学フロアボール同好会は女子チームが準優勝、男子チームが3位入賞を果たしました。

フロアボールとは、レクリエーションスポーツであるユニバーサルホッケーと酷似したスポーツで、穴のあいたプラスチック製のボールとスティックを使いゴール数で争う競技です。北欧ではプロリーグが開催されるほど人気の高

いスポーツですが、日本では競技人口が少なく、大学でサークルを持っているのは駿河台大、国土館大、山形大、東北大、仙台大の5校（女子は国土館大を除く4校）のみです。そのため学生だけの大会はこれまで設けられず、社会人の大会だけでした。しかし今年、インカレが初開催されたこともあり、学生への普及も期待がかかります。

フロアボールは世界選手権等も開催されていますが、日本代表キャプテンを務めているのは本学OBの渡部大輔さん（28回生 / 基礎スキー部）です。渡部さんは日本フロアボール協会の普及・広報委員長も務めており、選手としても所属する調布イーグルスを3年連続の日本選手権優勝に導くとともに、2010年の日本フロアボールリーグ最優秀選手に選ばれています。インカレの開催にあたってもご尽力されました。

日本のトップ選手として活躍する先輩を目標に、学生たちの今後の活躍に大きく期待したいものです。

## 宇野澤 衣里さん 東北女子アイスホッケー大会準優勝



優勝だったものの、チームは今年の全国大会でB

リーグを制覇、今年から8チームしか出場できないAリーグで戦うことが決まっております。練習にも熱がこもっているとのこと。練習場所はアイスリンク仙台（仙台市泉区）で週2回。営業時間外の夜9時半から11時まで行い、この他、アイスホッケー人口が増えてほしいとの想いからジュニアチームの指導もしているそうです。自身も父親の影響で3歳からアイスホッケーをはじめた宇野澤さん、「アイスホッケーの魅力はシュートを入れた時の快感と、仲間との信頼関係だと思っているので、それを子供たちに伝えていきたい」と話します。

リーグを制覇、今年から8チームしか出場できないAリーグで戦うことが決まっております。練習にも熱がこもっているとのこと。練習場所はアイスリンク仙台（仙台市泉区）で週2回。営業時間外の夜9時半から11時まで行い、この他、アイスホッケー人口が増えてほしいとの想いからジュニアチームの指導もしているそうです。自身も父親の影響で3歳からアイスホッケーをはじめた宇野澤さん、「アイスホッケーの魅力はシュートを入れた時の快感と、仲間との信頼関係だと思っているので、それを子供たちに伝えていきたい」と話します。

## サッカー部Bチームが全国大会 準

～インディペンデンスリーグ2011 第9回全日本大学サッカーフェスティバル～



学生サッカーのBチームによる全国大会「インディペンデンスリーグ2011 第9回全日本大学サッカーフェスティバル」が12月8 - 10日に愛知県光明寺公園球技場で開催され、本学サッカー部Bチームが東北代表として初出場し、準優勝しました。この大会は、試合への出場機会が少ないBチームの試合機会の提供を目的に開催されているものです。学生サッカー界では総理大臣杯、インカレと並んでインディペンデンスリーグが3大大会と呼ばれていますが、これまで東北大学サッカー連盟はインディペンデンスリーグ

に参加していませんでした。今年初めて東北予選が行われ、本学は東北代表として1回戦の国士舘大学（関東代表）、2回戦の中京大学（東海代表）に1 - 0で勝利し、決勝戦で関西学院大学（関西代表）との対戦に挑みました。試合は五分五分の展開を繰り広げたものの本学のシュートはゴールに結びつかず、0 - 1で惜敗しました。しかし、今大会で得られたものは大きかったようで、Bチームの指揮を執った伊勢コーチ（臨時職員）は「Bチームは7月の東北地区総合体育大会でシーズンが終了してしまっていたが、今年はインディペンデンスリーグを目標にしてモチベーションを高く練習に取り組んでくることができた。全国で通用する部分もあった一方で、選手個人の課題が浮かび上がったので来シーズンまで克服してほしい。」と話し、サッカー部の吉井監督は、「サッカーの強豪校は部員が100名以上所属しているケースも少なくないので、Bチームの選手にチャンスが与えられ大会の意味は大きいと感じている。優勝まで後一步だったため悔しいが、選手たちが得た経験が一番の収穫」と語るなど、選手の成長に満足しているようでした。



## 訃報

平成23年12月25日に前事務局長の佐々木幸夫氏をご逝去されました。佐々木氏は1999年4月から今年9月までの12年半にわたって特に入試部門においてご尽力いただき、2008年4からは事務局長として事務局をまとめられました。心よりご冥福をお祈りいたします。



# Monthly Report

Vol.69 / 2012 Jan.

## 大崎市教育委員会と連携協力に関する覚書締結 ～ 県北の自治体との連携は初～



1月13日(金)、大崎市教育委員会と本学は連携協力に関する覚書を締結しました。今回の締結により 児童・生徒の学校生活の支援、教員養成や職員の研修、生涯学習および生涯スポーツ事業への協力、大学および学校における教育研究面での協力、その他双方が必要と認める事業において連携協力が図られます。大崎市岩出山庁舎で行われた調印式で大崎市の矢内諭教育長は「大学の持っている教育財産でスポーツ教育や健康づくりを支援してほしい」と話し、朴澤学長は「指導者を目指している学生が多いので、学生にも研修の場を提供していただきありがたい」と述べました。

大崎市教育委員会と本学はこれまでも交流があり、仲野隆士教授が大崎市スポーツ振興審議会のアドバイザーとなって振興計画策定の際に助言し、また、藤井久雄教授と学生が鬼首小学校でのクロスカントリースキー教室の指導を行なってきました。また、3次補正予算で採択された「学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業」を具体的に展開する地域の対象地ともなります。今回の締結により更なる連携協力が期待されます。

### 仙台大学の地域連携事業

<http://www.sendaidaigaku.jp/koryu/chiiki.html>

## 目次

大崎市教育委員会と連携協力に関する覚書締結	1
伊達なSPORT PROJECT コースオリンピック開幕	2
仙台大学同窓会へ感謝状 高校会から壁掛時計設置	3
東北楽天ゴールデンイーグルス選手がトレーニング	4
台東大学から短期留学生 多文化アカデミー 語学研修	5
David Dowell氏が来訪 短期海外研修合同結団式	6
学生の活躍	7

学生の活躍や、取り組みをご存知でしたら  
広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関  
にも旬な話題を提供していきたいと考えて  
おります。

本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、  
広報室までご一報ください。

### 広報室

直通 0224-55-1802

内線 佐藤美保 256

土生佐多 200

伊東宏之 271

Email:kouhou@scn.ac.jp

## 伊達なSPORT PROJECT 第1回ユースオリンピック開幕

～ 応援ありがとうございました～



写真提供：柳谷新助手

第1回ユースオリンピック冬季大会ヘスケルトン競技での選手輩出を目標として、鈴木省三教授が中心となって2010年に立ち上げた「伊達なSPORT PROJECT」は、佐藤 弾選手、野倉大貴選手、安藤早紀選手（共に柴田高校2年生）の3

名をユースオリンピックに出場させ、大会を無事に終わることができました。選手は大会期間中、試合に向けたコンディション作りとともに、CEP（文化・教育プログラム）に積極的に参加し、オリンピックの意義である卓越性、尊重、友情を学び、実感し、表現できるようになること実践してきました。このプロジェクトは地産地消を活用した食育を一つのテーマとし、必要な栄養素を宮城県に所在する企業の方々から提供いただくなど、多くの方々の支えにより進めてまいりました。温かいご声援をありがとうございました。

### ユースオリンピック結果

<男子>

佐藤 弾 選手 第9位

野倉 大貴選手 第10位

<女子>

安藤 早紀選手 第14位

## 明成高校調理科リエゾンキッチン」第61回河北文化賞を受賞



明成高校調理科リエゾンキッチンが、東北の学術・芸術・体育・産業・社会活動の各部門で顕著な業績を挙げた個人・団体を顕彰する「第61回河北文化賞」を受賞しました。明成高校調理科リエゾンキッチンとは、「リエゾン（liaison）＝連携・つながること」をテーマとして、地域との連携により伝統的な仙台みそや仙

台白菜などの食文化を伝え、食育活動を展開する食環境デザインプロジェクトです。本学園は創立120周年の節目の年（平成11年）にも実学教育による120年の人材育成の功績が認められ同賞を受賞しており、今回が本学園としては2度目の受賞となります。



1月17日（火）に仙台国際ホテルで行われた贈呈式には朴澤理事長が登壇し、河北文化事業団理事長の一力雅彦氏より表彰状と記念品が授与されました。なお、当日は明成高校調理科の生徒が会場入口に設けられた紹介コーナーで来場者に対してリエゾンキッチンの取り組みを紹介しました。

写真提供：明成高校

## 仙台大学同窓会へ感謝状贈呈



仙台大学では、災害ボランティア用車両購入費として仙台大学同窓会より1千万円の寄付をいただきました。1月17日（火）に行われた第852回教授会の冒頭で、朴澤学長より仙台大学同窓

会に対して感謝状が贈呈され、感謝の意が伝えられました。

16日（月）にはワゴン車（トヨタ・HIACE）も納品され、先に納品されたマイクロバスと共に災害ボランティア活動で活用させていただきます。



## 仙台大学高校会から寄贈の壁掛時計 第5体育館に設置

10月のマンスリーレポートでも紹介していましたが、仙台大学高校会（本学の卒業生で、宮城県内の高等学校の教員で組織している会）から寄贈いただいた壁掛時計（SEIKO製、LED式デジタル時計）が1月24日（火）に第5体育館1Fエントランスに設置されました。玄関を入ると一目で確認できるたいへん見やすい時計です。諸先輩方の熱い思いが込められた時計が高校の教員を目指す学生達にとって力強い励みとなることでしょう。



## 大学入試センター試験が無事に終了



1月14日（土）、15日（日）に大学入試センター試験が行われ、本学でもセンター試験企画プロジェクトを中心とする教職員・新助手が8度目となる仙台大学試験場の実施運営及び試験監督業務を担当しました。今年度から地理歴史、公民及び理科において2科目受験が導入されましたが、本学ではトラブルなく実施することができました。本学会場ではJRの遅延により試験時間を40分繰り下げて別室で受験した生徒が1名いたものの、2日間とも大きなトラブルもなく、スムーズな試験運営がなされました。ご担当された教職員・新助手の皆様、たいへんお疲れ様でした。

## 東北楽天ゴールデンイーグルスの新人選手が本学で体力測定



昨年10月のプロ野球ドラフト会議を経て、東北楽天ゴールデンイーグルスに入団した新人7選手が1月17日（火）に本学で体力測定を実施し

ました。測定したのは身長・体重・体脂肪の基礎測定と、専門機器を使用しての最大酸素摂取量と膝屈曲伸展の計測です。計測された数値は自身の体力レベル把握と、トレーニングメニュー組み立ての指標となります。

本学では昨年も新人選手を受入れて体力測定を行ったほか、選手個人の依頼を受けて低酸素トレーニング等を実施しています。



## 東北楽天の4選手が低酸素トレーニング実施

1月26-29日には川岸強投手、石志嶺忠捕手、山本大明捕手、西村弥内野手、阿部俊人内野手の4名が低酸素トレーニングを行いました。川岸、西村選手が本学で自主トレを行うのは3年目、石志嶺、阿部選手は昨年引き続きの低酸素トレーニングです。

今年は例年のように宿泊してのトレーニングではありませんでしたが、低酸素状態でのバイクは慣れた選手たちも辛そうな様子でした。トレーニングは高橋弘彦教授指導のもと行われ、同ゼミ生も計測に協力しました。



## 東京就職合同説明会・弾丸ツアー



意見交換会の様子 写真提供：鈴木職員（入試創職室）

1月20、21日に東京就職合同説明会に参加するために弾丸ツアーが生まれ、3学年30名が参加し

ました。弾丸ツアーは就活塾の取り組みの一つとして昨年はじめて組まれたもので、大学の取り組みとして行うのは今回が初めてです。弾丸ツアー参加者には事前研修として体育大学学生の強みと弱みについての理解や、自身の長所・短所を客観的に分析する時間を設けて説明会への準備を行いました。ツアーには入試創職部長の中房教授・入試創職室の鈴木職員も同行し、移動する車中でも合同企業説明会の効率的な回り方などの指導もなされました。合同説明会後には首都圏学生との情報交換会も実施され、上智大学・日本女子体育大学など首都圏の就職活動状況を直接聞き、就職の厳しい現状を再確認していました。なお、弾丸ツアーは保護者会からの支援で賄われています。

## 台東大学短期交換留学生を受け入れ



1月19日 - 2月9日に、国際交流協定を締結している台東大学（台湾）から3名の短期交換留学生を受け入れております。留学生は滞在中、実技を中心に講義に出席するほか、日本の伝統文化である着物の着付けや茶道、華道などを体験する予定です。1月20日（金）にはウェルカムパーティーが学生食堂で開かれ、教職員や学生・外国人留学生の約40名が参加して歓迎しました。

朴澤学長の挨拶では「東日本大震災により、台  
ロゲンチュウ  
東大学からの留学生は盧彦中さんだけになっていました。今回こうして3名の留学生にお越しいただくことができ、仙台大学としてもたいへん嬉しく思っています。仙台大学には中国・韓国・タイ王国からも留学生が来ているので是非、交流を深めてください」と話されました。短期留学生の挨拶では3名共に日本語で名前と台東大学での所属学科、趣味等を話し、出席者から拍手喝采でした。

2月9日まで本学に滞在しますので、学内で会った際は話しかけてみてください。

### 台東大学留学生

ウェイ・チーイン

魏 綺 瑩（教養学科3年）

チェン・イーイン

陳 宜 吟（応用科学学科3年）

ユー・イーチェン

宜 鞍 箴（英米言語学科2年）

## 東北多文化アカデミーで日本語短期研修が修了



平成24年度から本学大学院で学ぶ中国人留学生の3ヶ月に及ぶ日本語短期研修の日程が修了し、12月27日（火）には修了発表会と修了式が研修先である東北多文化アカデミーで行われました。朴澤学長と学生支援室の千葉室長、大学院の馬臨時職員も出席しました。

東北多文化アカデミーの日本語短期研修は昨年からはじまったもので、大学院の講義を理解するだけの日本語能力を向上させることが目的です。また、日本語能力が東北多文化アカデミーで設定する一定の基準をクリアした場合、研修中の寮費の一部を本学が補填することとしているため、留学生たちはより真剣に勉強に努めました。



## カリフォルニア州立大学ロングビーチ校のDavid Dowell副学長が来訪



1月23日（月）に本学が交流締結しているカリフォルニア州立大学ロングビーチ校のDavid Dowell副学長ご夫妻が来学し、朴澤学長と懇談や施設見学を行いました。David Dowell副学長は東北大学で開かれたる会議出席のために来仙し、去年10月の本学大学祭でご講演くださった同大学のジョシ学部長とキーナート副学長がやりとりをして実現したものです。国際交流センター長の鎌田教授や事業戦略室、同大学大学院卒業の加賀新助手なども対応し交流を深めました。



## 平成23年度冬季 短期海外研修合同結団式

～ 海外の4つの大学（5つの研修・短期留学）で研鑽を深める学生達～



大学を代表して行く意識をもって参加すること」とお話しがありました。学生達は「海外と日本のさまざまな違いを学んできたい」「将来はNBAチームのトレーナーになりたい」など、一人一言ずつ抱負を述べ、研修への意欲を高めていました。

最後に鎌田国際交流センター長より「国の支援同様、保護者会からの援助があることを忘れず、感謝の気持ちを持って実り豊かな経験ができることを願う」とのご挨拶があり、終了しました。全員が真剣に異国での勉強に取り組み、全プログラムを全うして帰国することを願うと共に、報告会での成果発表がより充実したものになるよう期待されます。

1月24日（火）、ハワイ州立大学（英語研修）・同大学（アスレティックトレーニング研修）、カヤ二応用科学大学、韓国国立体育大学、台東大学においてそれぞれ研修・短期留学する学生達が一同に会し、合同の結団式が開催されました。（参加者は別紙記載の通り）

上記5つの内容（4大学）で学ぶ総勢26人の学生達を含め、45人もの関係者が出席した結団式はかつてない規模となりました。これら全てが、平成23年度の（独）日本学生支援機構の留学生支援奨学金制度の採択を得た結果によるものであり、体育系大学としては仙台大学のみが獲得した実績であり、本学における国際交流が確実に飛躍・進展していることをうかがわせるとともに、着実な成果が求められるところとなりました。

最初に朴澤学長から「国の支援を受け学生のうちに海外で学ぶ機会を得ることは大変有意義であるので、是非その主旨を踏まえてしっかり研修して欲しい。今回の体験を自分達だけで終わらせず、後輩達に引き継いでいけるよう仙台

### 平成23年度 冬季 短期海外留学研修 参加者一覧

#### ○ハワイ州立大学英語研修

期間 2月5日～2月26日  
 引率者 柴田 恵里香、山口 貴久、渡邊 一郎、若生 可奈、遠山 知寿  
 参加学生 須貝 真実（体育2年） 高垣 一枝（体育2年）  
 齋丸 愛（運動栄養2年） 海上 拓哉（体育1年）  
 嶋田 直人（健康福祉1年） 鶴巻 雄大（現代武道1年）  
 参加職員 品田 由佳、芦川 尚子

#### ○カヤ二応用科学大学

期間 2月5日～3月2日  
 引率者 高橋まゆみ、笠原 岳人、小室 良太郎  
 参加学生 泉 幸（健康福祉3年） 松川 瑛司（健康福祉3年）  
 山田 彩夏（健康福祉2年）

#### ○韓国国立体育大学

期間 2月20日～2月24日  
 引率者 齋藤 浩二、鎌田 幸雄、中鉢 芳尚  
 参加学生 大谷 健太郎（現代武道1年） 洪谷 正行（現代武道1年）  
 千葉 裕也（現代武道1年） 新沼 智将（現代武道1年）  
 橋本 力（現代武道1年）

#### ○ハワイ州立大学アスレティックトレーニング研修

期間 2月20日～2月26日  
 引率者 千葉 勝彦、菊地 太一、白幡 恭子、高橋 陽介  
 参加学生 成田 大貴（体育2年） 外谷 涼将（体育2年）  
 村松 里美（体育2年） 山崎 加奈子（体育2年）  
 船山 美希（体育2年） 東館 亮太郎（運動栄養2年）  
 渡辺 尚（運動栄養2年） 山本 康平（体育1年）  
 三好 聖奈（体育1年） 小坂 望美（体育1年）

#### ○台東大学

期間 3月4日～3月29日  
 引率者 藤原 徹、荒木 遼  
 参加学生 佐藤 志帆（健康福祉3年） 小林 真衣（体育2年）

## 船山弘希さんがプロスノーボーダーに



スノーボード同好会の船山弘希さん（健康福祉学科4年）がプロスノーボーダーとして1月にデビューを果たしました。これは昨シーズン、全日本スノーボード選手権大会デュアルスラロームレースなどの日本スノーボード協会（JSBA）の公認競技会で上位入賞するなどして、プロ資格条件であるシーズンランキング8位以内をクリアしたもので、今シーズンからはプロ資格を有してレースに挑みます。船山さんは宮城県立塩釜高校出身。4歳から父

親の奨めでスノーボードをはじめ、スラロームの虜になったとのこと。高校3年で全日本ジュニア選手権（18歳以下）に優勝するなど頭角を現しました。そして、幼少の頃から憧れの存在であった本学OBの鶴岡剣太郎選手（平成8年度卒/トリノ冬季五輪代表選手）の母校である本学に進学した。大学では日本スノーボード協会公認レースを転戦するほか、学生大会でも全日本学生スノーボード選手権大会でジャイアントスラローム（GS）とスラローム（SL）の2種目で2連覇を果たすなど活躍しました。今後は競技を通してジュニアの育成にも関わっていきたくと話しました。船山さんの活躍に期待がかかります。

## 大分三好ヴァイセアドラー入団内定の細川優希さんが朴澤学長に挨拶



先月のマンスリーでも紹介しましたが、男子バレーボール部の細川優希さん（体育4年）がVプレミアリーグの大分三好ヴァイセアドラーから入団内定をもらい、既に内定選手としてチームの一員として試合に出場しています。細川さんが1月26日（木）に石丸講師と共に朴澤学長にVプレミアリーグ入団内定の報告と、チームのポスターを手渡しました。

細川さんはチームのスターティングメンバーに名を連ね、チームの主力選手として活躍しています。「プロチームは戦略も緻密で、自分の実力がまだまだ足りない実感している。高いレベルの中で成長したい」とレベルアップを誓っていました。

## 硬式野球部の高島光紘さん きらやか銀行に内定



硬式野球部の高島光紘さん（体育4年）が「きらやか銀行（本店：山形県山形市）」に入行し、同行硬式野球部に所属することが決まりました。高島さんは野球強豪校である尽誠学園高校（香川県）出身で、高校3年時には3番・左翼手として甲子園の舞台も踏んでいます。本学では1年時より主に1番・中堅手として出場し、大学2年の秋季リーグ戦では最多盗塁賞とベストナイン（外野手）のタイトルを獲得されるなど俊足巧打の中心選手として活躍されました。しかし、4年間目標にしてきた明治神宮球場（全国大会）への進出は叶わず、後輩たち

にその思いを託すことになりました。そして自身の目標を明治神宮球場から社会人野球の全国大会の主会場とである東京ドーム・大阪ドームへと切り替え、決意新たに引退後も精力的に日々後輩たちと共に練習に取り組んでいます。

「大学卒業後も野球に身を投じることができて素直に嬉しい。きらやか銀行は去年の都市対抗野球大会東北地区予選で代表決定戦まで進出し、全国大会まであと1勝だった勢いのあるチーム。1年目からレギュラーを獲得し、チームの全国大会出場に貢献したい」と話していました。

なお、きらやか銀行には舟田友哉選手（平成17年度卒）、梅津拓也選手（平成20年度卒）中島周作選手（平成21年度卒）、三浦泰志選手（平成22年度卒）が在籍し、活躍しています。

# Monthly Report

Vol.70 / 2012 Feb.

## 日本学生支援機構に採択されて実現した韓国体育大学校との国際交流協定校訪問プログラム



日本学生支援機構の平成23年度留学生交流支援制度プログラムで採択された「韓国体育大学校 国際交流協定校訪問プログラム」により両大学間での学生交流が図られました。

先に韓国体育大学校の教職員3名と学生5名を2月14 - 19日に受入れ、本学でのキャンパス見学や学生交流、宮城県の観光や文化交流などを行いました。2月19 - 26日には本学から国際交流センター長である鎌田教授と齋藤現代武道学科長、中鉢職員、現代武道学科の学生5名が韓国を訪問し、韓国体育大学校で施設及びテコンドーの練習を見学するなどした他、現地の文化や歴史に触れました。現代武道学科では2年時に同大学から講師を招いてのテコンドーの授業が予定されている他、海外武道実習として韓国の龍仁大学での実習も予定されています。今回のプログラムを通して学生間の交流を行えたほか、23日の教職員だけで行われた国際交流打ち合わせでは、朴澤学長と田中智仁新助手（東京事務所）も出席し、東日本大震災の時に頂戴した大学見舞金に対する御礼の他、現代武道学科を中心に今後の交流についての意見交換を行いました。



写真提供：中鉢職員

あおたに けんたろう      ちば ゆうや      はしもと つとむ  
 <参加学生> 大谷 健太郎さん、千葉 裕也さん、橋本 力さん  
しぶや まさゆき      にいぬま ともまさ  
 渋谷 正幸さん、新沼 智将さん

### 目次

韓国体育大学校との国際交流協定校プログラム	1
シーナカリンウィロート大学と締結	2
郷野茂さんオルデンブルク大学に留学	3
柴田町との連絡会議開催 修士論文最終発表会	4
鬼首小学校でスキー指導 講座仙台学	5
宮城県グループホーム協議会 研修会	6
学生の活躍	7

学生の活躍や、取り組みをご存知でしたら  
広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関  
にも旬な話題を提供していきたいと考えて  
おります。

本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、  
広報室までご一報ください。

#### 広報室

直通 0224-55-1802

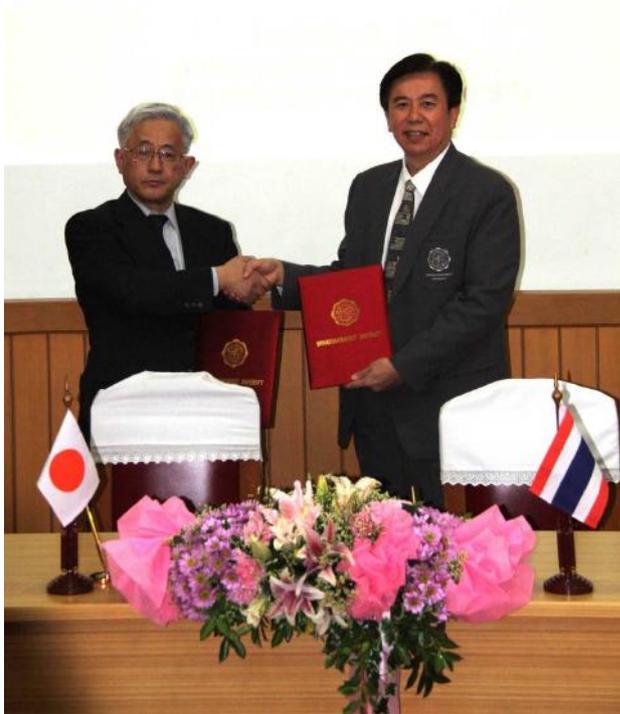
内線 佐藤美保 256

土生佐多 200

伊東宏之 271

Email:kouhou@scn.ac.jp

## タイ王国・シーナカリンウィロート大学と締結



写真提供:シーナカリンウィロート大学

2月12-15日に朴澤学長、石森職員がタイ王国のシーナカリンウィロート大学（以下：SWU）を訪れ、国際交流協定書の調印を行いました。調印式ではSWUのChalermchai学長から「これまで5名の学生がお世話になっており感謝している。今後もさまざまな分野で交流をはかっていきたい。また、バンコクでの大洪水の際には温かいご支援をいただき大変感謝している。」との挨拶がありました。これに対して朴澤学長が「先に受け入れた3名に加え、東日本震災で不安が残る中で更に2名の学生に短期留学していただいたことに感謝している。また、2013年3月にSWUなどが主催で開催される研究発表会に仙台大学からも発表者を出すなど、更に交流を発展させていきたい。」と挨拶しました。

式の初めには、これまでに仙台大学へ留学した学生の日本での活動の様子が紹介されるなど、終始和やかな雰囲気での調印式となりました。

シーナカリンウィロート大学と本学は平成21年1月に国際交流協定を締結し、学生の受け入れなど交流を図っています。今回の締結は有効期限となる3年を経過したことから更に3年延長したもので、調印後のティーパーティーでは、今後の更なる交流促進に向けての話し合いがもたれました。

## 留学生が朴澤学長に帰国の挨拶



2月9日(水)に帰国する留学生が滞在中の御礼と帰国の挨拶を行うために朴澤学長のもとを訪れました。今回帰国するのは、2010年から本学で学んでいた大学院生シセイの侍政さん(中国・上海体育学院卒)、10月から科目等履修生として学んでいたタイ王国・シーナカリンウィロート大学のソンプラソン・プラセトスリさんとタニット・リンプラセルトさん、3週間の短期交換留学プログラムを終えた台東大ウェイ・チーインの魏綺瑩さんチェン・イーイン、ユウ・イーチェンの陳宜吟さん、ユウ・イーチェンの宜鞍箴さんです。

今後は本学で学んだことを活かし、更なる活躍を期待します。

## 郷野茂さん オルデンブルク大学(ドイツ)に1年間の留学

～国際交流協定締結後初の交流事業～



郷野さんと小松教授

ごうの しげる

郷野 茂さん（体育学科2年 / 宮城野高校卒）が4月から本学と国際交流協定を締結しているドイツ・オルデンブルク大学へ1年間留学することとなりました。オルデンブルク大学と本学は平成22年2月に国際交流協定を締結し、教育・研究や活発な学生間交流を検討してきました。今回の郷野さんの留学が本格的な初めての交流となります。郷野さんは本学入学前から海外留学に興味を持っており、2010年8月に本学が行った4週間のフィンランド短期留学に参加したこと

で、更に長期海外留学の希望を強めたそうです。昨年10月に小松恵一教授より「仙台大学から初めてのドイツ留学をしてみないか」との話を聞いて、「仙台大学で初」という言葉に心打たれて留学を決意したそうです。オルデンブルク大学では人間・社会科学部の体育学科に所属するようで、留学期間は4月から1年間。3月9日に出国し、約1ヶ月間のドイツ語集中講座が組まれています。

### 郷野 茂さん（体育2年）

「留学を決めてから週に1度は小松恵一先生のところまで1時間半～2時間、ドイツ語を教えてくださいたいです。ドイツ語の難しいところは、英語よりも文法が細かく、文法を理解していないと辞書を引くことすらできないところです。言葉も含め不安もありますが、今回の留学を経て母語・英語・ドイツ語の3ヶ国語が話せるようになれば自分自身の能力としてプラスだと思いますし、将来が楽しくなるのではないかと考えています。ドイツだけでなく様々な国の方とも交流してこようと思います。」

## 東北師範大学に国費留学中の向井 智さんが来学



朴澤学長・日野臨時職員と共に

2009年9月から国費留学により東北師範大学大学院で学んでいる本学OBの向井智さん（平成21年3月卒）が一時帰国し、2月9日（木）に大学にも足を運んでくれました。向井さんの実家は岡山県のため、国費留学中に宮城県を訪れるのは今回が初めてです。修士論文に使用するアンケート調査依頼と、在学中にお世話になった先生方や東北師範大学の先輩である日野晃希臨時職員に会うことが目的ということでした。

東北師範大学大学院ではスポーツ社会学を専攻し、修士論文では「大学生のスポーツ活動に関する日中比較」をテーマに研究しているそうで、大学生の実態を調査するために、東北に所在する大学にもアンケート調査協力の依頼を進めているということでした。

向井さんは修了を今年7月に控えています。修了を1年間先延ばすことも真剣に考えているそうです。その理由は、国費留学が最長4年間まで支援してくれることと、今以上に語学力を高めたという思いがあるからだそうです。「修了を先延ばしするかは決断できていないので、修了できるよう修士論文を進めていきます。」と話していました。そして後輩に向けてのメッセージとして、「海外で生活するだけでも得るものがありますし、接する人、文化が違えば考え方も違ってきます。国費留学はお金がかからないですし、長期留学できるのは国費ならではのメリットです。私にとっても自分を見つめなおせた3年間となりました。今年9月入学予定の国費留学生の募集に対して東北師範大学だけ決まっていなくて聞きました。学生の皆さんには是非、興味を持って参加してもらいたいと思っています」と話してくれました。

## 柴田町との連絡会議開催



2月16日（木）に本学第5体育館大会議室において柴田町と仙台大学との連絡会議が開催され、滝口町長をはじめとする柴田町役場の方々

及び、朴澤学長をはじめとする本学関係教職員あわせて約50名が出席しました。連絡会議の開催は3年ぶりで、柴田町からは東日本大震災に係る被害の概要と町の対応、また、平成24年度の主な事業等について報告がありました。朴澤学長からは中教審スポーツ・青少年分科会から今年1月30日に出された「スポーツ基本計画の策定について（中間報告）」をもとにスポーツ都市を宣言している柴田町に対して資料が示され、スポーツ基本計画の策定についての要請がなされました。

昼食には運動栄養学科学生が考案し、調理された入学式でも配布されている「美味しばた！ はなまる弁当」が出され、好評でした。

## 平成23年度 修士論文最終発表会

2月10日（金）E301教室において平成23年度修士論文最終発表会が開催されました。発表者はいずれも2年コースの修了予定者です。今年度の発表者は以下表のとおり（写真は吉川麻衣さん）。大学院の先生方からの活発な質疑応答がなされ、丸山研究科長からの総評をいただき今年度の発表会が終了しました。



写真提供：大学院事務室吉田課長

侍 政	中国上海市盧湾区の老養院におけるサービスの現状と課題
趙 倩穎	中国における体育・スポーツ政策の成果と課題 「陽光体育運動」に着目して
楊 兆淇	瀋陽市高齢者スポーツの現状と課題
徐 一文	新制度派経済学の理論に基づくプロ野球リーグの組織構造の効率性の分析 日中プロ野球リーグを対象として
戴 璐	太極柔力球実施者の特性に関する日中比較研究
張 坤	体育学習における「ニュースポーツ」の取り扱いに関する研究
吉川 麻衣	「運動嫌い」「体育嫌い」の実態と発生要因に関する研究 小学生・中学生・高校生における「運動嫌い」と「体育嫌い」の関連性に着目して
稲福 貴史	中央競技団体の国際競技力向上を目的とした情報戦略活動の枠組みに関する一考察
中津 範洋	幼児の自然体験活動の教育的意義に関する研究 発生論的運動学の立場から
鈴木 良太	跳馬における踏切技術に関する伝承論的研究
加藤 尚人	ラグビーにおけるスクラムからの攻撃戦術に関する研究
村上 雄大	ミニバスケットボールにおけるミスプレイの構造分析
藤田 雅士	経穴刺激機能付加スポーツ用タイツの着用が疲労軽減及び疲労回復に与える影響

## 大崎市立鬼首小学校でスキー指導

～大崎市教育委員会との連携事業～



写真提供: 学生支援室

1月27日(金)と2月2日(木)の両日、オニコウベスキー場で鬼首小学校の授業の一環で全校生徒(約30名)が参加するクロスカントリー教室が実施され、藤井久雄教授と学生ボランティア有志6名がスキー指導を行いました。これは今年1月に締結した大崎市教育委員会と本学の連携事業の一環で、全校をあげてスキー活動(クロスカントリー、アルペン)に力を入れている鬼

首小学校の児童に対して、体育を学んでいる本学学生が指導したものです。学生にとっても児童と接する有意義な経験となったようで、ボランティアを行った小出 未来さん(健康福祉学科1年)は、「このボランティアに参加したのは実際の教育現場を体験できると思ったからです。鬼首小学校の児童、先生方にあたたかく迎え入れていただき、教員志望の私にとってはとても貴重な経験となりました。来年もぜひ参加したいです。」と話しています。

### [参加した学生]

おがさわら さおり  
小笠原 沙織さん(体育4年)

こいで みらい  
小出 未来さん (健康福祉1年)

よご たける  
余語 武さん (健康福祉4年)

よこやま しゅうへい  
横山 宗平さん (健康福祉4年)

ぬまくら あゆみ  
沼倉 歩美さん (健康福祉4年)

いとう ゆか  
伊藤 由佳さん (健康福祉4年)

## 市民公開講座「講座仙台学」で高成田教授が講演



写真提供: 坂根教授(生涯学習センター長)

学都仙台コンソーシアム「復興大学」事業である市民公開講座「講座仙台学」が東北工業大学一番町ロビー4階ホールほかを会場にして

2/4、2/18、2/25、3/3の4日間(8講座)開講され、18日の講座では高成田教授が「復興計画と現場とのギャップ」という題で講演しました。東日本大震災復興構想会議委員を務めた高成田教授の講座は定員を大きく上回る60名の方々に聴講いただきました。講演終了後も震災からの復興についての質問が多く出たため終了予定時間を大幅に超過しましたが、高成田教授は質問に対して丁寧に答えしていました。

なお、今年で9年目を迎えた市民公開講座「講座仙台学」は、仙台の都市としての個性、魅力を多彩な学問分野の成果によって紹介しており、今年度は学都仙台コンソーシアム「復興大学」事業の一環として、学都仙台コンソーシアムの加盟機関がそれぞれの専門性や特色を活かし独自の視点で出講しています。

## 宮城県認知症グループホーム協議会 南ブロック合同研修会



2月21日（火）、22日（水）、本学を会場に宮城県認知症グループホーム協議会「南ブロック合同研修会」が開催され、2日間で延べ64名の参加がありました。はじめに行われた講義では、

岩田講師から「高齢期の食と栄養」と題して、高齢期の食に関する機能の生理的特徴や調理する上での注意点等について話があった後、津吉講師から調理実習で使用する軟菜食の献立について説明がありました。そして、1グループ3～4名ごとに、運動栄養学科の新助手や学生が受講生のサポートに加わり、軟菜食の調理実習が行われました。実習後に行われたディスカッションでは受講生から「食材の切り方の工夫やご飯をお粥で代替する場合のエネルギー摂取量の比較により、高齢者の栄養摂取について理解が深まりたいへん勉強になった」などの意見が出るなど、有意義な講習会となったようです。



写真提供：菊地志織新助手

## 瀬戸川彩友さんが全日本学生スノーボード選手権スノーボードクロスの部で準優勝



同大会に出場した若生奈歩さん（運動栄養2年：右）と共に

2月9日（木）に長野県X - J A M高井富士スキー場で行われた学生大会「全日本学生スノーボード選手権スノーボードクロスの部」において、スノーボード同好会の瀬戸川彩友さん（運動栄養学科2年）が準優勝しました。スノーボードクロス競技は、4人の選手が同時にスタートし、コースに設置された様々な障害物をクリアしながらスピードを競うことから「雪上のモトクロス」といわれ、オリンピックでは2006年トリノ五輪から正式種目となっています。北海道出身の瀬戸川さんは小学生の頃から趣味の一つとしてスノーボードを楽しんでいたそうですが、今シーズンから大会に参加することを決意し、授業の合間をみて週に2、3度スキー場に通って練習に励んでいたそうです。2大会目で表彰台という結果を出せたことについて瀬戸川さんも満足しているようで、さらに闘志をみせています。

### 瀬戸川彩友さん（運動栄養2年）

「スノーボードクロスは4選手が狭いコースを近距離で滑るので、接触して転ぶことも多く、ゴール前で3選手が転倒して最下位を走っていた選手がトップになることもあるスリリングな競技です。他の選手と競り合いながら勝敗を決するのが一番の魅力だと感じています。今大会では決勝を含め4レース滑りましたが、勝ち進むにつれて選手のレベルが均衡してくるため駆け引きも必要となってきます。大会に出たことで、これまで以上にこの競技に魅力を感じ、練習にも打ち込むことができています。今大会で2位になったことで3月8日に開催される第30回JSBA全日本スノーボード選手権大会への出場権を得ることができました。この大会は国内大会で結果を残したトップ選手だけが集う非常にレベルが高い大会です。競技をはじめて間もない私ですが、出場するからには1つでも多く勝ち進めるよう全力を尽くしたいと思います。」



## 体操のスタンフォード・オープン 日本チーム優勝に貢献

～体操U-21強化指定選手 吉本日月さん～



写真提供：鈴木良太新助手

2月18日にアメリカ・カリフォルニア州のスタンフォード大学が主催する「Stanford Open」が開催され、日本体操協会の男子U-21強化指定選手である吉本日月さん（体育学科1年）が日本チームの優勝に大きく貢献しました。本人も「初めての海外での試合でしたが、海外初体験ということだけでなく、国内の大学のトップ選手と

チームを組んで試合をできたことが大きな経験となりました」と話しています。

吉本さんは兵庫県出身。2才から体操を習い始め、高校は明成高に進学。兵庫から明成高への進学理由は高校から大学屈指の強豪である仙台大学の学生と共に練習できる環境が魅力だったそうです。高校2年の時には全日本ジュニアで結果を残してジュニアナショナル強化指定選手となり、本学入学後もインカレでの活躍によりU-21強化指定選手となっています。体操競技部の鈴木良太監督が「体操選手の中では長身で体線が綺麗な選手」と話すように、生まれ持ったダイナミックな演技でチームの大黒柱となることが期待されている選手です。今後の目標を聞くと「大学ではインカレ優勝。将来はナショナル強化指定選手となり、世界選手権・オリンピックで活躍したい」と話しています。今後の活躍に期待がかかります。



## 障害者スポーツサポート研究部Co-Act.がボッチャ大会開催

～ボッチャを通して障害者と健常者の交流を図る～



2月12日（日）に第5体育館を会場にして障害者スポーツサポート研究部Co-Act.が主催する「第30回Co-Act.ピック ボッチャ競技大会」が開催され、競技参加者や施設の担当者、約150名の参加をいただきました。このイベントは日頃から障害者スポーツの普及・サポート活動等を行っているCo-Act.が毎年2月に開催しているもので、パラリンピックの正式種目になっているボッチャ競技を通して、障害者と健常者の交流を図っているものです。特に今年は、東日本大震災による施設被害により、障害者スポーツを行う場所の不足という問題が深刻化していたため、障害者スポーツの機会提供も大きな念頭の

一つにし、今まで以上に多くの方々へ参加を呼びかけた結果、例年よりも多くのご参加を得ました。大会運営ではボランティアとして本学12名、東北福祉大14名、宮城教育大3名、東北学院大1名の協力をいただき、部員合わせて総勢50人体制で円滑に実施しました。施設面においても、ボッチャ競技の正規なコート面積よりも小さいコート4面だけしか作ることができなかった第1体育館から第5体育館に変更したことで、正規面積のコート12面取ることができ、時間にゆとりを持ち、参加者も伸び伸びとプレーすることができたそうです。

### 実行委員長の横山宗平さん（健康福祉4年）

「今大会ではロンドンパラリンピックへの出場を目指して真剣に競技に取り組んでいる方にも参加いただくことができ、他の参加者はその方から刺激を受けているようでした。また、福島県ボッチャ協会の方にボッチャの事前講習をしていただけるなど、来年に向けても良きステップになりました。」



写真提供：Co-Act.

# Monthly Report

Vol.71 / 2012 Mar.

## 東日本大震災から1年・・・



未曾有の大震災から1年が経った2012年3月11日(日)14時46分、昨年建立した慰霊碑の前に教職員が集結し、大震災の犠牲となった多くの方々に向けて黙祷を捧げました。その後、志半ばで津波の犠牲となった本学学生3名の名前が刻まれた慰霊碑に献花と焼香を行いご冥福をお祈りしました。

### 目次

東日本大震災から1年	1
平成23年度卒業式	2
退任される先生方による最終講義	3
グローバル・スポーツキャリアカンファレンス 2012	4
学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業	6
文科省にインターンシップ	7
学生表彰 学校支援ボランティア表彰	8
入学前交流セミナー	10

学生の活躍や、取り組みをご存知でしたら  
広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関  
にも旬な話題を提供していきたいと考えて  
おります。

本誌へのご意見・ご質問等がございま  
したら、広報室までご一報ください。

#### 広報室

直通 0224-55-1802

内線 佐藤美保 256

土生佐多 200

伊東宏之 271

Email:kouhou@scn.ac.jp

## 平成23年度 仙台大学卒業式



3月17日（土）に第5体育館において仙台大学卒業式「第42回体育学部卒業証書・学位記授与式並びに第13回大学院学位記授与式」を挙行之、体育

学部510名（体育学科292名、健康福祉学科110名、運動栄養学科71名、スポーツ情報マスメディア学科35名、台東大学とのダブルディグリー制2名）と大学院13名が学び舎を巣立ちました。今年度はダブルディグリー制度で初めて本学の学位を取得した台東大学（台湾）の学生2名にも学位記が授与されました。

<総代>

体育学科	白井雅子
健康福祉学科	横山宗平
運動栄養学科	沢田章太
スポーツ情報マスメディア学科	遠藤美郷
ダブルディグリー制	劉 姿伶
大学院	藤田雅士

### 学長賞

西村光生	漕艇部	宗像 陸	体操競技部
遠藤 光		石原 大	
小笠原沙織		佐藤 亘	
庄司文哉		佐藤世弥	サッカー部
入野谷圭太		森田光弥	
吉良朋恵		奥埜博亮	
小倉啓吾		引地敏生	
谷藤祐貴	平野洋輔		
松本紳司	B.L.S部	草刈大地	
細川沙智	柔道部		

### スポーツ功労賞(個人)

小山真男	トライアスロン部
宮原尚子	
兼子貴江	柔道部
菊池舞美	

### 文化功労賞

吉田朝美	学友会
------	-----

### 日本介護福祉士養成施設協会会長賞

田村翔平	健康福祉学科
------	--------

### 全国栄養士養成施設協会会長賞

平 沙知	運動栄養学科
------	--------



### 避難訓練を実施

卒業式の前日3月16日には東日本大震災を想定した避難訓練を行い、万が一の事態に備えて避難経路や教職員の誘導方針の確認が行われました。

幸い、卒業式では地震もなく、滞りなく式は終了しましたが、今後も教職員が災害への危機管理意識を高く持ち、安全な大学運営を図っていく所存です。

## 退任される先生方による最終講義



勇教授の順にご登壇いただきました。

本学3回生でもある横川教授からは「Sprinting」と題して、仙台大学の思い出とともに走るという基礎運動が陸上競技以外のスポーツにも必要であることやこれまでの研究結果が紹介されました。



永年にわたって小・中学校教諭、中学校校長を務められ

た後、本学で10年間教鞭をとられた佐伯教授からは「10年ひと昔」と題して、道德教育の重要性と、教員を目指す学生に向けて仙台大学の諸先輩方が築いてこられた教育現場での信頼と実績に自信を持ち、良い教員になってほしいとのメッセージが送られました。

仙台大学開学2年目から永年にわたって本学で教鞭をとられた宍戸教授からは「脚下照顧」と題して仙台大学の開学当時の思い出を写真とともに振り返った後、脚下照顧という言葉を念頭に自分の足元をしっかりと見るように学生に指導してきたことが語られました。

会場には教職員・学生合わせて約150名が聴講し、講演後には先生方に学生代表者およびサークルの代表者から花束が贈呈されました。



## 平成23年度学生表彰



3月5日(月)にKMCH大会議室において平成23年度学生表彰が行われ、スポーツ競技において国際大会出場または全国ベスト8以上の功績をあげた学生に対してスポーツ功労賞が贈られました。

※写真提供：学生課

### スポーツ功労賞(個人)

渡辺瑞基	B.L.S部	スケルトンアメリカズカップ第2戦 第5位
菊地貴志		スケルトンアメリカズカップ第1戦 第17位
米倉理絵		スケルトンアメリカズカップ第1戦 第4位
小林真衣		スケルトンアメリカズカップ第2戦 第10位
三上大輝		ボブスレーアメリカズカップ第4戦 第11位
山本収一	体操競技部	全日本学生体操競技選手権 跳馬第3位
松岡 真	漕艇部	世界ジュニア選手権 男子軽量級舵手なしクォドルブル第21位

### スポーツ功労賞(団体)

漕艇部	全日本大学ボート選手権男子エイト第2位 他
新体操競技部	全日本学生新体操選手権団体総合5位 他
サッカー部	全日本大学サッカー選手権ベスト8 他
体操競技部	全日本学生体操競技選手権団体総合4位 他
アメリカンフットボール部	全日本大学アメリカンフットボール選手権ベスト4

## 「グローバル・スポーツキャリアカンファレンス 2012 in Sendai」を開催 ＝仙台大学スポーツキャリア大学院プログラム＝

仙台大学大学院は2012年3月19日、日本のトップコーチやトップアスリートの「デュアルキャリア」を考える「グローバル・スポーツキャリアカンファレンス 2012 in Sendai」をフォレスト仙台にて開催しました。

このカンファレンスは、文部科学省の委託事業「競技者・指導者等のスポーツキャリア形成支援事業における『スポーツキャリア大学院プログラム』」の一環として開催されたもので、日本のトップコーチやトップアスリートのパフォーマンス・パスウェイ（国際競技力向上を指向する継続的な営み）におけるデュアルキャリア（高いレベルでのスポーツと将来に備えるための高等教育の両方の追求）の在り方について、情報共有や意見交換が行われました。

### 欧州で主要政策課題となっている「デュアルキャリア」

第1部では、「デュアルキャリア」という考え方の発祥の地である欧州の動向や事例について、ロンドンに駐在して我が国のスポーツの推進に関わる情報収集や現地関係者とのコミュニケーションを行っている日本スポーツ振興センター（NAASH）国立スポーツ科学センターの中村宏美氏から、英国におけるデュアルキャリアに関する取り組みや、欧州連合（EU）におけるデュアルキャリア推進の背景について情報提供をいただきました。

英国では2003年にTASS（Talented Athlete Scholarship Scheme）という公的機関が設立され、2012年ロンドンオリンピックに向けて発掘・育成・強化されるアスリートが、ロンドン大会で活躍するだけでなく適切に将来への選択肢を持ちうるように、各競技団体や11の拠点大学等との連携を図りながら、エリートトレーニングと学生生活の両方をサポートしていることが紹介されました。またエリートアスリートのデュアルキャリアは欧州委員会

（EC）の主要政策課題の一つとなっていることも報告されました。



### YOGを通して考える、次ステージへの「レディネス（準備）」

第2部では、「デュアルキャリア」を支援するスポーツキャリア大学院プログラムの具体的な形を検討する上での主要テーマである「グローバルに活躍する人材の次ステージへの『レディネス（準備）』」とは何かについて、海外調査報告とディスカッションを行いました。

2012年1月にオーストリアのインスブルックで開催された第1回ユースオリンピック冬季競技大会（YOG）を現地視察した松井陽子氏（日本オリンピック委員会）や岡田成弘先生（本学助教）から、14歳から18歳を対象とした国際総合競技大会の新たな取り組みである「文化・教育プログラム（CEP）」について報告。国際オリンピック委員会（IOC）がCEPのコンセプトやプログラムを通じて、オリンピックへの参加が期待される若いアスリートが将来、各国を代表するロールモデルとしてどのような素養や知識・能力を獲得してほしいと考えているか、またその狙いに対して、参加をしたアスリートたちがどのようにそれを受け止めたかなどの情報や課題が共有されました。その上で、粟木一博先生（本学教授）のコーディネートにより、そこから考える「レディネス（準備）」のあるべき姿とそれを満たすための大学院プログラムのあり方が検討され、今後に向けた一つの方向性が導きだされました。



## 競技をしながら学ぶことのはざまにある 「不安」と「挑戦」

第3部の「トップコーチ&アスリート談義」では、ここまで検討されたことを踏まえて、スポーツキャリア大学院プログラムの対象となるトップコーチやトップアスリートに参加をしていただき、自身のキャリア形成に関わる現状や置かれた状況や意識、これまでに関わる現状や置かれた状況や意識、これまでに取り組んできたこと、今後挑戦していこうと考えていること、そして本学スポーツキャリア大学院に期待することなどについて、フェンシングのオリンピックである池田めぐみさんのコーディネートで自由に談義していただきました。

このセッションには、この春に本学大学院へ入学を予定しているスキーフリースタイル・エアリアル競技のトップアスリートである南隆徳さんも参加しており、2014年ソチ冬季オリンピックを目指しながら大学院へ進学しようと思った理由が語られました。「トップレベルで競技をしながら学ぶことは、きっと自分のパフォーマンスに良い影響を与えてくれるんじゃないかと思う」という言葉からは、不安ながらも新たな挑戦をしていこうとするアスリートとしての気概が感じられました。

本学はスポーツキャリア大学院プログラムの成果の一つとして学則に「長期履修学生制度」を新設。南選手は本制度を利用して4年間の計画でデュアルキャリアのプログラムを実践していく予定となっています。

なお、本セッションには、第2部で紹介され

たYOGに、IOCの被災地支援「TSUBASA」プロジェクトの一員として招待され、各国からの参加者とともに「文化・教育プログラム」を体験した宮城県の3名の中学生や、本学のタレント発掘・育成プロジェクトである「伊達なSPORT PROJECT」で発掘・育成されYOGに参加した柴田高校の3名もゲスト参加。YOGでの経験や今後の自身のキャリアについて、中高生の目線から思いの丈を述べてくれました。



## いよいよ始動＝仙台大学スポーツキャリア大学院プログラム

仙台大学大学院は、このカンファレンスで新たに得られた知見や参加者の皆様からのご意見やご提案を踏まえ、来年度から本格的に始動するスポーツキャリア大学院プログラムが日本のトップコーチやトップアスリートの次のステージへの「レディネス（準備）」を支えるプログラムになるよう準備を進めています。

昨年度の活動報告は、仙台大学ウェブサイト <http://www.sendaidaigaku.jp/> からご覧いただけます。またカンファレンスの様子（写真）やレポートについては、スポーツキャリア大学院プログラムのfacebookページ <http://ow.ly/9VekT> でも順次公開していきますのでぜひアクセスしてください！

報告 阿部篤志講師

### 「グローバル・スポーツキャリアカンファレンス 2012 in Sendai」プログラム

#### Session 1 「パフォーマンス・パスウェイとデュアルキャリアの国際動向」

中村 宏美氏 独立行政法人日本スポーツ振興センター (NAASH) ロンドン事務所駐在  
国立スポーツ科学センター (JISS) スポーツ情報研究部 研究員

#### Session 2 「グローバルに活躍する人材の次ステージへの『レディネス』とは」

松井 陽子氏 公益財団法人日本オリンピック委員会 (JOC) 拠点ネットワーク・  
情報戦略事業 タレント発掘・育成支援 アシスタントディレクター  
栗木 一博 仙台大学教授、スポーツキャリア大学院プログラム開発プロジェクトメンバー  
岡田 成弘 仙台大学助教、同上

#### Session 3 「トップコーチ&アスリート談義」

東野 智弥氏 バスケットボール男子日本代表アシスタントコーチ  
池田めぐみ氏 オリンピアン、財団法人山形県体育協会スポーツ技術員、JADAアスリート委員  
南 隆徳氏 スキーフリースタイル・エアリアルナショナルチーム  
「伊達なSPORT PROJECT」佐藤弾さん、野倉大貴さん、安藤早紀さん（柴田高校2年）  
「TSUBASA」IOCサポートプロジェクト」佐藤奈々子さん（宮城教育大学付属中3年）  
伊藤翠空さん（富谷町立富谷第二中2年）  
藤井香乃さん（宮城学院中2年）

## 文部科学省委託事業平成23年度学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業(スポーツ・レクリエーション活動の支援)



現在、仙台大学は文部科学省委託事業平成23年度学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業(スポーツ・レクリエーション活動の支援)宮城県実行委員会(仙台大学、宮城県教育委員会、宮城県体育協会、宮城県レクリエーション協会)の中核団体として支援活動を行っています(委員長:丸山富雄教授・大学院研究科長)。

仙台大学を中心とした実行委員会では、「地域にスポーツ活動の企画・立案等に従事する人材を配置し、スポーツ・レクリエーションによる交流を通じて住民一人ひとりの心身の健康及び体力の保持増進に資する取組を支援するとともに、地域コミュニティの再生を図る」の趣旨の下、石巻市、富谷町、七ヶ浜町、多賀城市、名取市、気仙沼市、角田市、女川町、亘理町、山元町の総合型



地域スポーツクラブやスポーツ団体に対して、経費・人材・プログラム・ノウハウ等の支援を行っています。

今回事業の対象となっている地域では、津波被

害や仮設住宅の建設等で体育・スポーツ施設が十分ではなく、また地域から一步外に出た活動をしたいという要望もあり、現地に入っていく支援活動以外にも、仙台大学のキャンパスを活用した支援事業も行っています。

3月14日(水)には女川町、18日(日)には角田市、20日(火)には亘理町と気仙沼市から多くの地域住民の方を大学にお招きし、スポーツ・レクリエーション活動を行うなど心身ともにリフレッシュしていただきました。

参加した方々からは、「バスによって久しぶりに外の景色を楽しむことができた」「専門的な指導をしていただいて良かった」「親子で行うレクリエーション活動が楽しかった」「施設が立派でびっくりした」等々の感想をいただきました。

この事業は、被災地支援として国の平成23年度第3次補正予算によって成立した事業であり、1月から3月の短期間で実施する事業となっています。なおこの事業は、平成24年度も継続して実施される予定です。



報告:馬場宏輝准教授  
(スポーツマネジメント・コース主任、  
宮城県実行委員会副委員長)

## 陸上自衛隊船岡駐屯地より感謝状



3月28日(水)、陸上自衛隊第二施設団長兼船岡駐屯地司令の秋山淳陸将補が学長室を訪れ、朴澤学長に感謝状と記念楯が贈呈されました。

今回の感謝状は自衛隊の使命に深い理解を示し、防衛基盤の育成への尽力と、駐屯地の各種行事に対し積極的な支援を行い充実発展に貢献したことと、東日本大震災に際して被災した隊員家族に避難場所を提供した行動に対して贈られたものです。

## 学生2名が文部科学省にインターンシップ



学生2名が文部科学省の平成23年度春期インターンシップ実習（2月13日～24日）に参加しました。文部科学省でのインターンシップ（就業体験）受入れは平成11年度からはじまり、平成14年度からは春期と夏期の年2度実施されていますが、本学学生が参加するのは初めてのことです。参加したのは、伊藤ありささん(スポーツ情報マスメディア学科3年)と猪狩薫さん(体育学科2年)です。国立スポーツ科学センターや味の素ナショナルトレーニングセンターなどスポーツの現場への就職を希望している伊藤さんはスポーツ・青少年局競技スポーツ課、日本体育協会への就職を希望している猪狩さんはスポーツ青少年局スポーツ・青少年企画課／体育参事官での職務体験を行いました。

2人はインターンシップ期間中、仙台大学東京事務所に宿泊しながら活動しました。東京事務所では学生が東京で就職の活動拠点としての、学生の学習スペースとしてパソコン数台も用意しています。セキュリティ等の関係で東京事務所への出入りは事前連絡が必要となりますが、都市部で

の活動拠点には最適な場所にありますので、教職員の皆様には学生への周知をお願い致します。

**伊藤ありささん(スポーツ情報マスメディア学科3年／古川黎明高卒)**

文部科学省のインターンシップに参加したのは、文部科学省の事業の一つであるタレント発掘事業に関わっていることもあり、文部科学省の仕事に興味を持っていたからです。特にスポーツ・青少年局競技スポーツ課は国際的な競技力向上に関わる部署で、オリンピックでのメダル獲得も大きな目的としています。そのような現場で学べたことは大きな経験となりました。このインターンシップを経て、自分は日本のスポーツの最前線で仕事がしたいのだと強く思うことができました。

**猪狩 薫さん(体育学科2年／桜の聖母学院高卒)**

スポーツ青少年局スポーツ・青少年企画課は会議の企画、会場の設置や準備、武道教育必修化等に伴う問い合わせも多く入っていました。インターンシップの仕事内容は毎日が新鮮で、子どもの体力低下が叫ばれる現在、こういうところが支えているのだと実感することができました。今回のインターンシップを通して、パソコンの知識の必要性を感じたとともに行政をもっと学びたいと思いました。今回、東京事務所を拠点に活動させていただきましたが、とても快適に過ごすことができました。東京で就職活動する他の学生も利用すべきだと思います。

## 学校支援ボランティア感謝状贈呈式

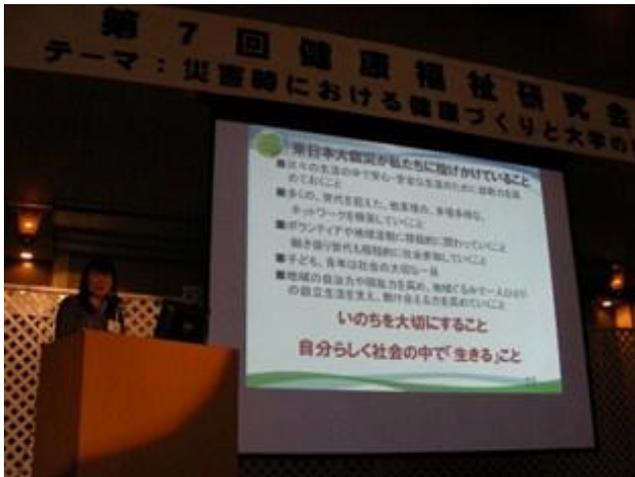


3月16日(金)に第5体育館大会議室において学校支援ボランティア感謝状贈呈式が行われ、小・中学校で学習支援や部活動支援を行った学生に対して教育委員会の担当者の方より感謝状が贈呈されました。今年度は仙台市教育委員会15名、岩沼市教育委員会24名、柴田町15名、そして今年度提携を結んだ大崎市教育委員会から6名の学生が感謝状を授与されました。

写真提供：学生支援室

## 第7回 健康福祉研究会

～災害時における健康づくりと大学の役割～



3月9日(金)に仙台ガーデンパレスにおいて第7回健康福祉研究会が開催されました。健康福祉研究会は健康福祉学科の学生、卒業生、教員および関連の方々の学習研さんの場として毎年開催されています。今回は昨年発生した東日本大震災を受けて、「災害時における健康づくりと大学の役割」をテーマに行われ、約200名が参加して理解を深めました。

研究会でははじめに仙台大学災害ボランティア活動の事務局の中心を担った山谷教授より、本学が行った災害ボランティア活動の取組みが紹介された後、介護福祉士養成課程を専攻している健康福祉学科の学生と、健康づくり運動サポーターの学生から詳細な活動報告がなされました。

その後、健康福祉学科4年生で七ヶ浜町社会福祉協議会の小野哲氏より、七ヶ浜町の被害状況や社会福祉協議会が行った災害ボランティアセンターでの活動内容等が紹介され、「被災者と住民との交流の場を作ることが大事」などとの話が発表されました。



小野哲氏

最後に特別講演として、美里町社会福祉協議会地域福祉係長の浅野恵美氏から、「地域の健康づくりと仙台大学の役割 災害ボランティアの視点もふまえて」のお話をいただきました。浅野氏は美里町が本学協力のもと開催している「みさと元気塾」を担当しているご縁から、避難所等についての相談が橋本教授に寄せられることから本学が美里町や女川町でエコノミークラス症候群予防体操指導に携わることになった経緯があります。講演では、東日本大震災を教訓に、世代を超えた他業種、多種多様なネットワークづくりを構築していくことの大切さや、地域の自治力や福祉力を高め、地域ぐるみで一人ひとりの自立生活を支え、助け合える力を高めていくことの必要性を強調されました。

## 健康づくり運動サポーター認定証書授与式



3月16日(金)にC201教室において健康づくり運動サポーター認定証書授与式が執り行われ、取得者一人ひとりに朴澤学長から認定証書が授与されました。今回認定されたのはベーシックコース10名とアドバンスコース2名、上級コース3名の合計15名で、健康福祉学科だけでなく他学科の学生も大勢取得しました。健康づくり運動サポーターは4月から東日本大震災で被災した亘理町、美里町、女川町の避難所を回り、エコノミークラス症候群予防体操指導を行い、避難所が解散後は同町の仮設住宅での活動を毎週続けています。今後もこの活動の中心として活躍することが期待されます。

## エコノミークラス症候群予防体操指導に参加した学生に地域健康づくり支援センターより災害ボランティア表彰



3月16日（金）に災害ボランティアとして避難所や仮設住宅でエコノミークラス症候群予防体操

指導を行った学生に対して地域健康づくり支援センターより感謝状が贈られました。地域健康づくり支援センターでは東日本大震災後に亙理町、女川町、美里町の各避難所でエコノミークラス症候群予防のために教職員と学生を派遣してきました。避難所閉鎖した現在も仮設住宅での活動を継続しており、この活動は仮設住宅が閉鎖されるまで行う予定です。

今回の表彰は、授業や就職活動の合間をぬって活動した学生に感謝を表したものです。なお、多くの学生が積極的に活動に参加し、中には100回を超えて活動しました。

## 海外研修(デンマーク)に学生2名が参加



2月7-20日の日程でデンマーク研修が実施され、四釜千尋さんと三浦多輝美さん（共に健康福祉学科2年）が参加しました。現地では高橋まゆみ准教授と親交が深く、本学でもご講演いただいたこともある日欧文化交流学院(ノーフュンホルケホイスコーレ)の千葉忠夫理事長にご尽力いただき、日欧文化交流学院に4日間、バーノップホルケホイスコーレに10日間滞在し、他の留学生とともに寮生活を行いました。この間、リハビリセンターや作業所、市庁舎、ロースンゴースン小学校などの見学も行い、福祉先進国の素晴らしい社会に感動を覚えたようです。

### 四釜千尋さん（健福2年／村田高卒）

高校でも介護福祉の勉強をしてきたので、ノーマライゼーションを提唱しているバンク・ミ・ケルセンに関心があり、デンマークは行ってみたい地でした。デンマークでは介護する側もされる側も一人ひとりが楽しんで自分ができることを探して一生懸命活動しており、笑顔が溢れていたのが印象的でした。私も障害者のボランティアを行っています、見習うべき点がいくつもありました。

また、デンマークでは寝たきり老人がほとんど

いません。これは、デンマークの病院では手術後に在宅リハビリが基本で、入院期間は最長でも6日しか取りません。手術の翌日にはリハビリをはじめると筋力低下もせず、障害者の関節が固まったりしない。これは介護する側にとっても負担が少ないことにつながり、理想的だと思いました。

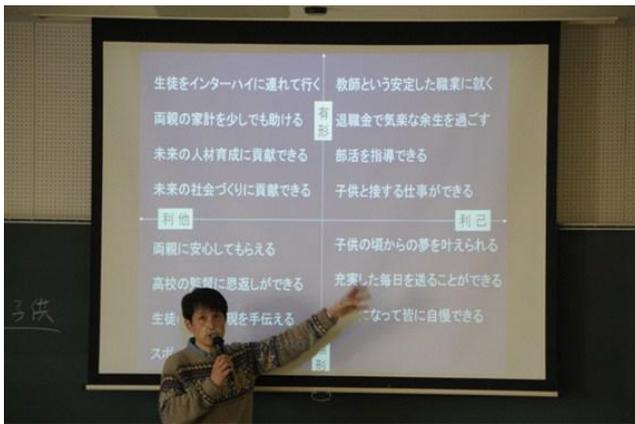
卒業後は特別支援学校教諭を志望していますが、障害者の楽しい生活を支援できるように支える。10人いれば10通りの幸せがあるので、各々が考える楽しい生活を伝えてもらい、それを実現できるようにサポートしていきたいと感じました。

### 三浦多輝美さん（健福2年／宮城広瀬高卒）

高校の時にアメリカに2週間滞在したことがあるのですが、語学力不足で現地の方とコミュニケーションが取れなかった経験から再度、英語圏に行きたいと思っていました。また、卒業後は養護教諭を志望しているので、養護の基礎である介護の先進国であり、「幸せな国」と呼ばれるデンマークの教育や社会を肌で感じたいと思い、今回の研修に参加しました。

今回の海外研修で印象的だったのは、デンマークの教育は1つの答えを導くのではなく、様々な考え方を創造させる教育だと感じました。日本では1+1=2という答えだけですが、デンマークでは他にも答えがあるのではないかと創造させるという教育をしているように感じました。私は子供たちの色々な考え方を尊重した養護教諭になりたいと思うことができました。

## 新入生対象“入学前交流セミナー”初開催



3月29日（木）に平成24年度スポーツ情報マスメディア学科、現代武道学科の入学予定者を対象にした「入学前交流セミナー」がE棟3階の3教室を使って開催されました。このセミナーは新入生が有意義な学生生活を送るために必要な知識や心構えを学ぶことと、新しい友人との交流を深めることを主目的として初めて開催されたものです。

参加は任意でしたが、7割を超える53名の参加がありました。セミナーは3部で構成され、セミナー①では入試創職部の中房部長が講師を務め、新入生同士が打ち解けるためのコミュニケーションゲームが行われた後、大学生に求められる心構えなどについて説明がなされました。その後、昼食をはさんでスポーツ情報マスメディア学科と現代武道学科で教室を分け、学科毎の趣向を凝らしたセミナーが行われました。

セミナーは9時30分～16時までと長時間でしたが、この一日で新入生同士がだいぶ打ち解けた様子でした。4年間の学生生活を充実したものにするための貴重なセミナーとなったことでしょう。



## 消防訓練を実施



3月30日（金）柴田消防署の協力の下、消防訓練を実施しました。今回の訓練は学生食堂から火の手が上がったという想定で実施され、実際に119番への通報も行いました。

本番さながらに火災消火班や避難誘導班、情報連絡班がそれぞれの持ち場である火元や守衛室に駆けつけ、その他の教職員は噴水前に避難しまし

た。全員避難後、柴田消防署員より消火器と消火設備取扱いの説明があり、火災消火班が実際に放水を体験しました。

最後に消防署員の方より通報する際の注意点や放火されない環境づくりの徹底のアドバイスがありました。

一番は火災を起こさないことですが、万が一起きた場合の初期消火の徹底と迅速な避難誘導等が求められます。



写真の消防官署員は本学OBの田中大登さん  
（平成21年度運動栄養学科卒）

## 海外研修報告

報告者；内丸仁（体育学科・講師） Jin Uchimar, Ph. D. , Visiting Scholar

研修機関；コロラド大学・高地研究センター

Altitude Research Center Department of Emergency Medicine

University of Colorado School of Medicine

研修期間；2011年9月～2013年3月



低圧チャンバー内で

コロラドに来てからあっという間に7ヶ月が過ぎました。はじめは、研修先の研究所の進め方など慣れないことが多く、戸惑いもありましたが、スタッフのサポートもあり、すぐに研修に集中することができました。しかし、それ以上に大変だったのがコロラドでの生活環境を準備することでした。どんな手続きをするにも身分証明書（こちらではソーシャルセキュリティナンバー

（SSN）かアメリカでの運転免許証）の提示を求められます。この身分証明書がないと手続きができないこともあり、当然のことながら、コロラドに来た当初はこれらの身分証明書はなく、SSNの発行には少なくとも1ヶ月はかかるために（私は3ヶ月かかりました）、色々な手続きに困難を要し、およそ3ヶ月も生活環境を整えるのに時間がかかりました。

さて、研修の近況ですが、現在、4月から8月までの期間に実施する研究プロジェクトがスタートするところで、その実験方法の確認や準備等に取り組んでいるところです。このプロジェクトは、研究所内の施設で実施するのではなく、実験場所を平地のオレゴン州と高地のボリビア（南米）に移して実験を行います。したがって、研究者、測定機材や被験者がそれぞれの現地に移動し、実験場所をセッティングして研究を行います。研究所の研究スタッフは、実験そのものについての準備を行うのは当然のことですが、他に、リサーチマネージャーが中心となり荷物の梱包や輸送、現地までの交通、現地での宿泊や食事の手配、保険

加入、予防接種の準備などをしております。ただし、担当者だけが理解して準備しているだけではなく、スタッフ全員でそれぞれの準備状況を確認・把握しながら進めているところです。

実験準備をする中で感じていることなのですが、我々が使用する実験機材は年々発展しており、その機能性は多岐にわたっています。しかしながら、今回の研修で改めて考えさせられることは、昔ながらのオーソドックスな測定機材や手法がいかに優れているかということを実感しています。つまりは、誰でも簡単に使用することが出来、機材にトラブルがあったとしても問題を解決できること、そして、測定の精度も非常に高いということです。勿論、近年の高性能の機器も非常に魅力的なのですが、今回のプロジェクト研究は、研究の場所を移動しての研究となるために、これらのことをより強く実感しております。

また、ここコロラドも徐々に春らしくなり、多くの人がスポーツをする姿が見られるようになってきました。アメリカのプロスポーツは、野球、バスケットボール、フットボール、サッカー、アイスホッケーがありますが、ここコロラドはすべての種目のプロチームがあり、スポーツに関することには事欠かないところです。スポーツを通して、実際にスポーツをプレーして楽しむだけではなく、見て楽しむということも身近で感じることができ、あらためて、スポーツの力を実感しております。

体育大学の教員として、自身の視野を広げていくためにも、様々な視点からのスポーツを知り、研究、教育、地域社会への活動の場で活かせるようにしたいと考えております。



予備実験風景（中央は研究所のリーダー）



研究所スタッフ

## フィンランド・カヤーニ応用科学大学から3名の短期留学生在が来訪

3月15日ー4月5日の日程で、フィンランドのカヤーニ応用科学大学からの留学生3名が本学を訪れています。同大学と本学は平成18年に国際交流協定を結び、以後毎年、互いの学生を短期交換留学生として受け入れています。滞在中は英語での講義やサークル活動に参加するほか、学生同士の交流や日本文化体験、柴田町内の小中学校訪問、被災地見学等のプログラムが実施されています。



## 全国に広がるコ・アクトの活動



障害者スポーツサポート研究部Co-Act.(以下：コ・アクト)は、自動車総連と(財)国際障害者年記念ナイスハートふれあい基金が主催するからの依頼により全国各地で開催される「ナイスハートふれあいスポーツ広場」の講師を務めています。平成23年度は神奈川、大阪、茨城県など7府県で活動し、今月7日に沖縄県で行われたイベントにも部員5名が参加しました。提供するの部員が考案したニュースポーツで、キンボールを使った「キンボールリレー」やフライングディスクを使った「巨大オセロ」などのオリジナルゲームで会場を盛り上げました。イベントに参加する毎に次のイベントにつながる反省点が出ているようで、沖縄のイベントでは予想を上回る700名を

超す動員があったそうで、参加者を整列させるだけでも苦労したそうで、限られた時間でどうするのが効率的なのかをイベント終了後に時間をかけて考えたそうです。「ナイスハートふれあいスポーツ広場」の活動を通して学ぶことは多く、コ・アクトの日ごろの活動に生かしているそうです。

「ナイスハートふれあいスポーツ広場」の活動は平成24年度増えることが見込まれており、5月、6月の2か月だけでも既に4件の派遣が決まっています。横山宗平さん(健康福祉4年)は「コ・アクトの活動が全国に広がっているのは嬉しいことですが、支給される金額によって派遣人数も限られてしまいます。後輩たちには部員全員が経験を積めるように工夫して活動してもらいたい。」と話しています。



<沖縄県での活動に参加した学生>  
 横山宗平さん(健康福祉学科4年)  
 志賀亜梨沙さん(健康福祉学科3年)  
 高橋舞さん(健康福祉学科3年)  
 神田晃伸さん(健康福祉学科3年)  
 朝井寛輝さん(運動栄養学科3年)

## 柔道部の鈴木真佑さんが体重別国内最高峰の大会に出場

柔道部の鈴木真佑さん(体育学科1年/京都文教高卒)が5月12、13日に福岡国際センターで開催される「平成24年全日本選抜体重別選手権大会」女子52kg級に出場することが決まりました。この大会は体重別の国内最高峰にあり各階級の選抜された8名



で杯を競います。今年に限ってはロンドンオリンピック出場者を決める最終選考もかかる大会です。本学在学中にこの大会に出場するのは、3年生で出場した田中美衣選手(了徳寺学園職員)に次ぐ2人目の快挙です。

鈴木さんは田中美衣選手と学校は違いますが滋賀県出身で京都府の高校を卒業して本学に進学したという共通点があり、高校まで全国の舞台で主だった成績を残せていないという点でも似ています。しかし、南條和恵女子監督も「鈴木は伸び代があるので田中選手と同じぐらい成長する可能性を秘めた選手」と期待を寄せています。

この大会の63kg級にはロンドンオリンピック出場を目指す田中選手も出場しますので、是非ご注目ください。

写真提供：南條和恵監督

## 仲田直樹助教が2年連続で全日本選手権に出場

4月29日に体重無差別で日本一を決する「平成24年全日本選手権大会」が日本武道館で開催され、仲田助教が東北地区代表として2年連続で出場します。この大会は日本で最も歴史ある大会で、この大会に出場することは、たいへん名誉あることです。

4月15日には「第27回皇后盃全日本女子選手権大会(会場：横浜文化体育館)」もあり、こちらには菊池舞美さん(体育学科4年)と渡邊悠季さん(体育学科3年)が出場します。あわせて、ご注目ください。

### 仲田助教

今年も名誉あるこの大会へ参加できることを光栄に思います。今年、東北予選の2週間前に怪我をしてしまい、その時は腕も上がらない状態でした。そして、実戦の乱取練習を十分にこなせないま



ま試合を迎えたため多少の不安はありました。しかし、今の代表選手は強行スケジュールで試合をこなし、怪我も十分に治せないまま我慢強く戦っていることを考えればこの程度で根を上げるわけにはいきませんでした。

本大会は、日本武道館に一試合場しか設営されないため会場全体が自分の柔道を見てくれます。自分にはないものは出てきませんが、持っているものは全て畳においてきたいと思います。仙台大学の学生にもいいところを見せたいと思います。



左：菊池舞美さん

右：渡邊悠季さん

## 細川優樹さん Vプレミアリーグでの活躍を誓う



細川優樹さん(平成23年3月体育学科卒)が3月14日(水)に広報室に立ち寄り、仙台大学のために色紙にサインを書いてくれました。この4年間で多くの教職員の方々に支えていただいたおかげで卒業を迎えることができ、目標であったVプレミアリーグのチームに入団することができたことへの感謝の念を話していました。

既に12月から開幕したVプレミアリーグでは内定選手としてチームの主力としてスタメンで出場しており、既にチームの戦力として活躍しています。チームはプレミアリーグ全8チームで最下位でしたが国内トップ選手との対戦を肌で経験できたようです。

「12月からスタメンで出させてもらい、チーム

の代表として試合に出場できる嬉しさを実感すると同時に、責任を強く感じています。チームのためにセッターとのコンビネーションを合わせ、私の持ち味であるスパイクの精度を上げていきたいです。また、レセプションのレベルを上げて、攻守のできる選手になりたいです。3月31日、4月1日に行われるリーグ入れ替え戦「チャレンジマッチ」で、つくばユナイテッド Sun GAIAとプレミアリーグ残留を掛けて対戦します。残留を決め、バレーボールのビッグタイトルである天皇杯、黒鷲旗で頑張りたいです」と話してくれました。

細川さんに大きく羽ばたいてもらいたいと願うばかりです。なお、サイン色紙は広報室の他、KMCH、運動栄養学科新助手研究室にも飾られています。

